

小平市の特別支援教育に関する アンケート調査報告書

令和7年4月
小平市教育委員会

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	アンケートの調査対象及び抽出方法	2
3	実施方法にあたっての留意事項	2
4	調査期間	2
5	配布・回収状況	3
6	調査結果の見方	3
II	調査結果	5
1	基本情報	6
	【設問連番1】在籍学年	6
	【設問連番2】在籍学級	8
	【設問連番3】こどもが各学級・教室で指導を受けていることで、良かったと感じているところ	9
	【設問連番4】各学級・教室についての満足度	11
	【設問連番5】小平市教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組についての評価	15
2	共生社会の実現に向けた教育について	21
	【設問連番6】学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っているか	21
	【設問連番7】交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信は十分だと思うか	22
	【設問連番8】学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めているか	23
	【設問連番9】学校において行われている交流及び共同学習を通じて、こどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったか	24
	【設問連番10】交流及び共同学習を通じて互いを知ることができたと感じるか	25
	【設問連番11】通常級と特別支援学校・支援級の児童・生徒と一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていること	26
	【設問連番12】学校において行われている副籍交流の取組内容について知っているか	27
	【設問連番13】副籍交流の取組について、学校からの情報発信は十分だと思うか	28
	【設問連番14】副籍交流とはどのようなものか知っているか	29
	【設問連番15】学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めているか	30
	【設問連番16】学校において行われている副籍交流を通じて、こどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったか	31
	【設問連番17】障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことはなにか	32

3	学校での支援体制について	34
	【設問連番 18】「学校生活支援シート」を活用しているか	34
	【設問連番 19】「学校生活支援シート」の学校以外の機関への情報提供は十分行われていると感じるか	36
	【設問連番 20】「個別指導計画」に基づいた指導や支援が行われていると感じるか	37
	【設問連番 21】「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校間で十分に情報共有できていると感じるか	38
	【設問連番 22】「こげら就学支援シート」を活用しているか	40
	【設問連番 23】読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実しているか	42
	【設問連番 24】学校において、読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実しているか	42
	【設問連番 25】読むこと、書くことが難しいか	43
	【設問連番 25-1】そのことに対して、先生は自分に合った方法で教えてくれるか	44
	【設問連番 26】読み書きに困難がある児童・生徒にどのような配慮を行っているか	45
	【設問連番 27】学校において、合理的配慮の理解・啓発の推進、対応ができているか	46
	【設問連番 28】学校で生活する上で、助けてほしいことはあるか	47
	【設問連番 28-1】そのことに対して、先生は対応してくれているか	48
	【設問連番 29】保護者や児童・生徒から合理的配慮の要望があったか	49
	【設問連番 30】配慮した内容	50
	【設問連番 31】ICT 機器を使った授業はわかりやすいか	51
	【設問連番 32】ICT 機器の拡充による学習支援ができているか	52
	【設問連番 33】ICT 機器の拡充によりどのような学習支援を行っているか	53
	【設問連番 34】特別支援教育を推進するにあたり、どのような研修が必要だと感じているか	54
4	学校と関係機関との連携について	55
	【設問連番 35】学校以外でこどもの居場所となっている場所はあるか	55
	【設問連番 36】放課後に自宅以外で過ごしている場所はあるか	57
	【設問連番 37】学校と関係機関での連携や情報共有が図られているか	58
	【設問連番 38】学校と関係機関で共有すべきと感じることはなにか	60
	【設問連番 39】どのような関係機関と連携しているか	61
	【設問連番 40】放課後等デイサービスとの連携や情報共有の頻度	62
	【設問連番 41】放課後等デイサービスとの連携や情報共有の方法	62
	【設問連番 42】放課後等デイサービスと連携や情報共有する上での課題	63
	【設問連番 43】児童発達支援センターの認知度	63
	【設問連番 44】特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターの関係に期待するものは何か	64
5	相談先について	65
	【設問連番 45】こどものことは誰に相談しているか	65
	【設問連番 46】保護者の相談先は十分であるか	67
	【設問連番 47】児童発達支援センターの認知度	68

【設問連番 48】 児童発達支援センターでこどもの発達について相談してみたいと思うか...	69
【設問連番 49】 特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターの關係に期待するものは何か	70
【設問連番 50】 学校で困りごとがあったときに、誰に相談するか.....	71
【設問連番 51】 指導方法について悩んだ場合、誰に相談しているか.....	72
6 自由意見	73
【設問連番 52】 自由意見	73

Ⅲ 調査票..... 83

1 市立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒及び保護者	84
2 特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級に在籍する児童・生徒及び保護者..	94
3 通常の学級に在籍する児童・生徒の保護者	105
4 通常の学級に在籍する児童・生徒	110
5 市立小・中学校に在籍する教員	113
6 小平市内在住で小平及び小金井特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者 ..	120

I 調査の概要

1 調査の目的

令和8年度から令和12年度までの「小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）後期計画」の策定にあたり、現状を把握するための必要な基礎資料の作成を目的として実施しました。

2 アンケートの調査対象及び抽出方法

- (1) 市立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒及び保護者
すべての在籍児童・生徒及びその保護者（286世帯）
- (2) 特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級に在籍する児童・生徒及び保護者
すべての在籍児童・生徒及びその保護者（688世帯）
- (3) 通常の学級に在籍する児童・生徒の保護者
以下の①から③の方法で計9校を抽出し、小学校においては第5学年の任意の1学級、中学校においては第2学年の任意の1学級を対象（280名）
 - ①知的障がい特別支援学級設置校の小・中学校からそれぞれ2校を無作為で抽出
 - ②特別支援学級未設置校の小・中学校からそれぞれ2校を無作為で抽出
 - ③自閉症・情緒障がい特別支援学級設置校である小平市立小平第四小学校
- (4) 通常の学級に在籍する児童・生徒
(3)と同様（280名）
- (5) 市立小・中学校に在籍する教員
全市立小・中学校に在籍する教員を対象に無作為で抽出（100名）
- (6) 小平市内在住で小平及び小金井特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者
小平市内に在住する小学部または中学部に在籍する児童・生徒の保護者（176名）

3 実施方法にあたっての留意事項

- (1) 上記2の(1)及び(2)の児童・生徒については、保護者へのアンケート調査票内に児童・生徒へのアンケート項目を設け、保護者付添のもとで可能な限りで回答を得ました。
- (2) 調査票をWEBアンケートフォームで作成し、回答用URLを記載した調査依頼文書を各学級から保護者に配付しました。また、依頼文書にID・パスワードを付番し、重複回答を防止しました。
- (3) 調査票回収にあたり、各学校から1回程度のリマインドを行いました。

4 調査期間

令和6年10月30日～11月30日（調査期間延長を行った）

5 配布・回収状況

	配付数	回収数	回収率
①市立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒及び保護者	286	94	32.9%
②特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級に在籍する児童・生徒及び保護者	688	291	42.3%
③通常の学級に在籍する児童・生徒の保護者	280	100	35.7%
④通常の学級に在籍する児童・生徒	280	97	34.6%
⑤市立小・中学校に在籍する教員	100	58	58.0%
⑥小平市内在住で小平及び小金井特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者	176	75	42.6%
合計	1,810	715	39.5%

6 調査結果の見方

- 図中の「n」は、当該設問の回答者数を表します。対象を限定した設問では、「n」の値が全体の回答者数より小さくなります。
- 集計した数値（％）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。
- 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0%を超えます。
- 回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることにご留意ください。
- 回答者区分について、2の（1）を特別支援学級、（2）を特別支援教室・難聴言語、（3）及び（4）を通常の学級の【児童・生徒】または【保護者】と表記し、（5）を【教員】、（6）を特別支援学校【保護者】と表記しています

Ⅱ 調査結果

1 基本情報

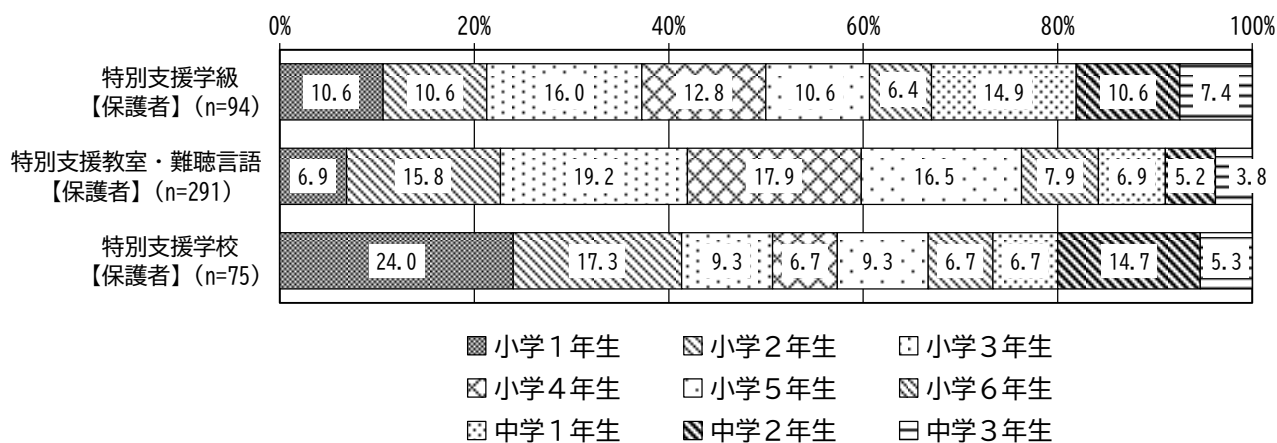
【設問連番1】在籍学年

【保護者】特別支援学級【問1】、特別支援教室・難聴言語【問1】、特別支援学校【問1】
 設問 お子さんが在籍している学年をお答えください。(1つ選ぶ) ★必須回答

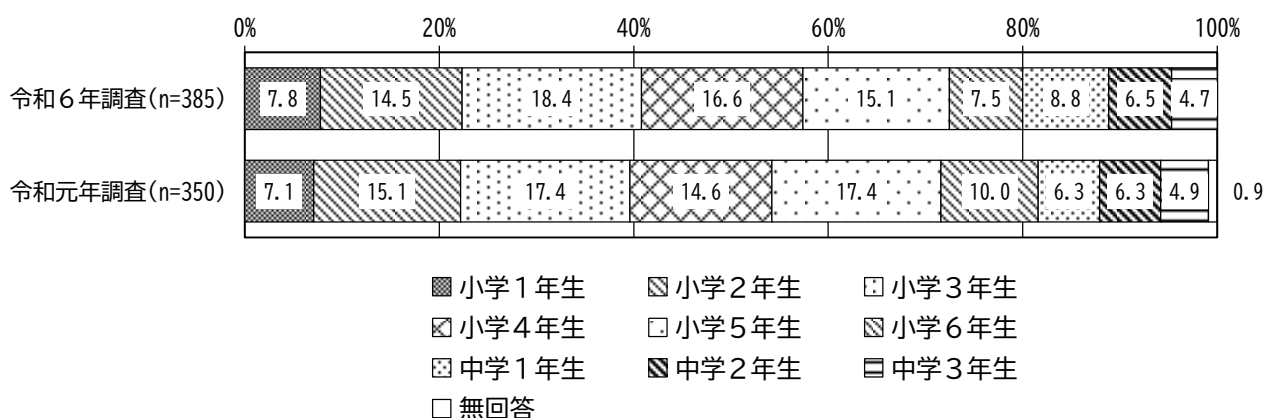
特別支援学級【保護者】では、小学1～6年生が67.0%、中学1～3年生が32.9%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、小学1～6年生が84.2%、中学1～3年生が15.9%となっています。

特別支援学校【保護者】では、小学1～6年生が73.3%、中学1～3年生が26.7%となっています。



(参考) 前回調査との比較



※回答方法について、令和6年調査では、在籍学年の設問をWEBアンケートフォームで必須回答としたため、無回答はありません

※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

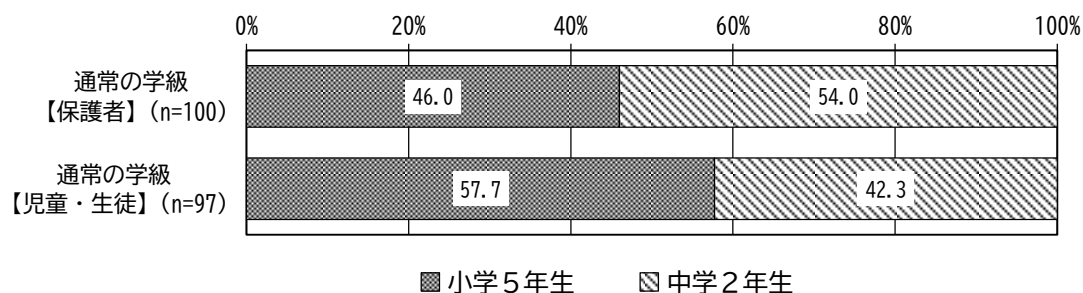
【保護者】通常の学級 [問1]

設問 お子さんが在籍している学年をお答えください。(1つ選ぶ) ★必須回答

【児童・生徒】通常の学級 [問1]

設問 あなたの学年を教えてください。(1つ選ぶ) ★必ず回答

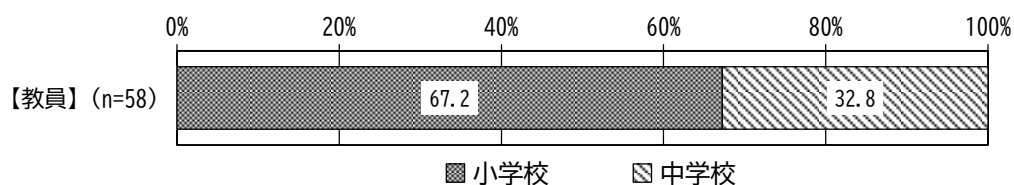
通常学級の【保護者】では、小学5年生が46.0%、中学2年生が54.0%、【児童・生徒】では、小学5年生が57.7%、中学2年生が42.3%となっています。



【教員】[問1]

設問 あなたの在籍する学校種をお答えください。(1つ選ぶ) ★必須回答

「小学校」が67.2%、「中学校」が32.8%となっています。



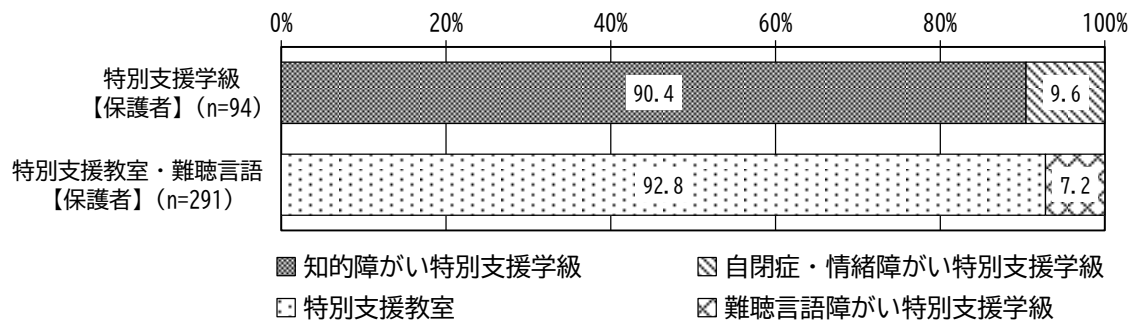
【設問連番2】在籍学級

【保護者】特別支援学級【問2】、特別支援教室・難聴言語【問2】

設問 お子さんが在籍している学級、または指導を受けている教室・学級をお答えください。
(1つ選ぶ) ★必須回答

特別支援学級【保護者】では、知的障がい特別支援学級が90.4%、自閉症・情緒障がい特別支援学級が9.6%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、特別支援教室が92.8%、難聴言語障がい特別支援学級が7.2%となっています。



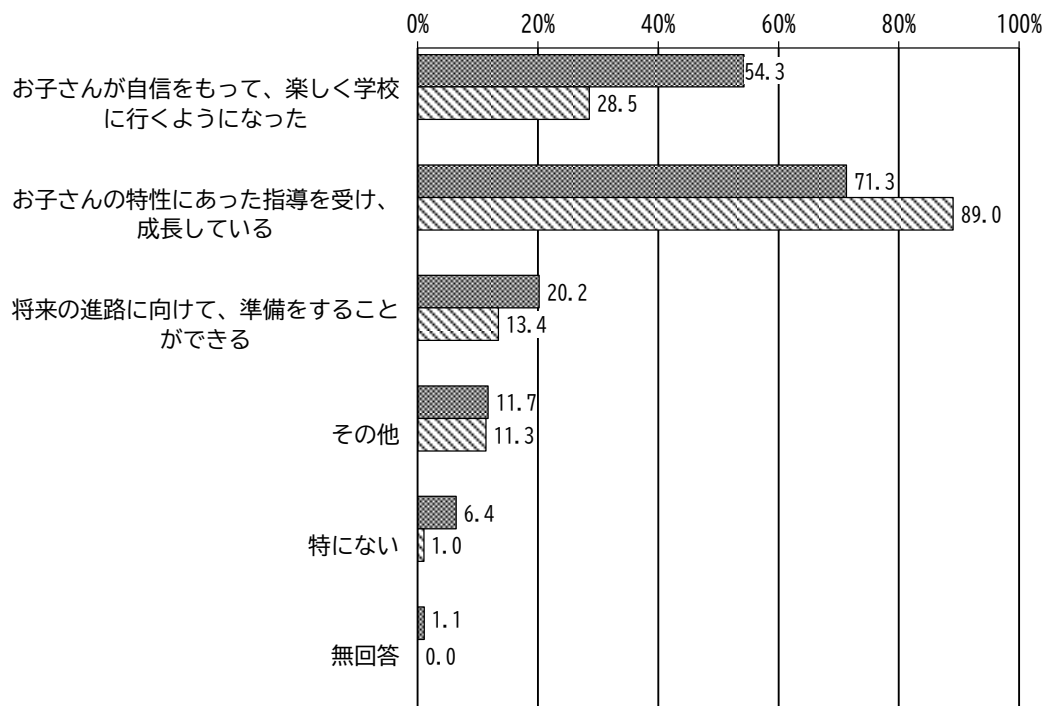
【設問連番3】 子どもが各学級・教室で指導を受けていることで、良かったと感じているところ

【保護者】特別支援学級【問3】、特別支援教室・難聴言語【問3】

設問 お子さんが、[特別支援学級／特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級]で指導を受けていることで、良かったと感じているところは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「お子さんの特性にあった指導を受け、成長している」が71.3%で最も多く、次いで「お子さんが自信をもって、楽しく学校に行くようになった」が54.3%、「将来の進路に向けて、準備をすることができる」が20.2%となっています。

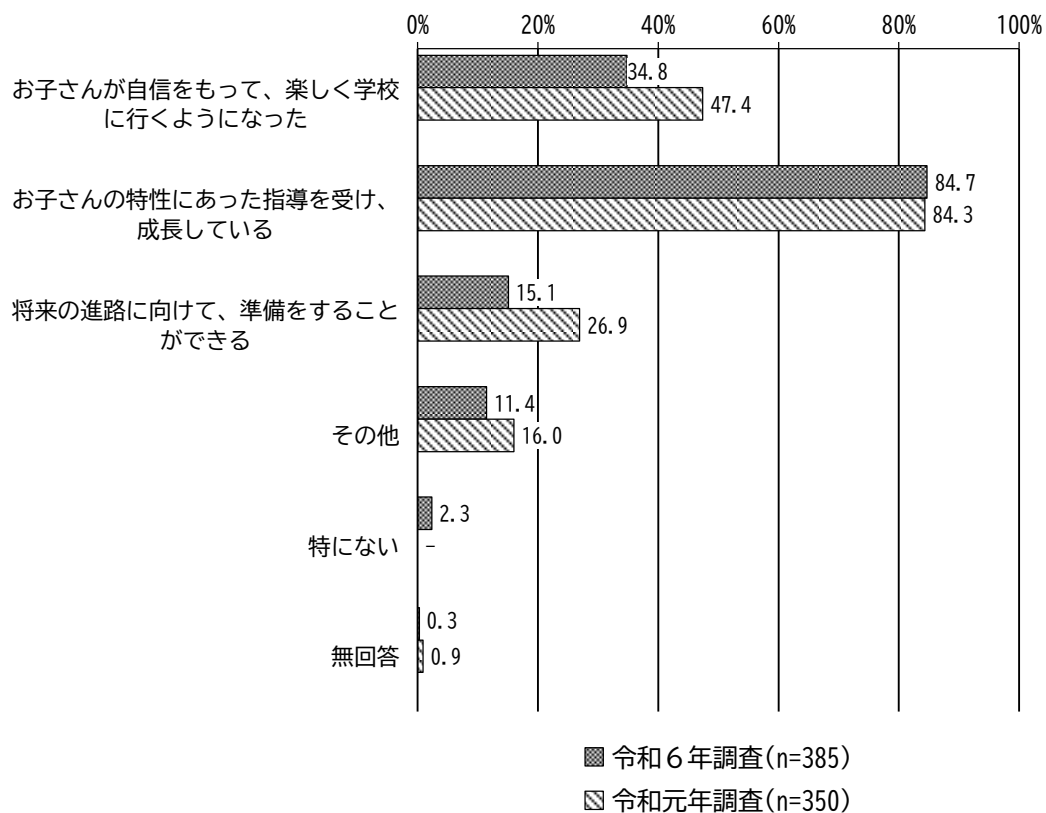
特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「お子さんの特性にあった指導を受け、成長している」が89.0%で最も多く、次いで「お子さんが自信をもって、楽しく学校に行くようになった」が28.5%、「将来の進路に向けて、準備をすることができる」が13.4%となっています。



■ 特別支援学級【保護者】(n=94)

▨ 特別支援教室・難聴言語【保護者】(n=291)

(参考) 前回調査との比較



※回答の選択肢について、「特にない」は、令和6年調査から設けました。

※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【設問連番4】各学級・教室についての満足度

【保護者】特別支援学級【問4】

設問 特別支援学級について、どの程度満足していますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

【保護者】特別支援教室・難聴言語【問4】

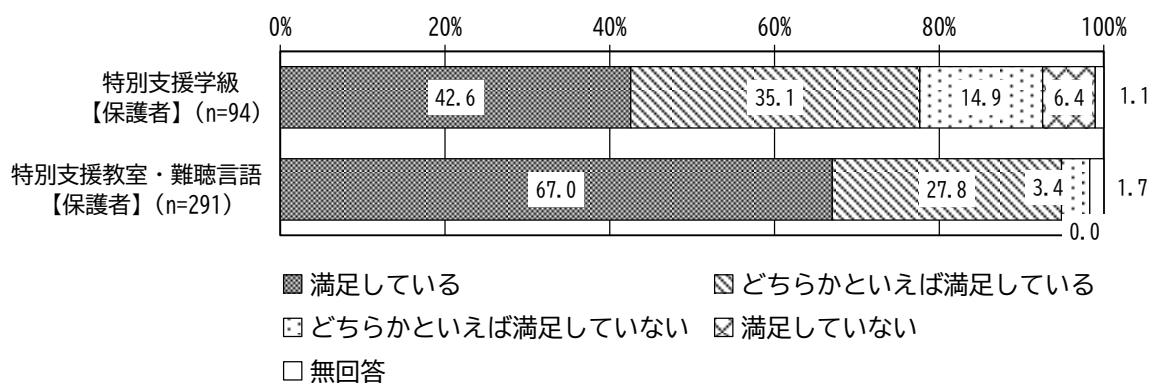
設問 特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級について、どの程度満足していますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

(以下の①から⑤では、選択肢の「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計を『満足している』、選択肢の「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計を『満足していない』としています。)

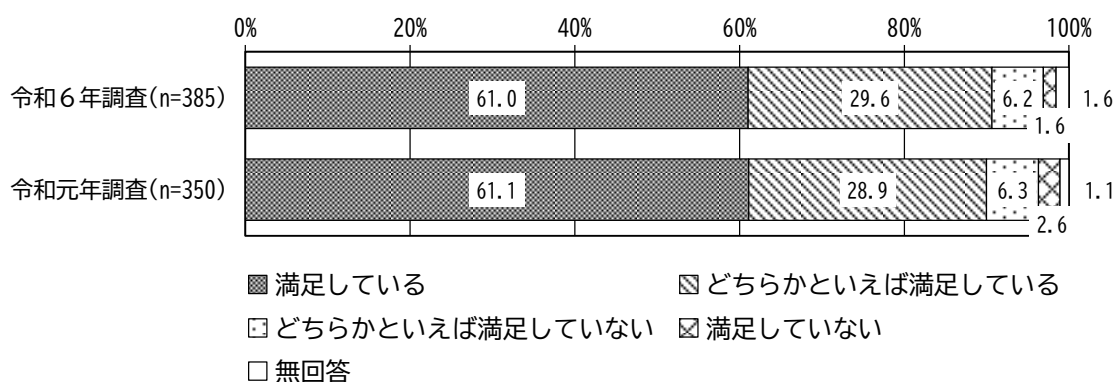
①お子さんへの個別の指導

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が77.7%、『満足していない』が21.3%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が94.8%、『満足していない』が3.4%となっています。



(参考) 前回調査との比較

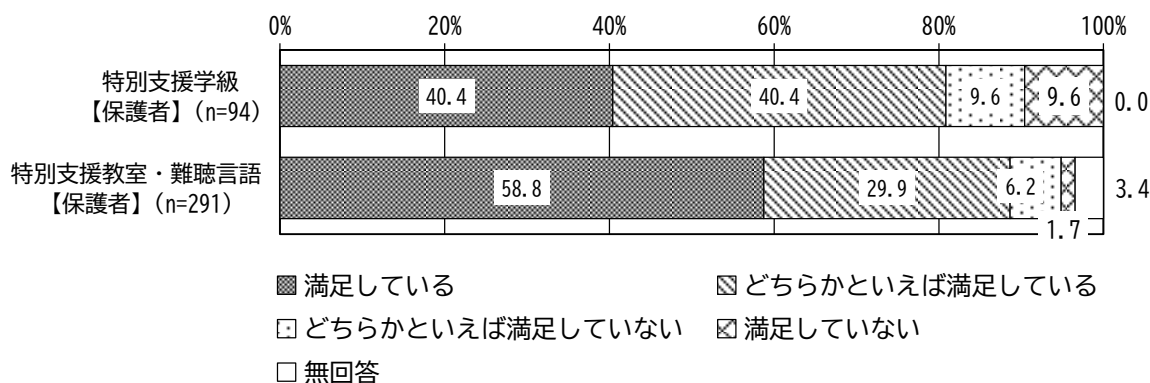


※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

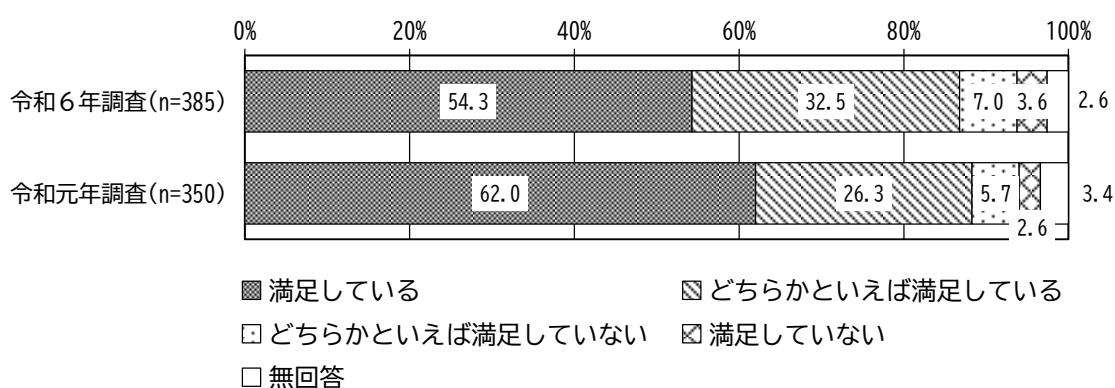
②小集団（グループ）での指導

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が80.8%、『満足していない』が19.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が88.7%、『満足していない』が7.9%となっています。



(参考) 前回調査との比較

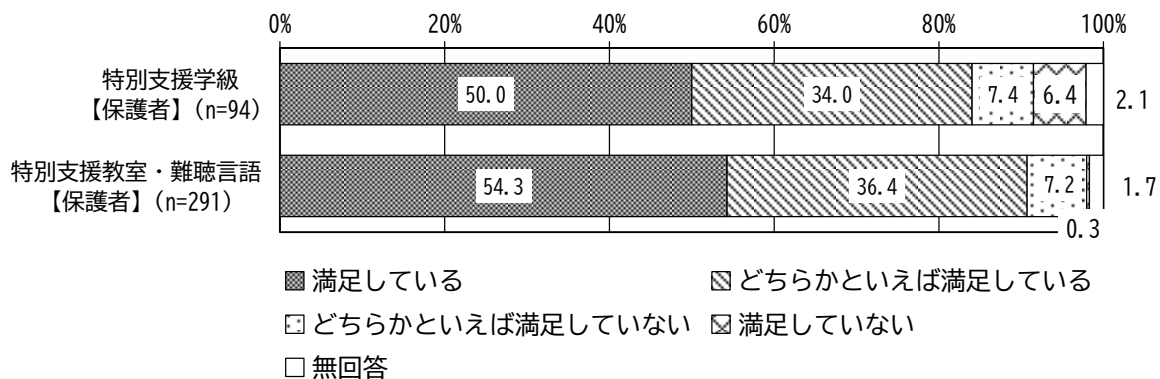


※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

③お子さんの成長が見られるようになった

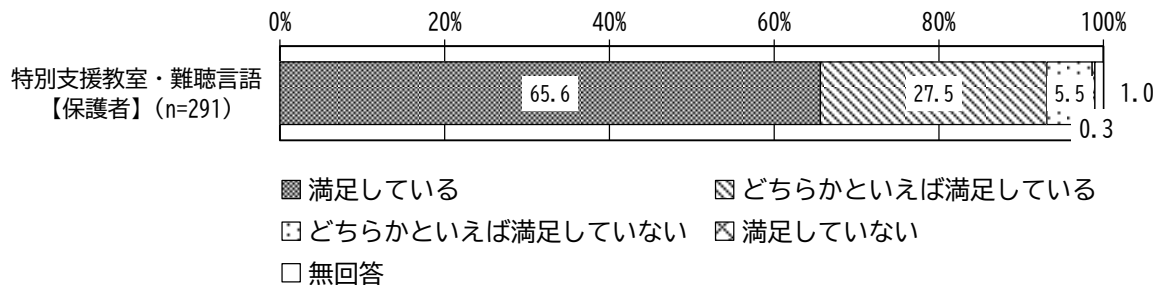
特別支援学級【保護者】では、『満足している』が84.0%、『満足していない』が13.8%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が90.7%、『満足していない』が7.5%となっています。



④担任の先生に支援内容を伝えてくれる

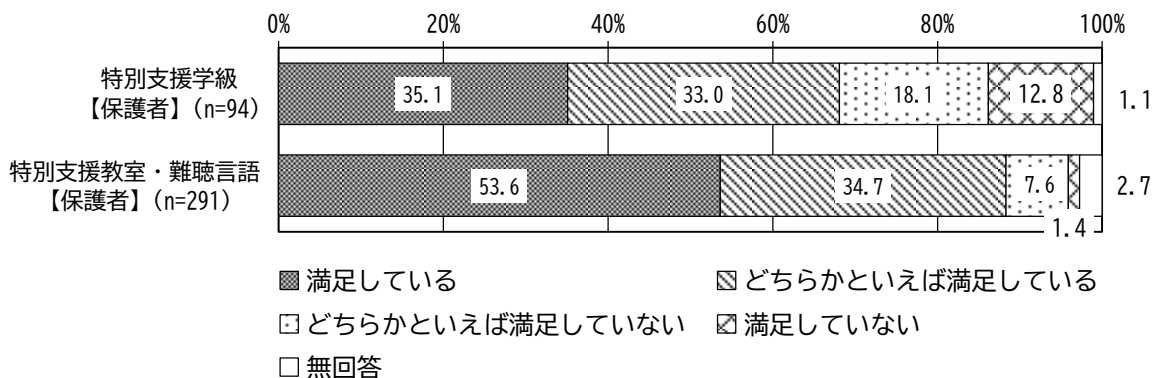
特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が93.1%、『満足していない』が5.8%となっています。



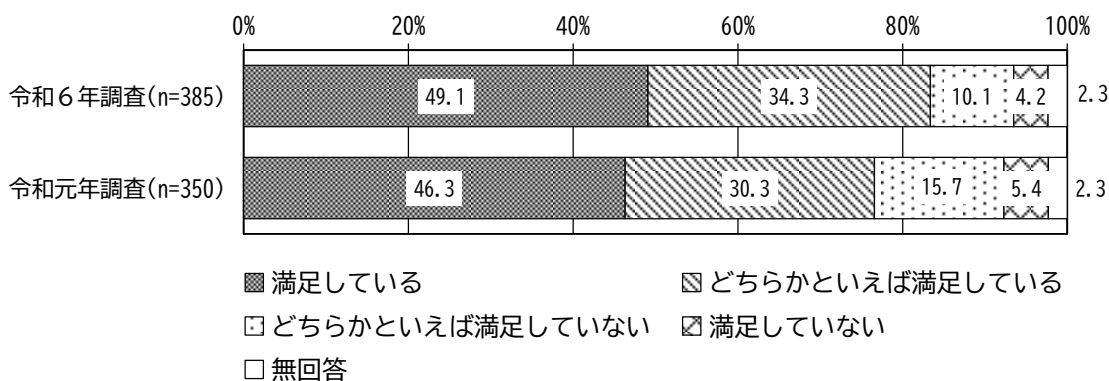
⑤教員が指導内容を具体的に教えてくれたり、家庭でできることを教えてくれる

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が68.1%、『満足していない』が30.9%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が88.3%、『満足していない』が9.0%となっています。



(参考) 前回調査との比較



※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【設問連番5】小平市教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組についての評価

【保護者】特別支援学級【問5】、特別支援教室・難聴言語【問5】、特別支援学校【問2】

設問 小平市教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組について、どの程度満足していますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

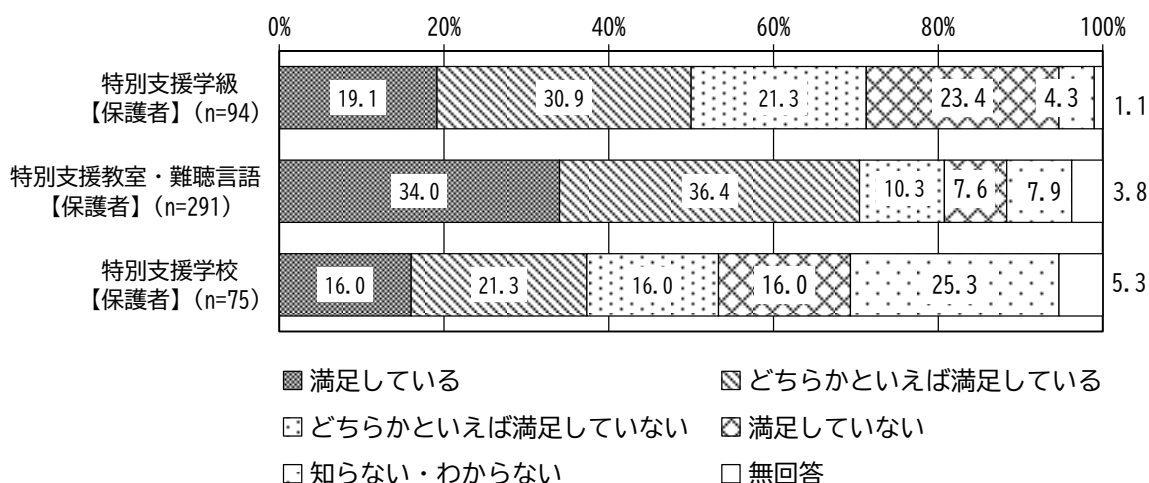
(以下の①から⑥では、選択肢の「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計を『満足している』、選択肢の「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計を『満足していない』としています。)

①特別支援学級の数や指導内容

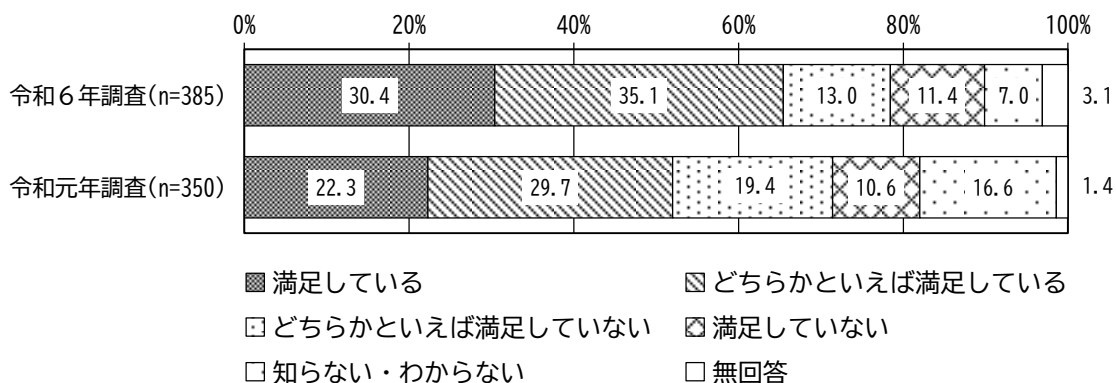
特別支援学級【保護者】では、『満足している』が50.0%、『満足していない』が44.7%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が70.4%、『満足していない』が17.9%となっています。

特別支援学校【保護者】では、『満足している』が37.3%、『満足していない』が32.0%となっています。



(参考) 前回調査との比較

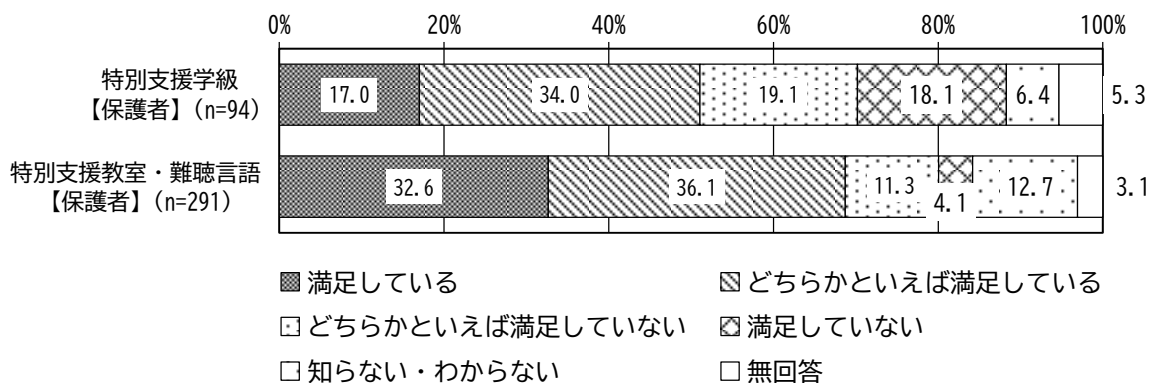


※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

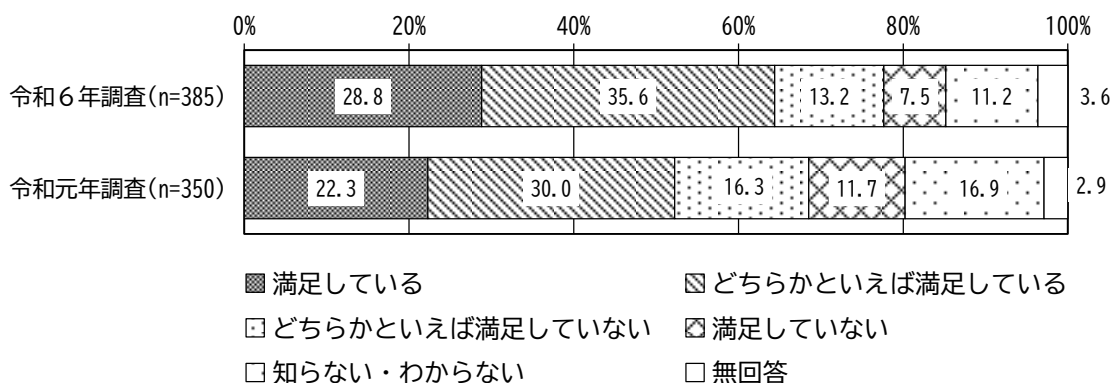
②教員の障がいに関する専門性

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が51.0%、『満足していない』が37.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が68.7%、『満足していない』が15.4%となっています。



(参考) 前回調査との比較

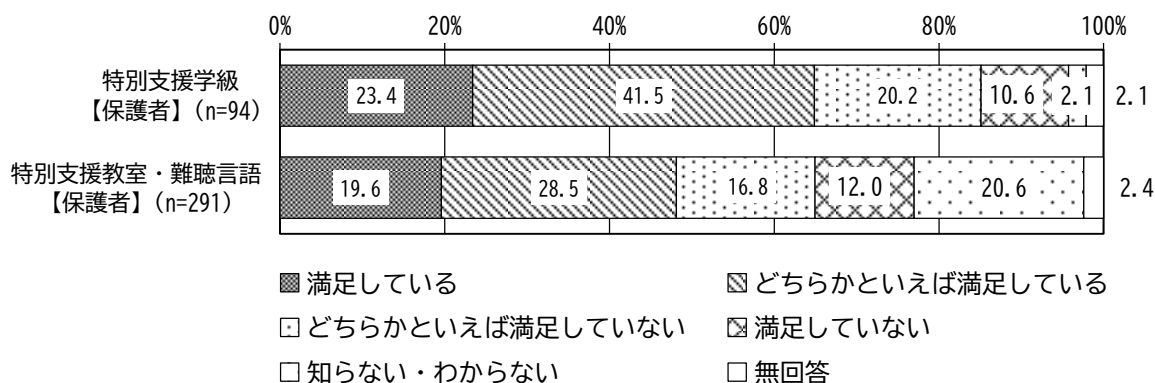


※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

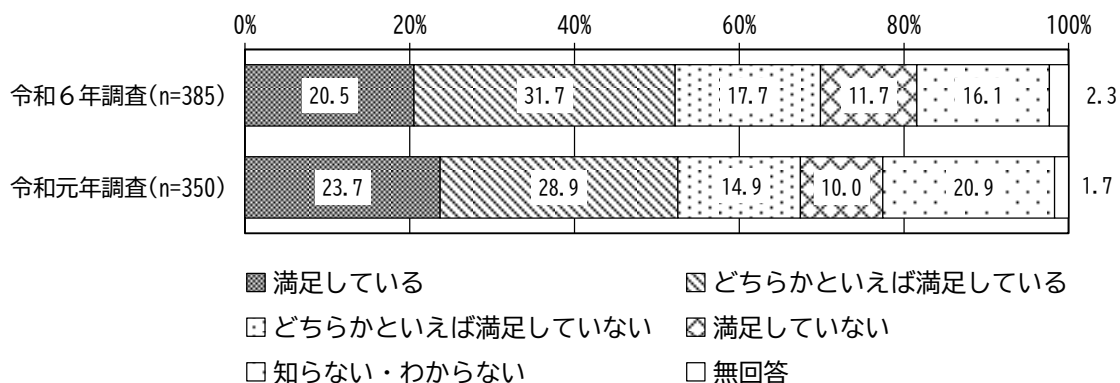
③学習補助員の配置人数

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が64.9%、『満足していない』が30.8%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が48.1%、『満足していない』が28.8%となっています。



(参考) 前回調査との比較

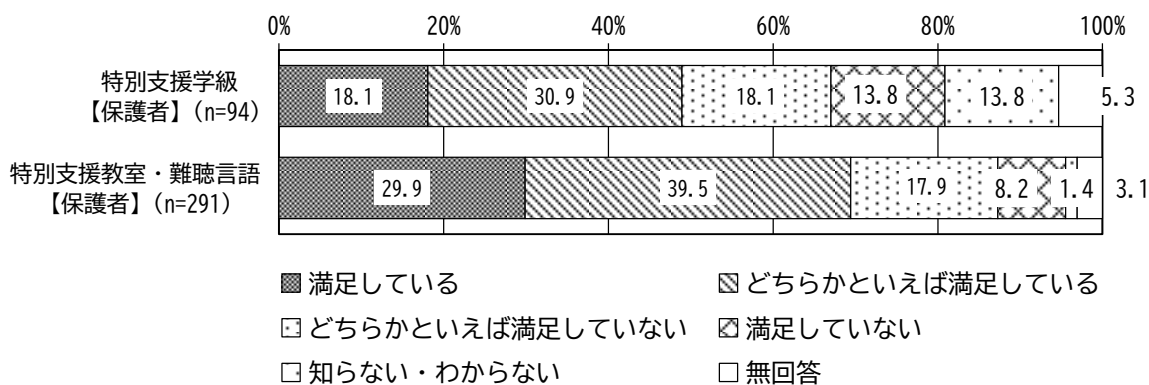


※設問の項目名について、令和元年調査では「介助員・特別支援教育支援員の配置人数」としていましたが、令和6年調査では「学習補助員の配置人数」と改めました。
 ※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

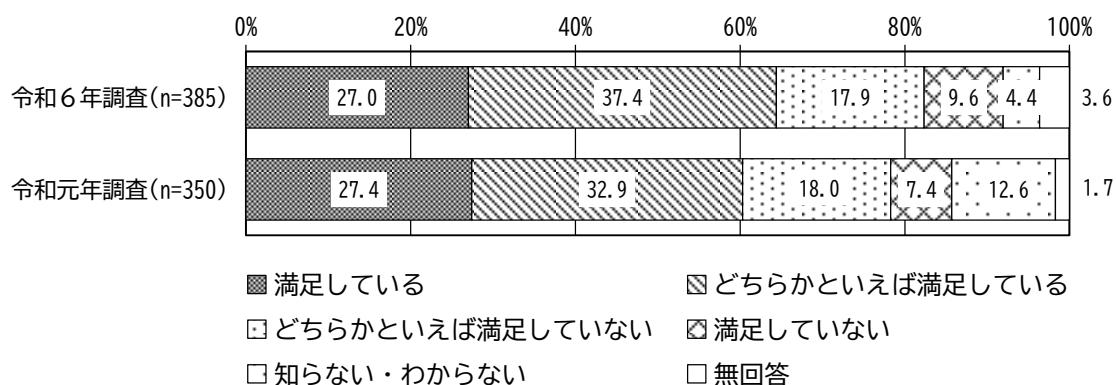
④特別支援教室の指導時間数や指導内容

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が49.0%、『満足していない』が31.9%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が69.4%、『満足していない』が26.1%となっています。



(参考) 前回調査との比較



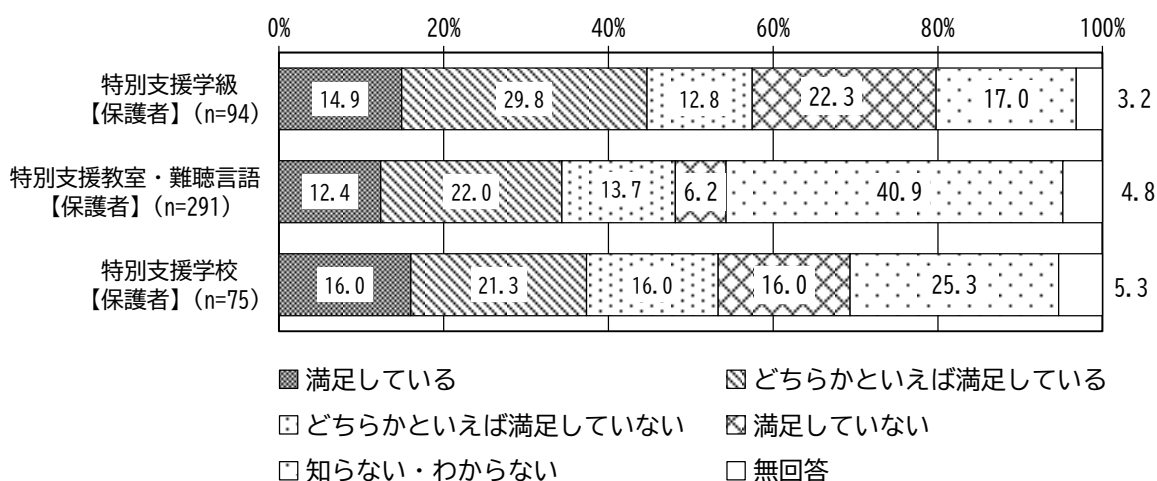
※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

⑤就学・転学相談での説明

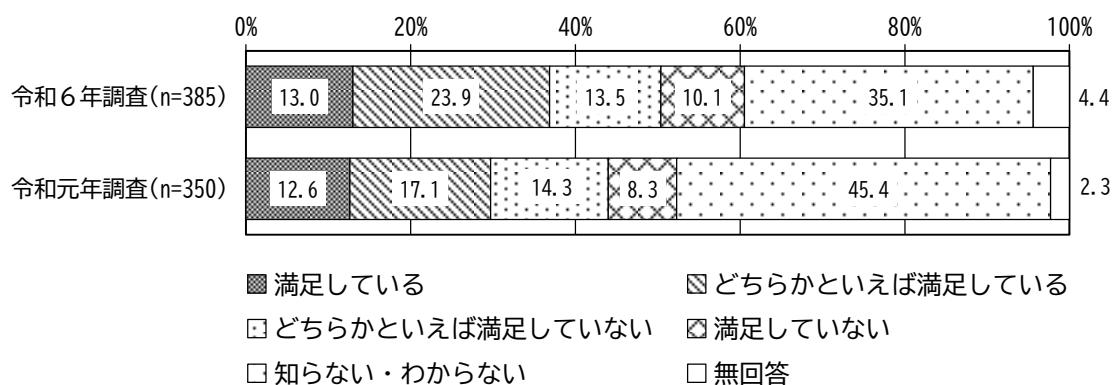
特別支援学級【保護者】では、『満足している』が44.7%、『満足していない』が35.1%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が34.4%、『満足していない』が19.9%となっています。

特別支援学校【保護者】では、『満足している』が37.3%、『満足していない』が32.0%となっています。



(参考) 前回調査との比較

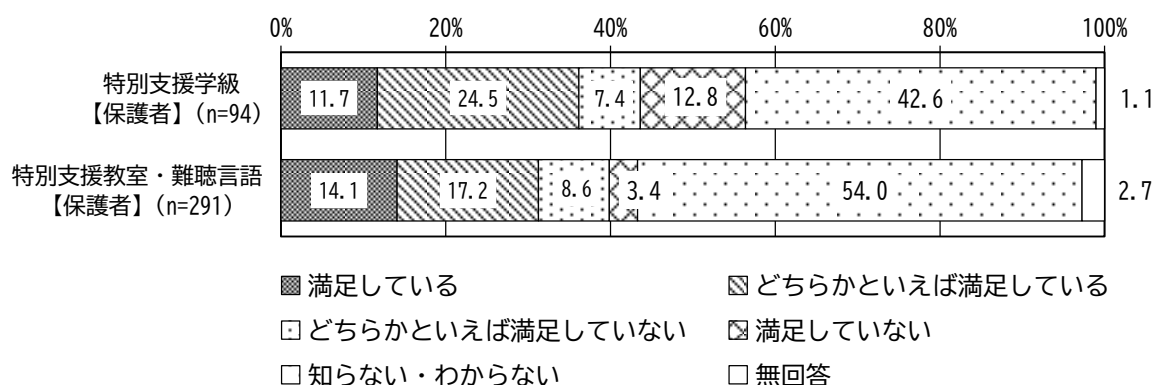


※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

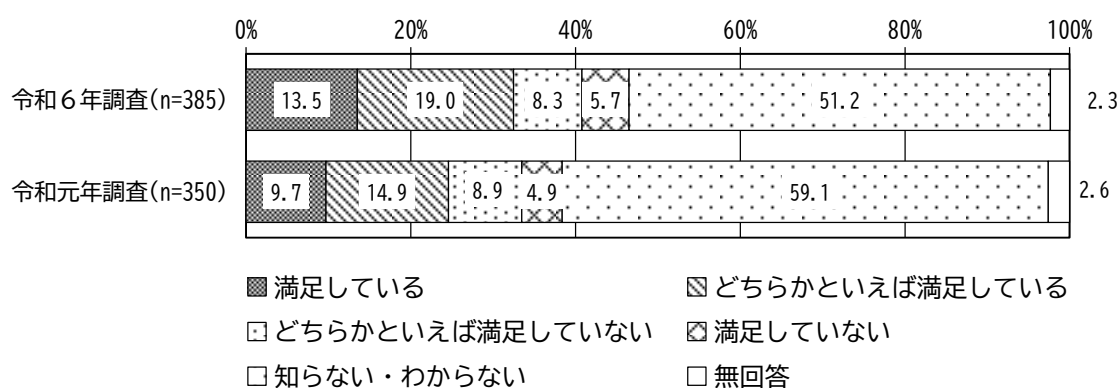
⑥小学校と中学校間での情報共有や連携

特別支援学級【保護者】では、『満足している』が36.2%、『満足していない』が20.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『満足している』が31.3%、『満足していない』が12.0%となっています。



(参考) 前回調査との比較



※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

2 共生社会の実現に向けた教育について

【設問連番6】学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っているか

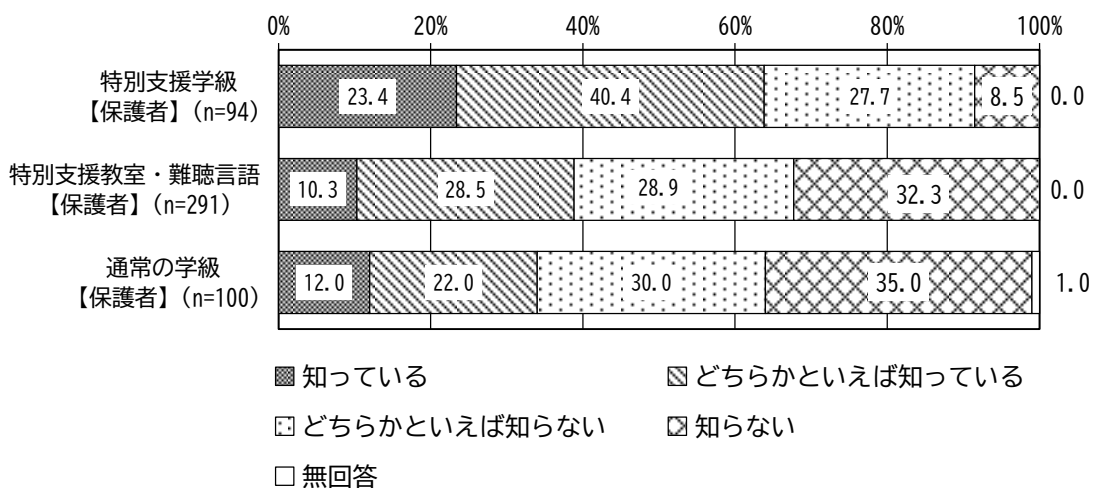
【保護者】特別支援学級【問6】、特別支援教室・難聴言語【問6】、通常の学級【問2】

設問 学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「知っている」と「どちらかといえば知っている」の合計を『知っている』、選択肢の「どちらかといえば知らない」と「知らない」の合計を『知らない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『知っている』が63.8%、『知らない』が36.2%となっています。
特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『知っている』が38.8%、『知らない』が61.2%となっています。

通常の学級【保護者】では、『知っている』が34.0%、『知らない』が65.0%となっています。



【設問連番 7】 交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信は十分だと思うか

【保護者】 特別支援学級 [問 7]、特別支援教室・難聴言語 [問 7]、通常の学級 [問 3]

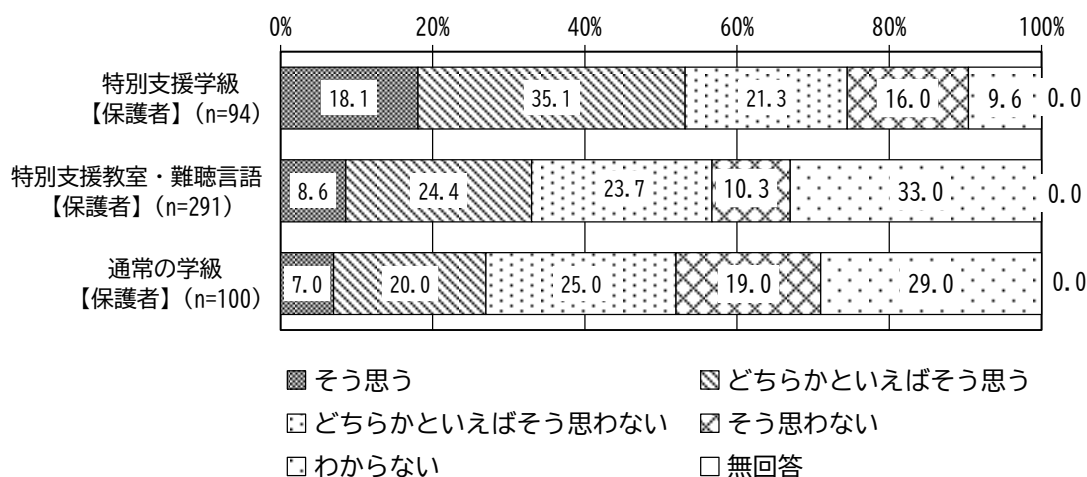
設問 交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 53.2%、『そう思わない』が 37.3%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 33.0%、『そう思わない』が 34.0%となっています。

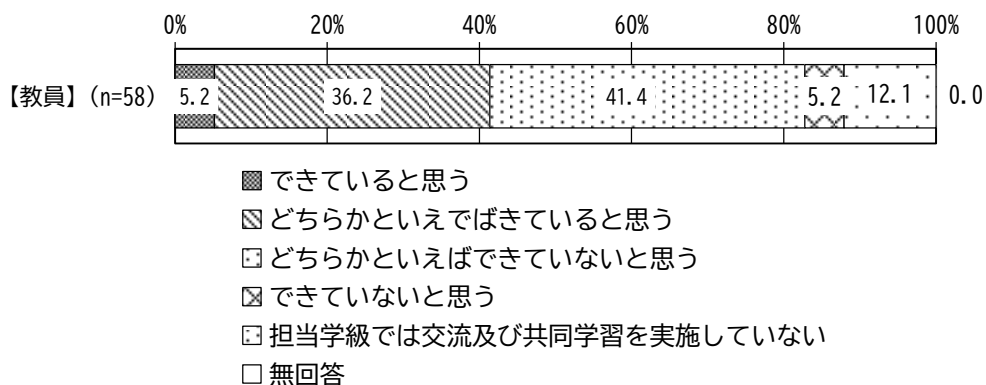
通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 27.0%、『そう思わない』が 44.0%となっています。



【教員】 [問 2]

設問 交流及び共同学習の取組について、あなたは保護者に対して情報発信ができていますか。(1つ選ぶ)

『できていると思う』(「できていると思う」又は「どちらかといえばできていると思う」)が 41.1%、『できていないと思う』(「どちらかといえばできていないと思う」又は「できていないと思う」)が 46.6%となっています。



【設問連番8】学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めているか

【保護者】特別支援学級 [問8]、特別支援教室・難聴言語 [問8]、通常の学級 [問4]

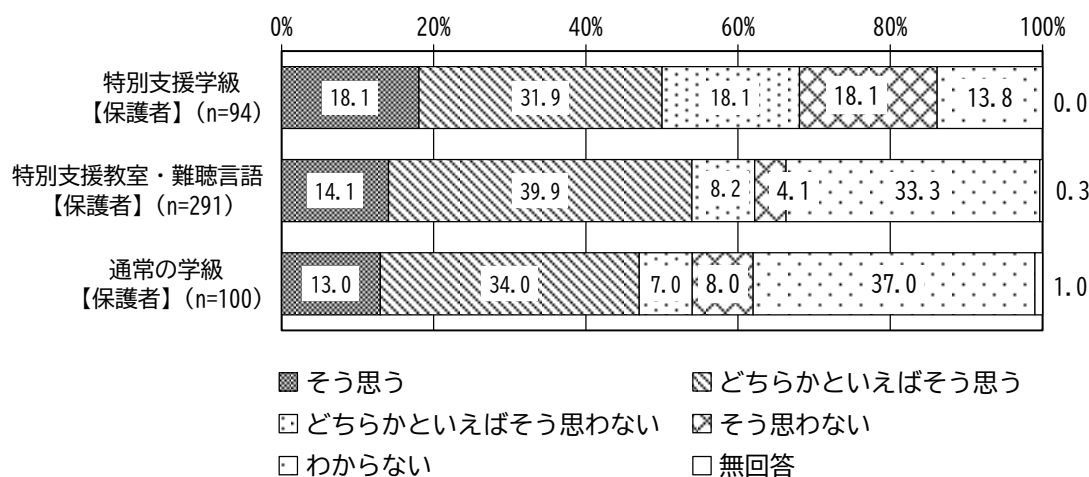
設問 学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が50.0%、『そう思わない』が36.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が54.0%、『そう思わない』が12.3%となっています。

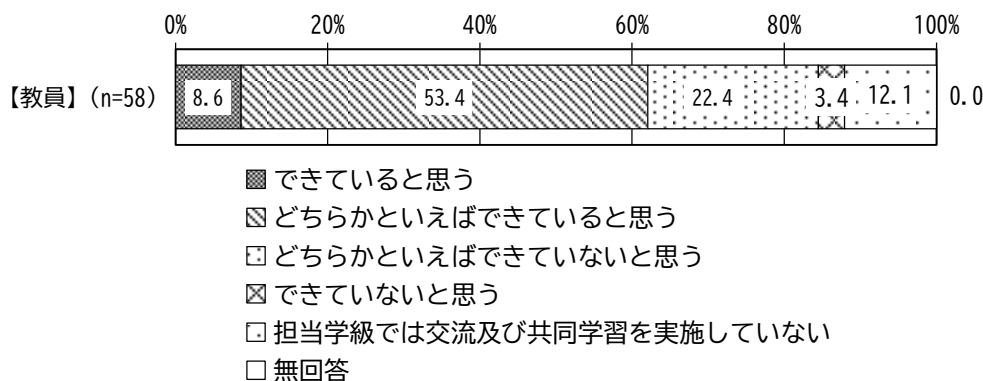
通常の学級【保護者】では、『そう思う』が47.0%、『そう思わない』が15.0%となっています。



【教員】 [問3]

設問 あなたは、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

『できていると思う』(「できていると思う」又は「どちらかといえばできていると思う」)が62.0%、『できていないと思う』(「どちらかといえばできていないと思う」又は「できていないと思う」)が25.8%となっています。



【設問連番9】学校において行われている交流及び共同学習を通じて、こどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったか

【保護者】特別支援学級 [問9]、特別支援教室・難聴言語 [問9]、通常の学級 [問5]

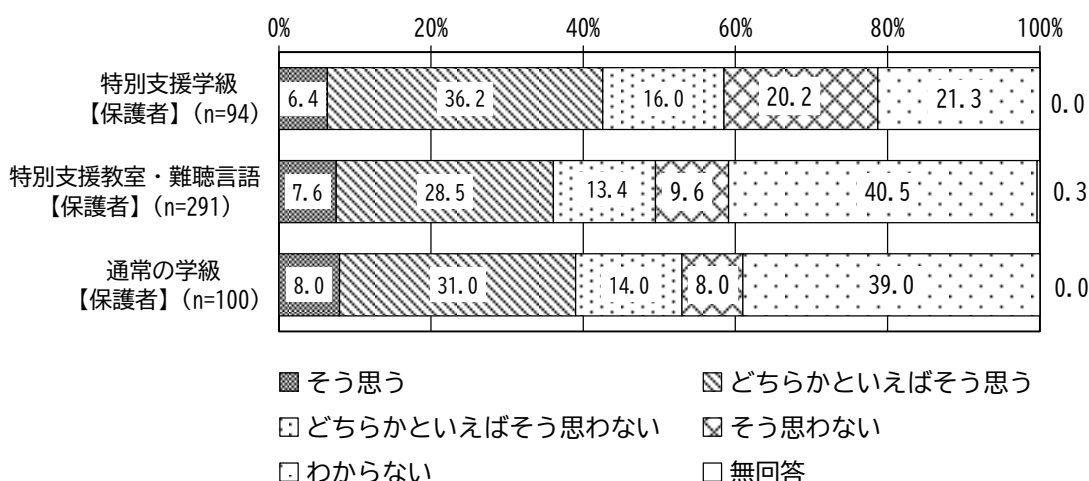
設問 学校において行われている交流及び共同学習を通じて、学校全体におけるこどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が42.6%、『そう思わない』が36.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が36.1%、『そう思わない』が23.0%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が39.0%、『そう思わない』が22.0%となっています。



【設問連番 10】 交流及び共同学習を通じて互いを知ることができたと感じるか

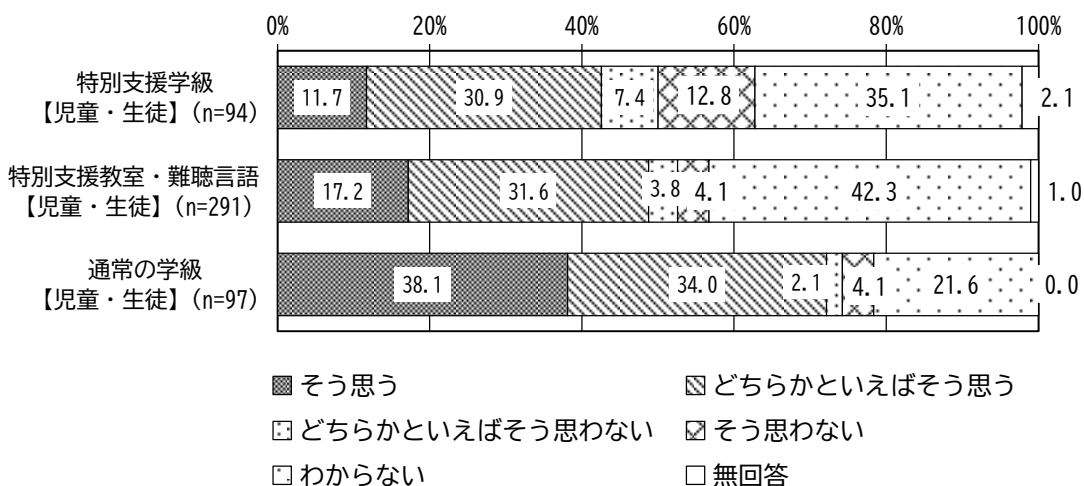
【児童・生徒】特別支援学級 [問 32]、特別支援教室・難聴言語 [問 32]、通常の学級 [問 2]
 設問 交流及び共同学習を通じて、お互いを知ることができたと思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【児童・生徒】では、『そう思う』が42.6%、『そう思わない』が20.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、『そう思う』が48.8%、『そう思わない』が7.9%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、『そう思う』が72.1%、『そう思わない』が6.2%となっています。



【設問連番 11】 通常級と特別支援学校・支援級の児童・生徒と一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていること

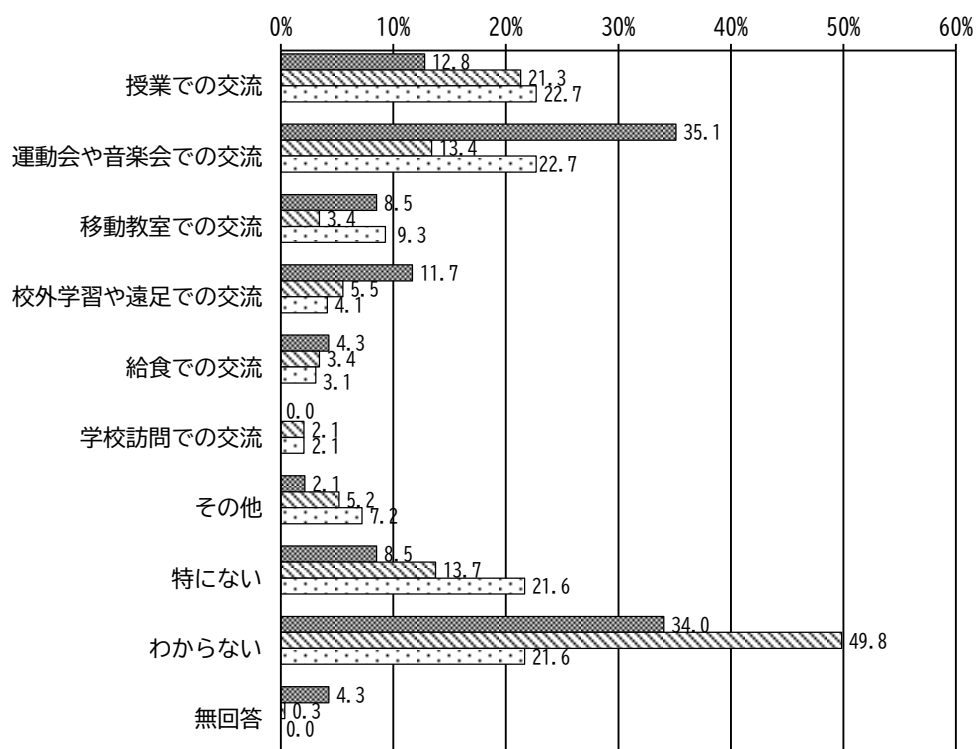
【児童・生徒】 特別支援学級 [問 33]、特別支援教室・難聴言語 [問 33]、通常の学級 [問 3]

設問 障がいのある子と一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていることは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【児童・生徒】では、「運動会や音楽会での交流」が35.1%で最も多く、次いで「授業での交流」が12.8%、「校外学習や遠足での交流」が11.7%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「授業での交流」が21.3%で最も多く、次いで「運動会や音楽会での交流」が13.4%、「校外学習や遠足での交流」が5.5%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「授業での交流」と「運動会や音楽会での交流」が22.7%で最も多く、次いで「移動教室での交流」が9.3%となっています。



■ 特別支援学級【児童・生徒】 (n=94)
 ▨ 特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】 (n=291)
 □ 通常の学級【児童・生徒】 (n=97)

【設問連番 12】 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っているか

【保護者】 特別支援学級 [問 10]、特別支援教室・難聴言語 [問 10]、通常の学級 [問 6]

設問 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

【保護者】 特別支援学校 [問 3]

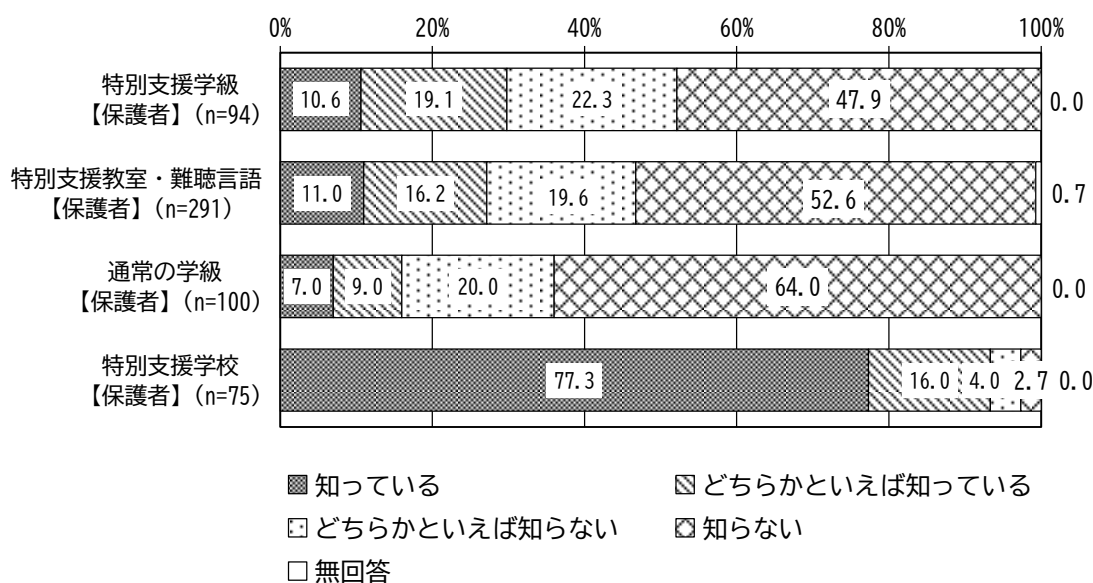
設問 小平市立学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「知っている」と「どちらかといえば知っている」の合計を『知っている』、選択肢の「どちらかといえば知らない」と「知らない」の合計を『知らない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『知っている』が29.7%、『知らない』が70.2%となっています。
特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『知っている』が27.2%、『知らない』が72.2%となっています。

通常の学級【保護者】では、『知っている』が16.0%、『知らない』が84.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、『知っている』が93.3%、『知らない』が6.7%となっています。



【設問連番 13】 副籍交流の取組について、学校からの情報発信は十分だと思うか

【保護者】 特別支援学級 [問 11]、特別支援教室・難聴言語 [問 11]、通常の学級 [問 7]

設問 副籍交流の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

【保護者】 特別支援学校 [問 4]

設問 副籍交流の取組について、副籍を置く小平市立学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

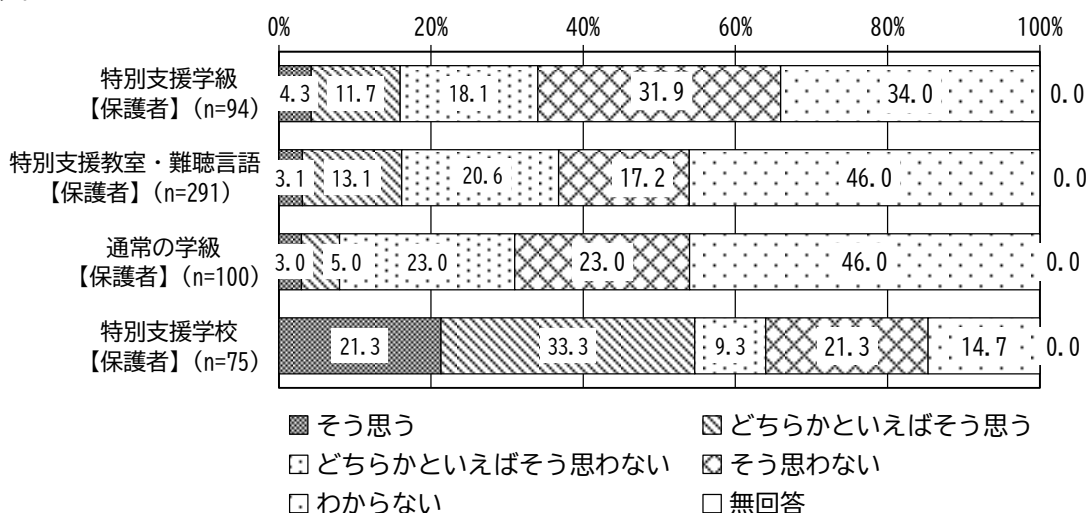
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 16.0%、『そう思わない』が 50.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 16.2%、『そう思わない』が 37.8%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 8.0%、『そう思わない』が 46.0%となっています。

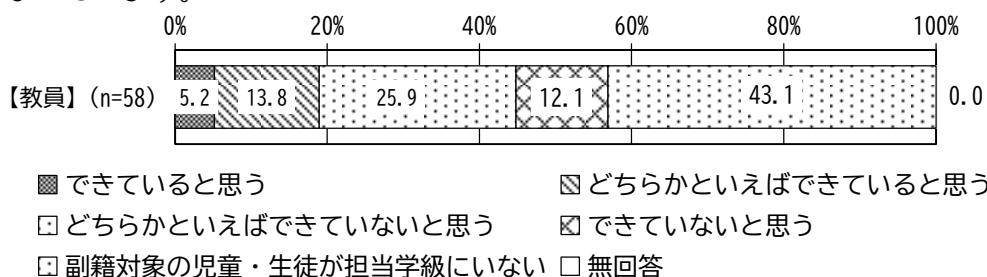
特別支援学校【保護者】では、『そう思う』が 54.6%、『そう思わない』が 30.6%となっています。



【教員】 [問 4]

設問 副籍交流の取組について、あなたは保護者に対して情報発信ができていますか。(1つ選ぶ)

『できていると思う』(「できていると思う」又は「どちらかといえばできていると思う」)が 19.0%、『できていないと思う』(「どちらかといえばできていないと思う」又は「できていないと思う」)が 38.0%となっています。



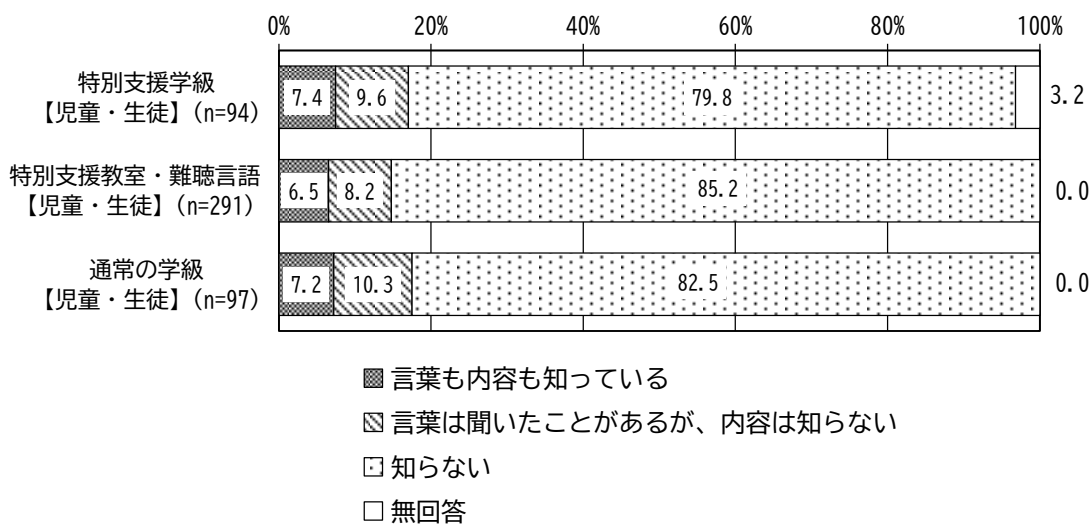
【設問連番 14】 副籍交流とはどのようなものか知っているか

【児童・生徒】 特別支援学級 [問 34]、特別支援教室・難聴言語 [問 34]、通常の学級 [問 4]
 設問 副籍交流とはどのようなものか知っていますか。(1つ選ぶ)

特別支援学級【児童・生徒】では、「言葉も内容も知っている」が7.4%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が9.6%、「知らない」が79.8%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「言葉も内容も知っている」が6.5%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が8.2%、「知らない」が85.2%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「言葉も内容も知っている」が7.2%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が10.3%、「知らない」が82.5%となっています。



【設問連番 15】学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めているか

【保護者】特別支援学級【問 12】、特別支援教室・難聴言語【問 12】、通常の学級【問 8】

設問 学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。
(1つ選ぶ)

【保護者】特別支援学校【問 5】

設問 小平市立学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

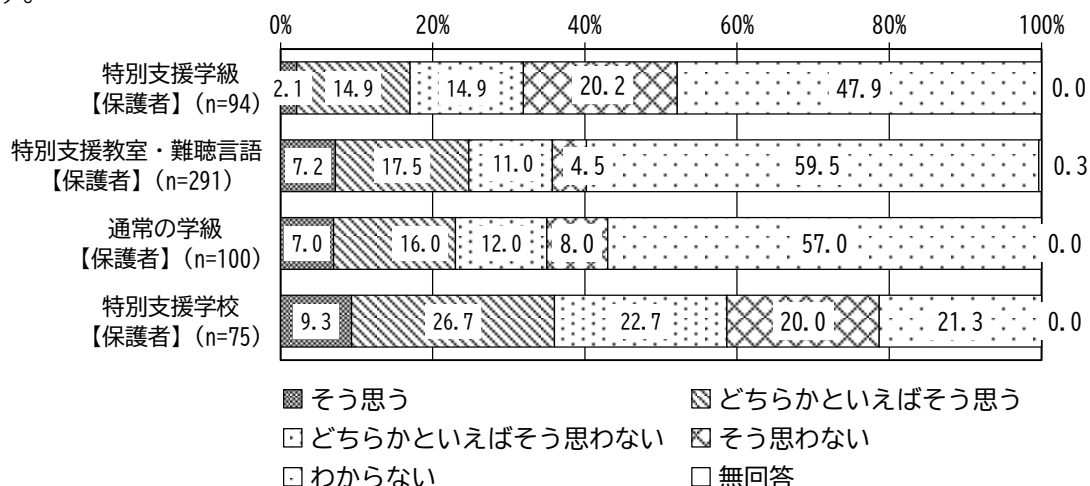
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 17.0%、『そう思わない』が 35.1%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 24.7%、『そう思わない』が 15.5%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 23.0%、『そう思わない』が 20.0%となっています。

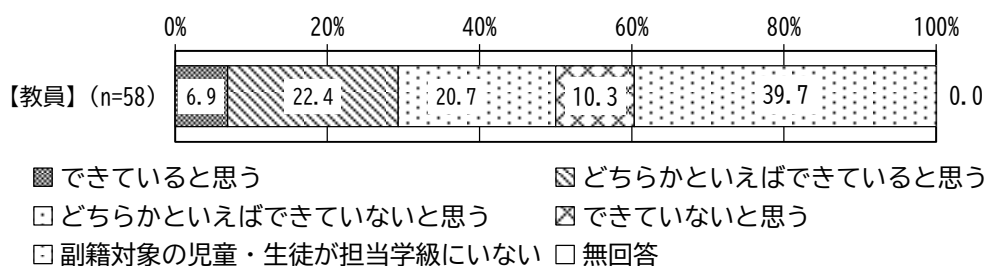
特別支援学校【保護者】では、『そう思う』が 36.0%、『そう思わない』が 42.7%となっています。



【教員】【問 5】

設問 あなたは、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

『できていると思う』(「できていると思う」又は「どちらかといえばできていると思う」)が 29.3%、
『できていないと思う』(「どちらかといえばできていないと思う」又は「できていないと思う」)が
31.0%となっています。



【設問連番 16】 学校において行われている副籍交流を通じて、こどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったか

【保護者】 特別支援学級 [問 13]、特別支援教室・難聴言語 [問 13]、通常の学級 [問 9]

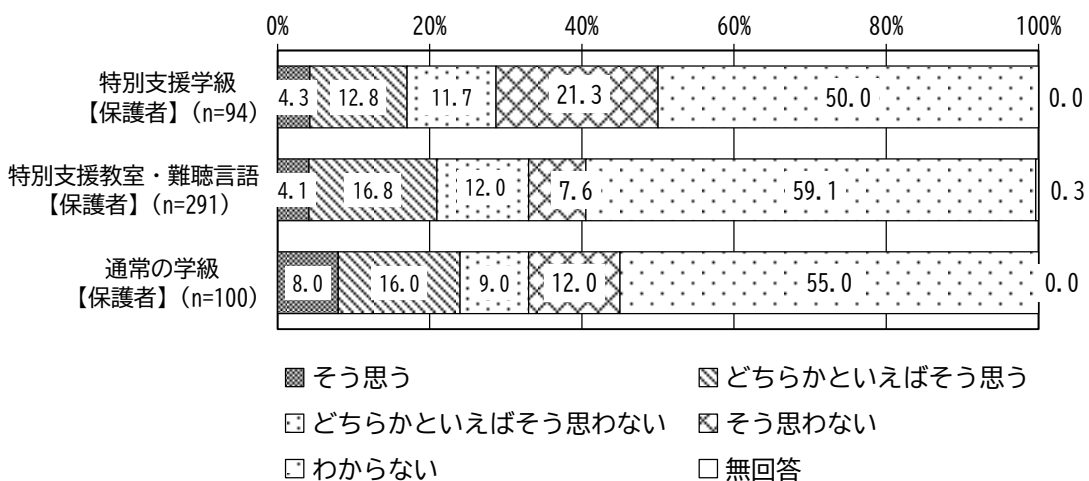
設問 学校において行われている副籍交流を通じて、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 17.1%、『そう思わない』が 33.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 20.9%、『そう思わない』が 19.6%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 24.0%、『そう思わない』が 21.0%となっています。



【設問連番 17】 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことはなにか

【保護者】 特別支援学級 [問 14]、特別支援教室・難聴言語 [問 14]、通常の学級 [問 10]

【教員】 [問 6]

【児童・生徒】 特別支援学級 [問 35]、特別支援教室・難聴言語 [問 35]、通常の学級 [問 5]

設問 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

【保護者】

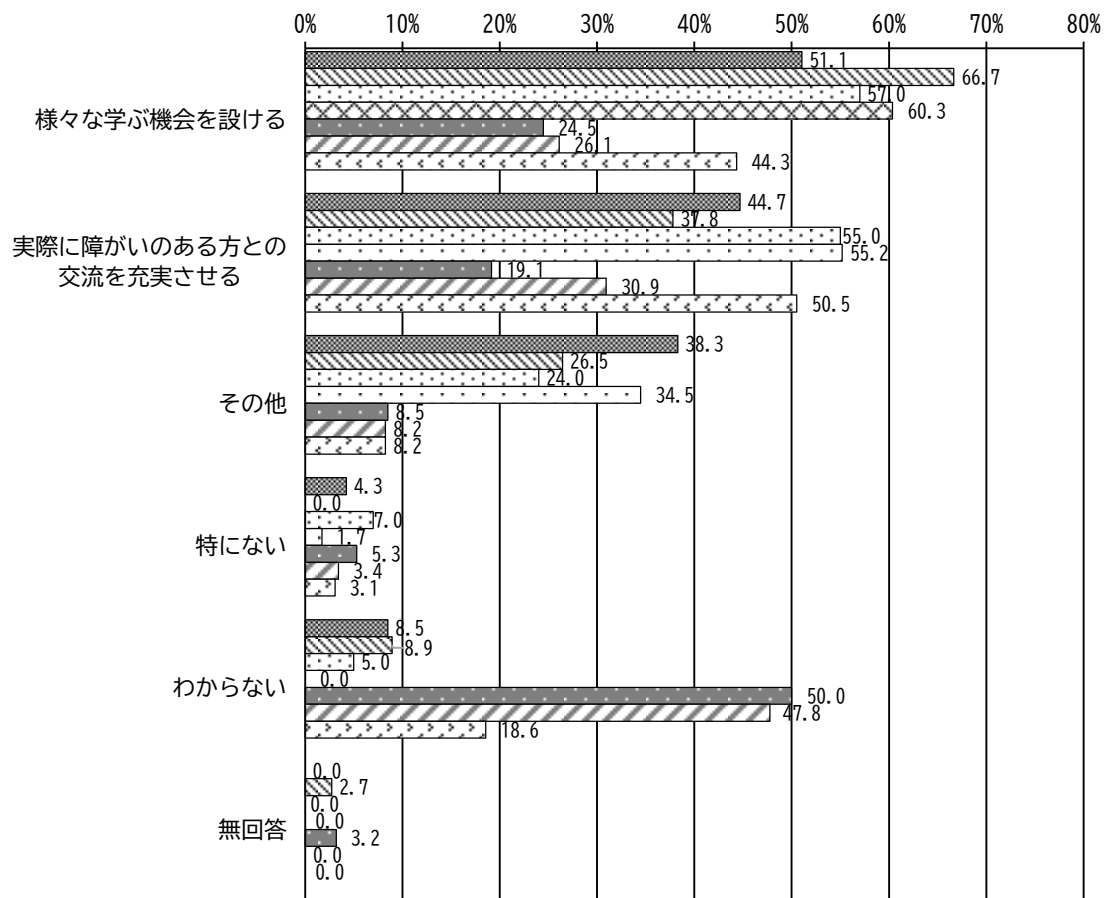
「様々な学ぶ機会を設ける」が、特別支援学級では 51.1%、特別支援教室・難聴言語では 66.7%、通常の学級では 57.0%となっています。「実際に障がいのある方との交流を充実させる」が、特別支援学級では 44.7%、特別支援教室・難聴言語では 37.8%、通常の学級では 55.0%となっています。

【教員】

「様々な学ぶ機会を設ける」が 60.3%、「実際に障がいのある方との交流を充実させる」が 55.2%となっています。

【児童・生徒】

「様々な学ぶ機会を設ける」が、特別支援学級では 24.5%、特別支援教室・難聴言語では 26.1%、通常の学級では 44.3%となっています。「実際に障がいのある方との交流を充実させる」が、特別支援学級では 19.1%、特別支援教室・難聴言語では 30.9%、通常の学級では 50.5%となっています。



- 特別支援学級【保護者】 (n=94)
- ▨ 特別支援教室・難聴言語【保護者】 (n=291)
- 通常の学級【保護者】 (n=100)
- 【教員】 (n=58)
- 特別支援学級【児童・生徒】 (n=94)
- ▨ 特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】 (n=291)
- 通常の学級【児童・生徒】 (n=97)

3 学校での支援体制について

【設問連番 18】「学校生活支援シート」を活用しているか

【保護者】特別支援学級【問 15】、特別支援教室・難聴言語【問 15】

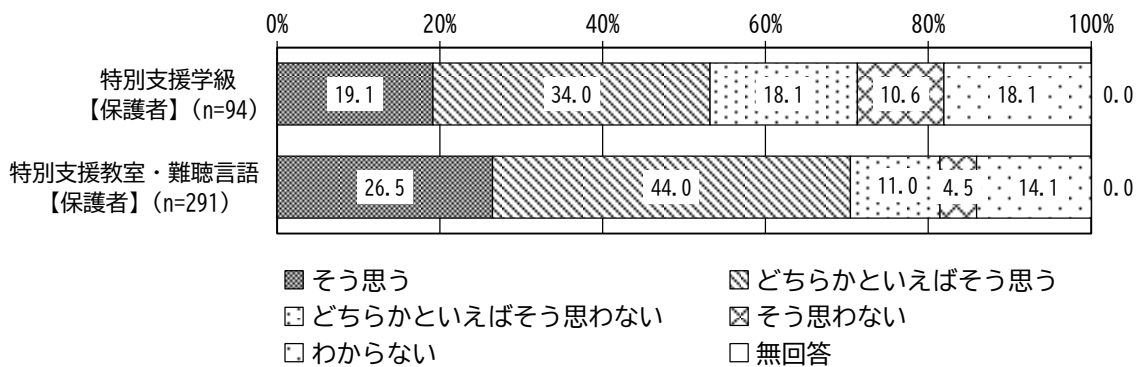
設問 「学校生活支援シート(※)」が活用されていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校生活支援シート：お子さんや保護者の希望を踏まえて、医療や相談窓口などの関係機関と連携して、乳幼児期から学校卒業後まで一貫性のある支援を行う長期的な基本計画です。

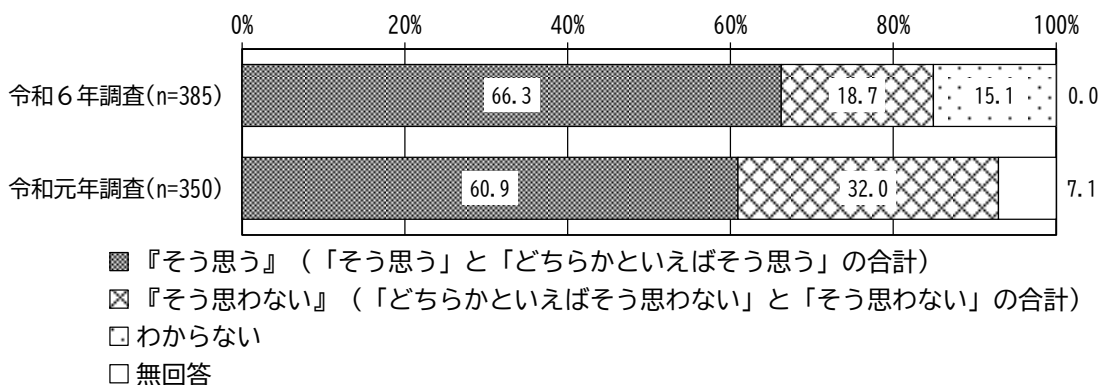
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 53.1%、『そう思わない』が 28.7%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 70.5%、『そう思わない』が 15.5%となっています。



(参考) 前回調査との比較



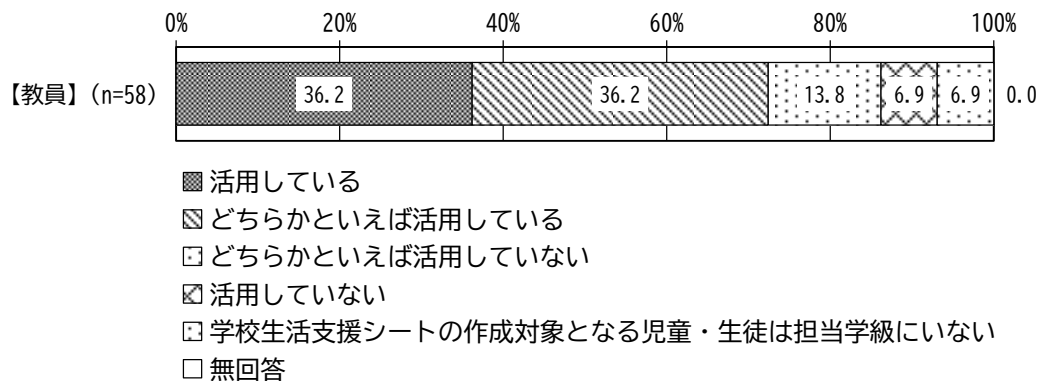
※回答の選択肢について、令和元年調査では、「活用されていると感じる」「活用されていないと感じる」の二択で尋ねました。そのため、令和6年調査では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』として比較しています。また、「わからない」は、令和6年調査から設けました。

※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【教員】[問7]

設問 あなたは、「学校生活支援シート」を活用していますか。(1つ選ぶ)

『活用している』(「活用している」又は「どちらかといえば活用している」)が72.4%、『活用していない』(「どちらかといえば活用していない」又は「活用していない」)が20.7%となっています。



【設問連番 19】「学校生活支援シート」の学校以外の機関への情報提供は十分行われていると感じるか

【保護者】特別支援学級 [問 16]、特別支援教室・難聴言語 [問 16]

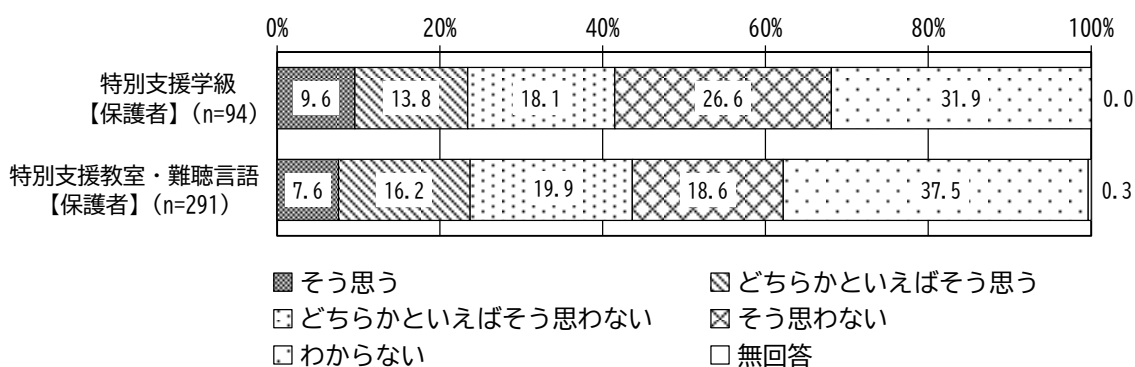
設問 学校以外の機関(※)に「学校生活支援シート」の情報共有が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校以外の機関：医療機関、子ども家庭支援センターや教育相談室などの相談機関、放課後等デイサービスや学童クラブなど。

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 23.4%、『そう思わない』が 44.7%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 23.8%、『そう思わない』が 38.5%となっています。

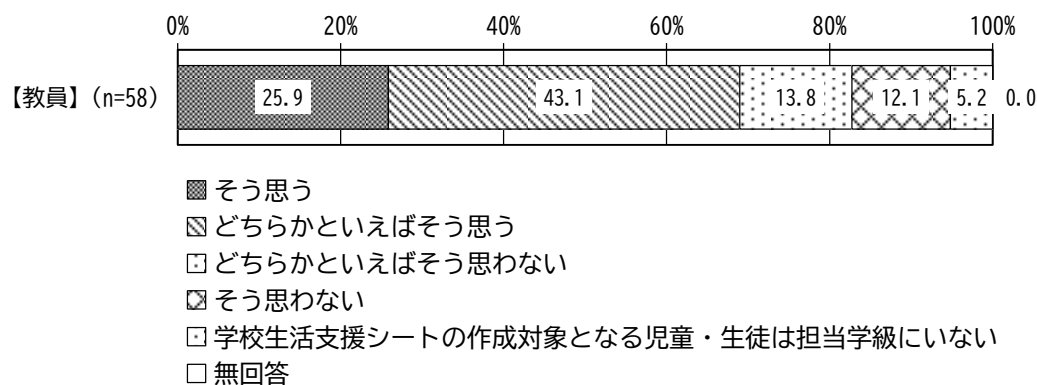


【教員】[問 8]

設問 あなたは、保護者の同意があった場合に学校以外の機関(※)に「学校生活支援シート」の情報共有を行っていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校以外の機関：医療機関、子ども家庭支援センターや教育相談室などの相談機関、学童クラブなど。

『そう思う』(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」)が 69.0%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」)が 25.9%となっています。



【設問連番 20】「個別指導計画」に基づいた指導や支援が行われていると感じるか

【保護者】特別支援学級【問 17】、特別支援教室・難聴言語【問 17】

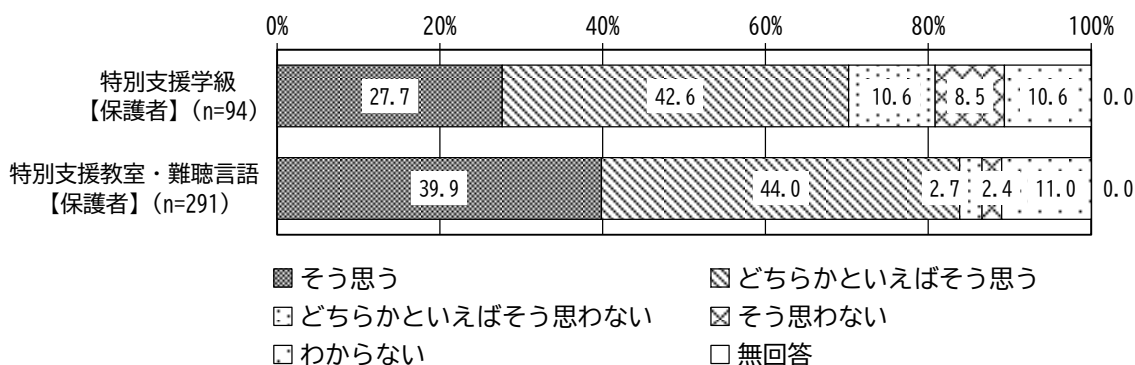
設問 「個別指導計画(※)」に基づいた指導や支援が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※個別指導計画：学校生活支援シートを踏まえて、学校が作成する短期的な実行計画です。
学校での学習面・生活面の指導目標や指導内容、方法等を具体的に計画し、指導・支援を行います。

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が70.3%、『そう思わない』が19.1%となっています。

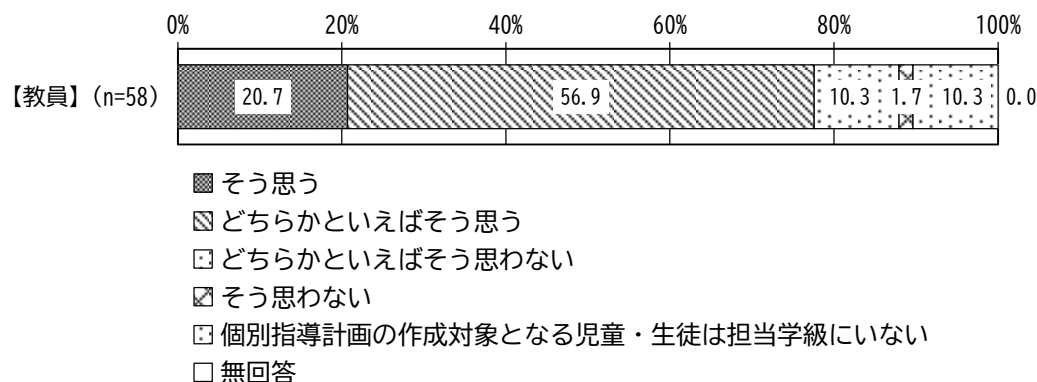
特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が83.9%、『そう思わない』が5.1%となっています。



【教員】【問 9】

設問 あなたは、「個別指導計画」に基づいた指導や支援を行うことができていると思いますか。(1つ選ぶ)

『そう思う』(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」)が77.6%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」)が12.0%となっています。



【設問連番 21】「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校間で十分に情報共有できていると感じるか

【保護者】特別支援学級 [問 18]、特別支援教室・難聴言語 [問 18]

設問 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

【教員】 [問 10]

設問 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

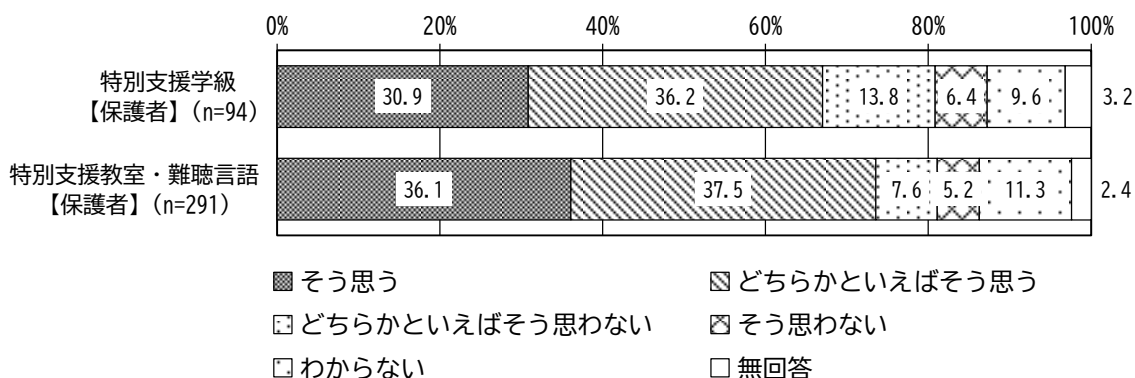
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

①「学校生活支援シート」

【保護者】

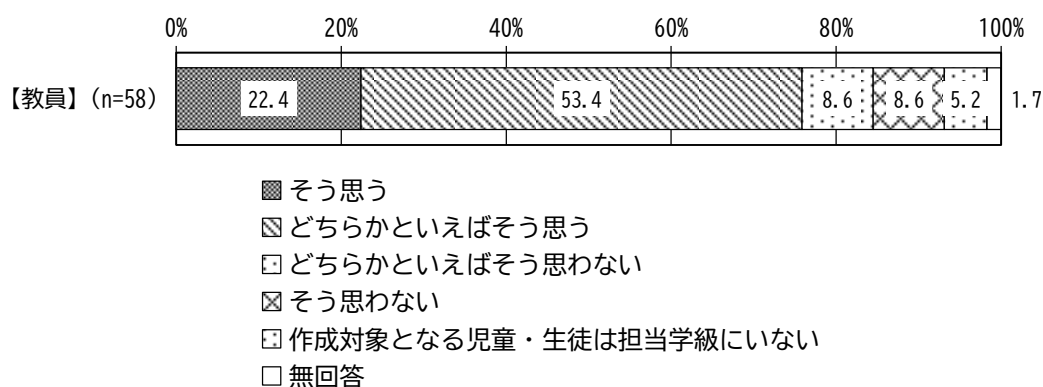
特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 67.1%、『そう思わない』が 20.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 73.6%、『そう思わない』が 12.8%となっています。



【教員】

『そう思う』が 75.8%、『そう思わない』が 17.2%となっています。

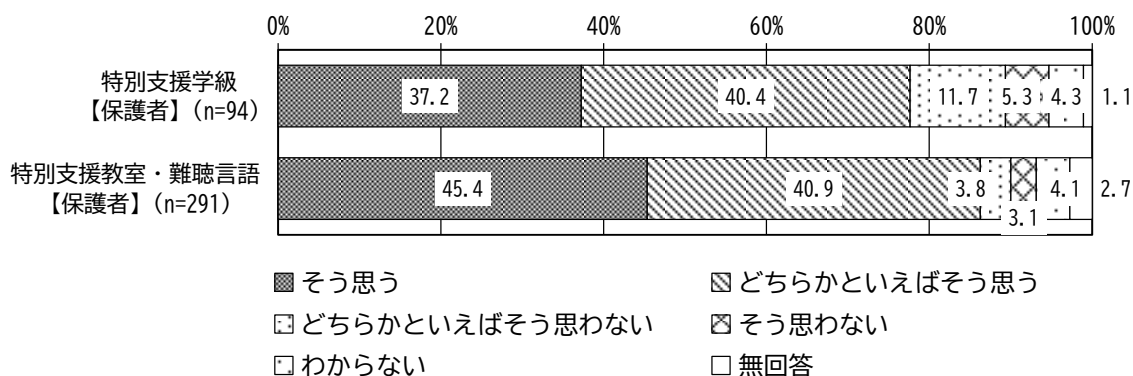


②「個別指導計画」

【保護者】

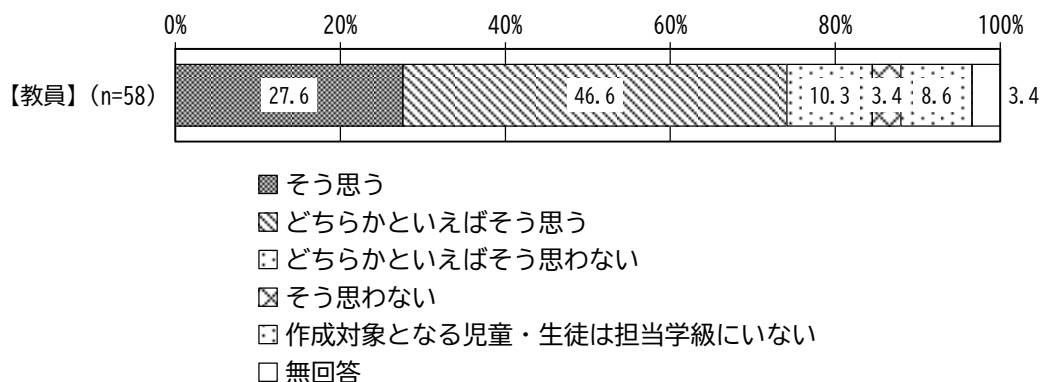
特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が77.6%、『そう思わない』が17.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が86.3%、『そう思わない』が6.9%となっています。



【教員】

『そう思う』が74.2%、『そう思わない』が13.7%となっています。



【設問連番 22】「こげら就学支援シート」を活用しているか

【保護者】特別支援学級 [問 19]、特別支援教室・難聴言語 [問 19]

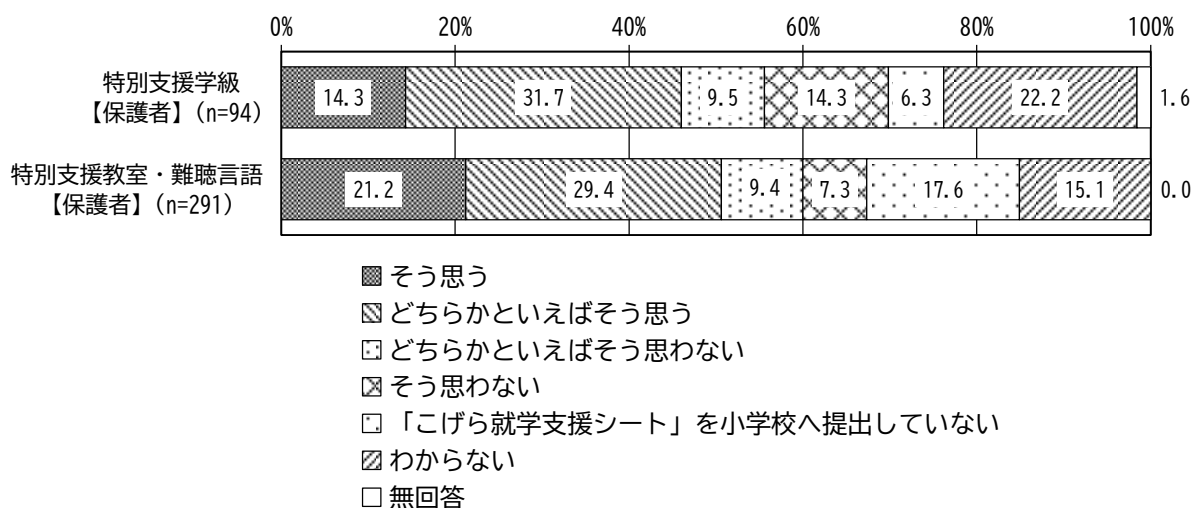
設問 「こげら就学支援シート(※)」が活用されたと思いますか。(1つ選ぶ) (小学校の保護者の方のみご回答ください)

※こげら就学支援シート：小学校に入学する際に、家庭や幼稚園、保育園等におけるお子さんの様子や保育の様子、指導内容・方法の工夫や配慮などを小学校に引き継ぐための資料です。

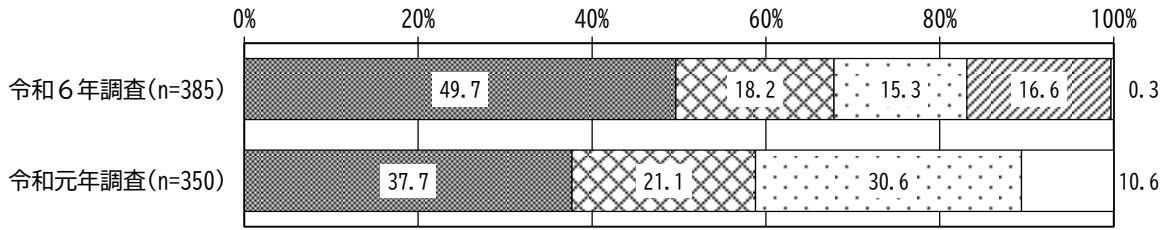
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 46.0%、『そう思わない』が 23.8%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 50.6%、『そう思わない』が 16.7%となっています。



(参考) 前回調査との比較



- 『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）
- ▨ 『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）
- 「こげら就学支援シート」を小学校へ提出していない
- ▨ わからない
- 無回答

※回答の選択肢について、令和元年調査では、「活用されていると感じる」「活用されていないと感じる」「こげら就学支援シート」を小学校へ提出していないの三択で尋ねました。そのため、令和6年調査では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』として比較しています。また、「わからない」は、令和6年調査から設けました。

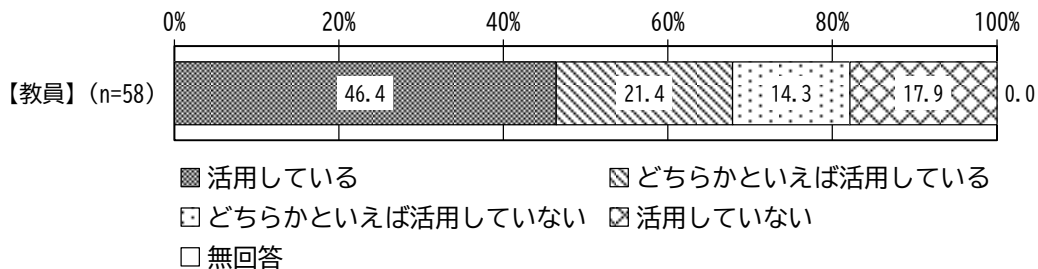
※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【教員】[問 11]

※この質問は、小学校低学年の担任教員のみご回答ください。（それ以外の方は、次の質問にお進みください。）

設問 あなたは、「こげら就学支援シート」を活用していますか。（「こげら就学支援シート」が提出されている児童についてお答えください。）（1つ選ぶ）

『活用している』（「活用している」又は「どちらかといえば活用している」）が67.8%、『活用していない』（「どちらかといえば活用していない」又は「活用していない」）が32.2%となっています。



【設問連番 23】 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実しているか

【保護者】 特別支援学級 [問 20]、特別支援教室・難聴言語 [問 20]、通常の学級 [問 11]

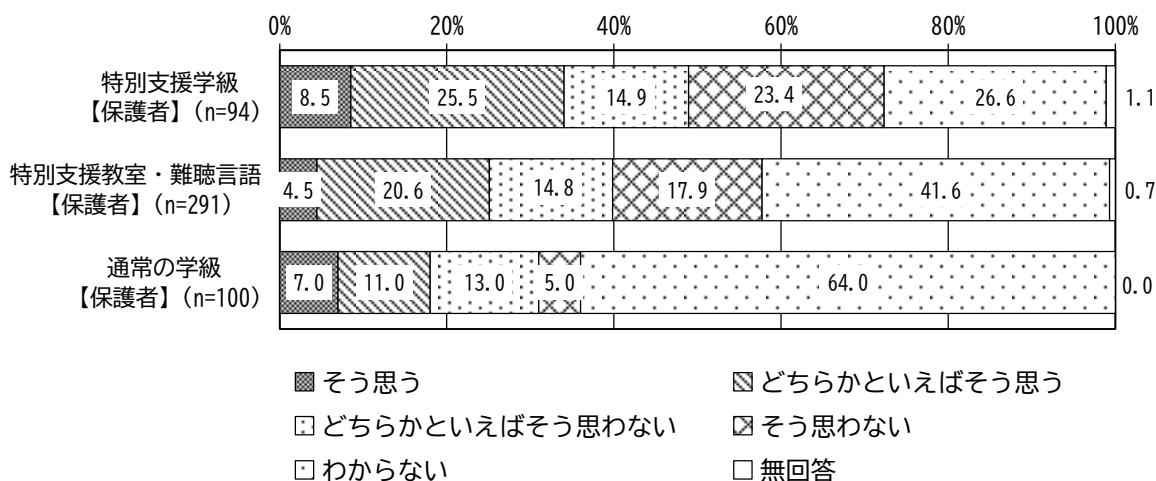
設問 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 34.0%、『そう思わない』が 38.3%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 25.1%、『そう思わない』が 32.7%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 18.0%、『そう思わない』が 18.8%となっています。

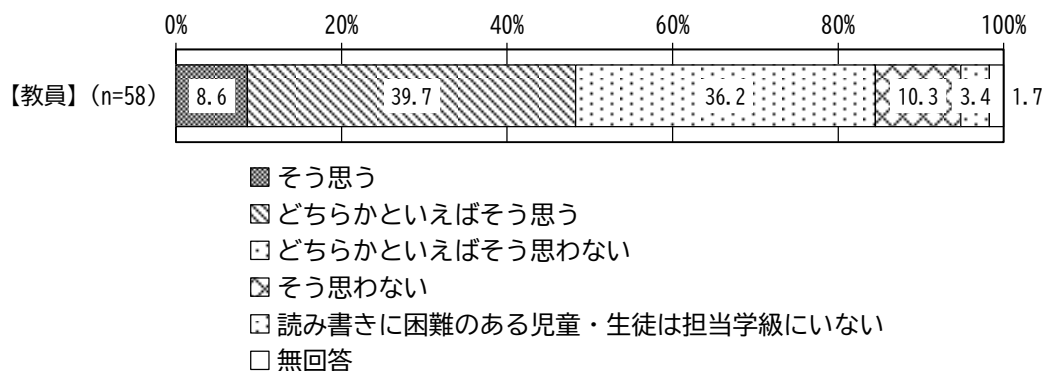


【設問連番 24】 学校において、読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実しているか

【教員】 [問 12]

設問 あなたは、読み書きに困難のある児童・生徒に対して十分な指導ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

『そう思う』(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」)が 48.3%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」)が 46.5%となっています。



【設問連番 25】読むこと、書くことが難しいか

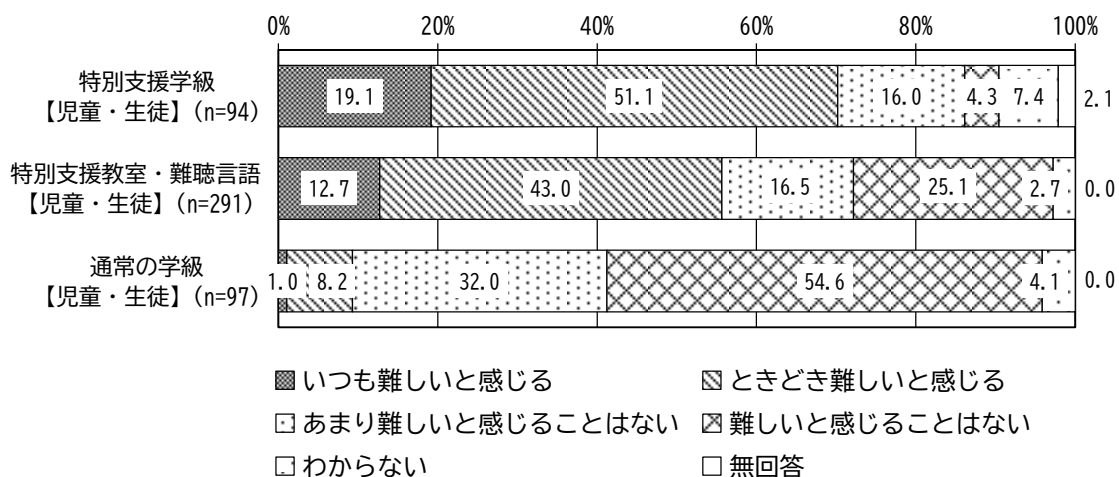
【児童・生徒】特別支援学級【問 36】、特別支援教室・難聴言語【問 36】、通常の学級【問 6】
 設問 読んだり、書いたりすることが難しいと感じることがありますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「いつも難しいと感じる」と「ときどき難しいと感じる」の合計を『難しいと感じる』、
 選択肢の「あまり難しいと感じることはない」と「難しいと感じることはない」の合計を『難しいと感じることはない』としています。)

特別支援学級【児童・生徒】では、『難しいと感じる』が%、『難しいと感じることはない』が%
 となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、『難しいと感じる』が%、『難しいと感じることはない』
 が%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、『難しいと感じる』が%、『難しいと感じることはない』が%と
 なっています。



【設問連番 25－1】 そのことに対して、先生は自分に合った方法で教えてくれるか

【児童・生徒】特別支援学級【問 36－1】、特別支援教室・難聴言語【問 36－1】、
通常の学級【問 6－1】

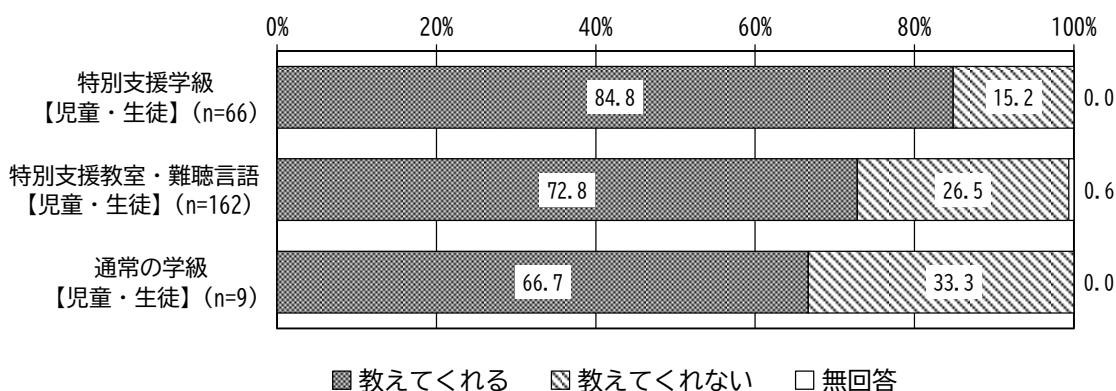
前問で「1. いつも難しいと感じる」または「2. ときどき難しいと感じる」を選んだ方にお聞きします。（それ以外の方は、次の質問にお進みください。）

設問 読んだり、書いたりすることができるように、先生はあなたに合った方法で教えてくれますか。（1つ選ぶ）

特別支援学級【児童・生徒】では、「教えてくれる」が84.8%、「教えてくれない」が15.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「教えてくれる」が72.8%、「教えてくれない」が26.5%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「教えてくれる」が66.7%、「教えてくれない」が33.3%となっています。

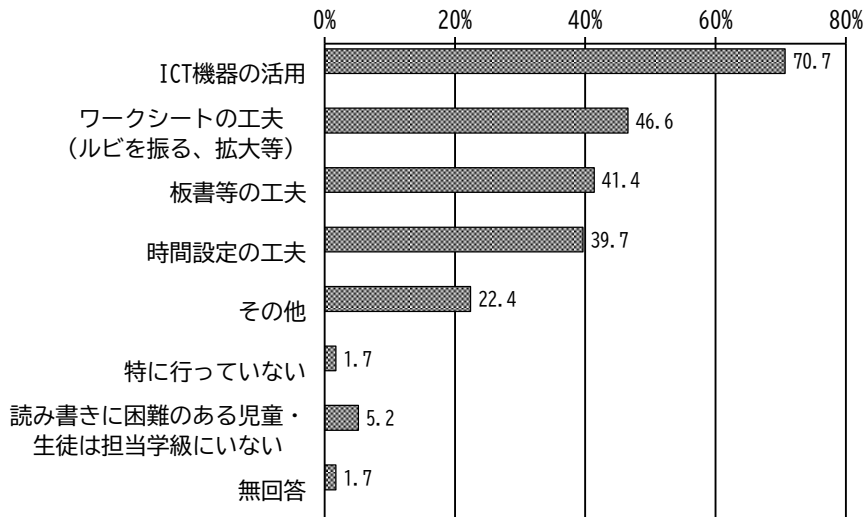


【設問連番 26】 読み書きに困難がある児童・生徒にどのような配慮を行っているか

【教員】 [問 13]

設問 あなたは、読み書きに困難がある児童・生徒にどのような配慮を行っていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「ICT 機器の活用」が 70.7%で最も多く、次いで「ワークシートの工夫 (ルビを振る、拡大等)」が 46.6%、「板書等の工夫」が 41.4%となっています。



■ 【教員】 (n=58)

【設問連番 27】 学校において、合理的配慮の理解・啓発の推進、対応ができているか

【保護者】 特別支援学級 [問 21]、特別支援教室・難聴言語 [問 21]、通常の学級 [問 12]

設問 学校において、合理的配慮(※)の理解・啓発の推進、対応ができていると感じますか。
(1つ選ぶ)

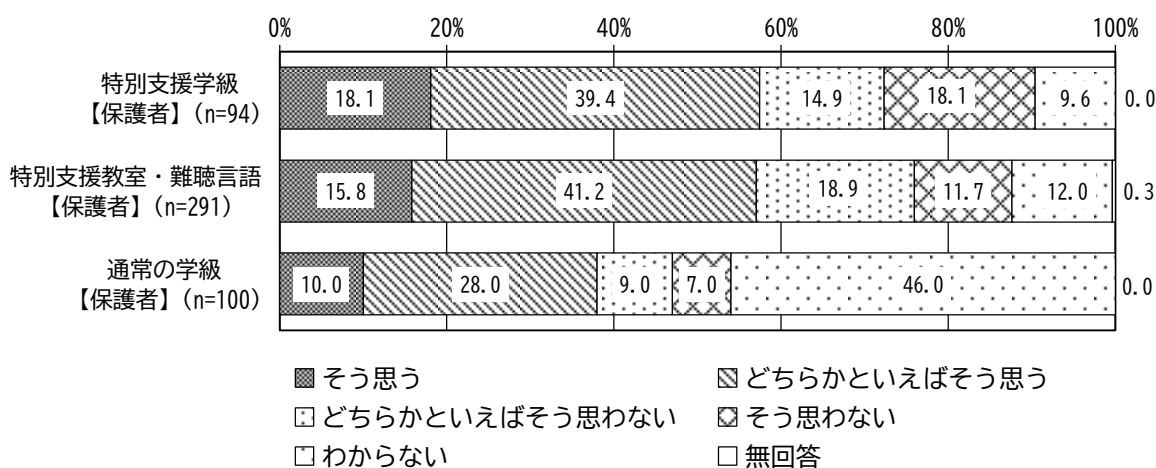
※合理的配慮：障がいによる学校での学習面や生活面での困難さを解消するために、必要に応じて提供される個別の配慮や支援（学校の負担になり過ぎない範囲）

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 57.5%、『そう思わない』が 33.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 57.0%、『そう思わない』が 30.6%となっています。

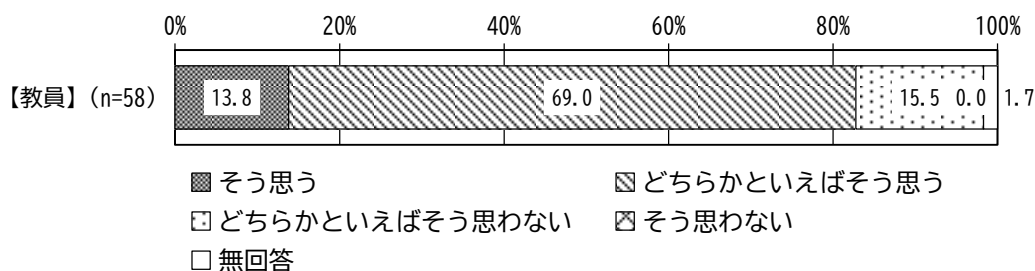
通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 38.0%、『そう思わない』が 16.0%となっています。



【教員】 [問 14]

設問 あなたは、合理的配慮の理解・啓発の推進、対応ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

『そう思う』(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」)が 82.8%、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」)が 15.5%となっています。



【設問連番 28】 学校で生活する上で、助けてほしいことはあるか

【児童・生徒】 特別支援学級 [問 37]、特別支援教室・難聴言語 [問 37]、通常の学級 [問 7]

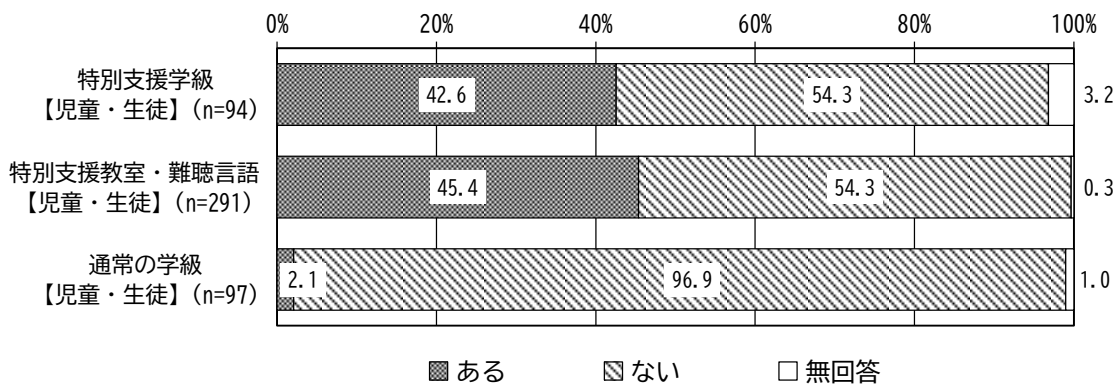
設問 あなた自身のことで、学校で学習や生活をする上で先生に特に気にしてほしいことがありますか。(1つ選ぶ)

例) 書くことが苦手で時間がかかってしまうので、板書が授業時間中に終わらない など

特別支援学級【児童・生徒】では、「ある」が42.6%、「ない」が54.3%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「ある」が45.4%、「ない」が54.3%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「ある」が2.1%、「ない」が96.9%となっています。



【設問連番 28-1】 そのことに対して、先生は対応してくれているか

【児童・生徒】 特別支援学級 [問 37-1]、特別支援教室・難聴言語 [問 37-1]、
通常の学級 [問 7-1]

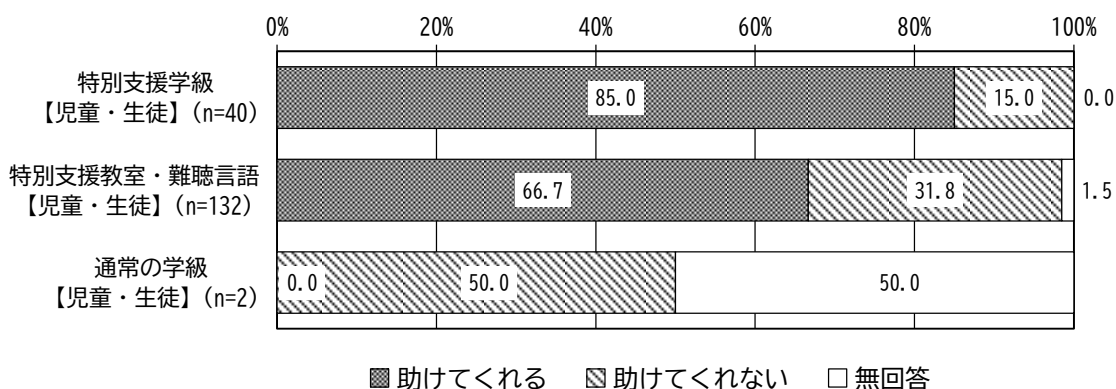
前問で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

設問 そのことに対して、先生は助けてくれていますか。(1つ選ぶ)

特別支援学級【児童・生徒】では、「助けてくれる」が85.0%、「助けてくれない」が15.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「助けてくれる」が66.7%、「助けてくれない」が31.8%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「助けてくれる」が0.0%、「助けてくれない」が50.0%となっています。



助けてくれる具体的な内容

■特別支援学級【児童・生徒】

18人から18件の具体的な内容の記載があった。

個別に声をかけてくれる、教えてくれる	7
自分にあった教材を用意してくれる	1
書く量を調整してくれる	1
忘れ物チェック表を作ってくれた	1
クールダウンできる場所や時間を用意してくれる	2
焦らなくていいようにゆっくりと対応してくれる	4
周りの子との関係がうまくいかない時に間に入ってくれる	1

■特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】

60人から62件の具体的な内容の記載があった。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

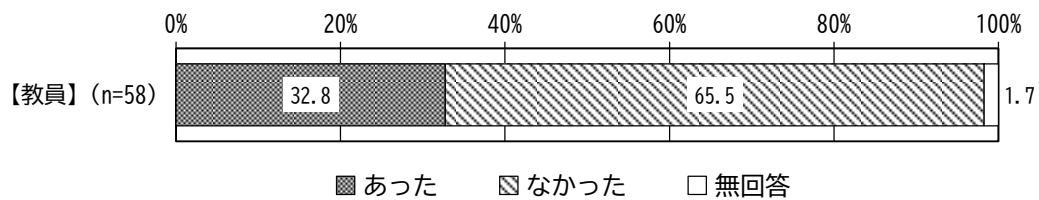
個別に声をかけてくれる、教えてくれる	37
書く量を減らしてくれたり、書くのを待ってくれる	9
学習者用端末を使った板書やテキストを用意してくれる	4
言葉だけではなく、書いたりジェスチャーで教えてくれる	2
読むことに困っているときに一緒に読んでくれる	1
クールダウンできる場所や時間を用意してくれる	1
音が苦手なので、音楽の時間は別室対応してくれたり配慮してくれる	1
座席や班を配慮してくれる	1
焦らなくていいようにゆっくりと対応してくれる	4
同級生との関係がうまくいかない時に間に入ってくれる	2

【設問連番 29】保護者や児童・生徒から合理的配慮の要望があったか

【教員】【問 15】

設問 今年度、保護者や児童・生徒から合理的配慮の要望はありましたか。(1つ選ぶ)

「あった」が32.8%、「なかった」が65.5%となっています。



【設問連番 30】 配慮した内容

【教員】〔問 15－1〕

前問で「1. あった」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

設問 要望の内容と、そのことにどう対応したのかについて、ご記入ください。

17 人から具体的な内容の記載があった。以下配慮した内容を記載している。

試験時間の延長を行った	5
試験時等に振り仮名を振った	2
漢字の書き取りテストを読みのテストに変更した	1
試験の回答をひらがなでも可としている	1
学習者用端末を活用した板書を許可している	2
課題の提出を紙ではなく学習者用端末で行うようにしている	1
デジター教科書を活用している	1
音による刺激を減らすためのイヤーマフの使用を許可している	1
課題提出等をできるところまででもよしとしている	1
特定の音が刺激となる児童・生徒のために座席を考慮している	1
他の教員や周囲の児童・生徒にも特性を伝え、温かく見守れる環境を用意した	1

【設問連番 31】 ICT 機器を使った授業はわかりやすいか

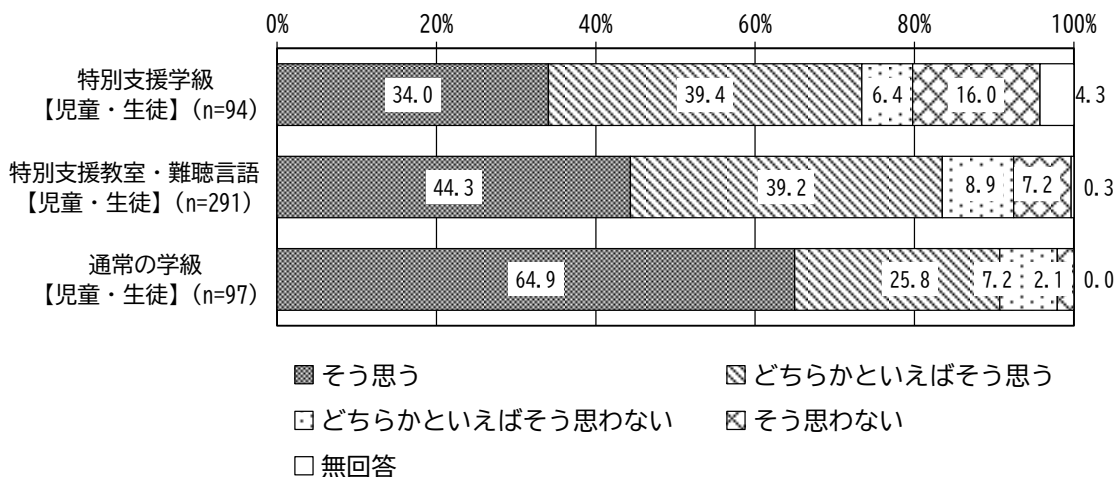
【児童・生徒】特別支援学級 [問 38]、特別支援教室・難聴言語 [問 38]、通常の学級 [問 8]
 設問 ICT 機器（学習者用端末や電子黒板など）を使った授業はわかりやすいと思いますか。
 （1つ選ぶ）

（選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。）

特別支援学級【児童・生徒】では、『そう思う』が73.4%、『そう思わない』が22.4%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、『そう思う』が83.5%、『そう思わない』が16.1%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、『そう思う』が90.7%、『そう思わない』が9.3%となっています。



【設問連番 32】 ICT 機器の拡充による学習支援ができているか

【保護者】特別支援学級【問 22】、特別支援教室・難聴言語【問 22】、通常の学級【問 12】

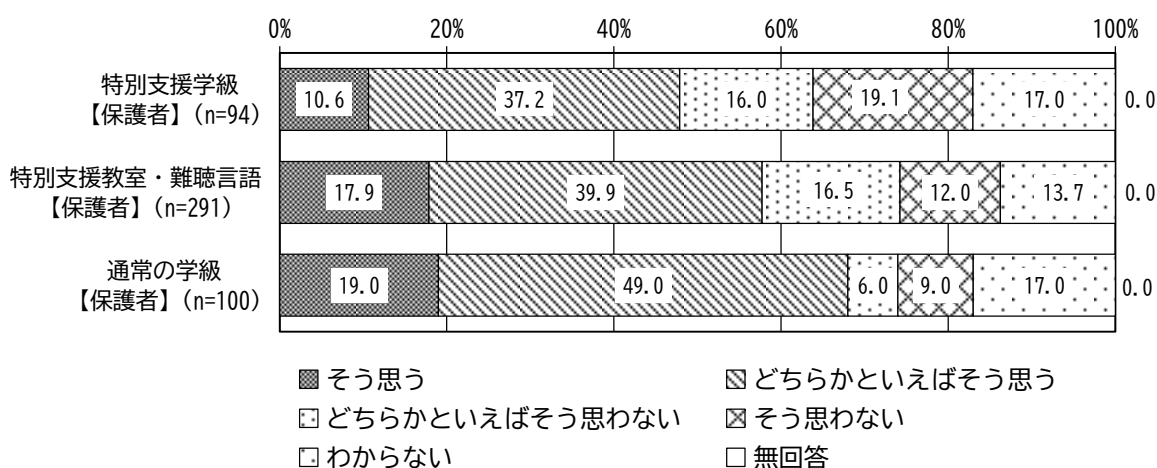
設問 ICT 機器（学習者用端末や電子黒板など）を活用した授業や学習支援が充実していると思いますか。（1つ選ぶ）

（選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。）

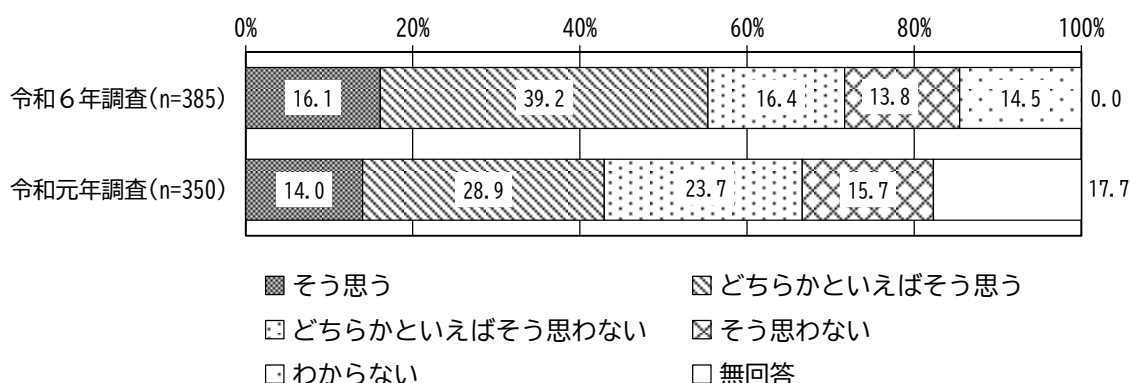
特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 47.8%、『そう思わない』が 35.1%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 57.8%、『そう思わない』が 28.5%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 68.0%、『そう思わない』が 15.0%となっています。



（参考） 前回調査との比較



※回答の選択肢について、令和元年調査から令和6年度調査では、次のように改めました。「満足している」を「そう思う」、「少し満足している」を「どちらかといえばそう思う」、「あまり満足していない」を「どちらかといえばそう思わない」、「満足していない」を「そう思わない」。また、「わからない」は、令和6年調査から設けました。

※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【設問連番 33】 ICT 機器の拡充によりどのような学習支援を行っているか

【教員】[問 16]

設問 ICT 機器の拡充によりどのような学習支援を行っているか、ご記入ください。

42 人から 49 件の具体的な内容の記載があった。なお、1 人で 2 つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

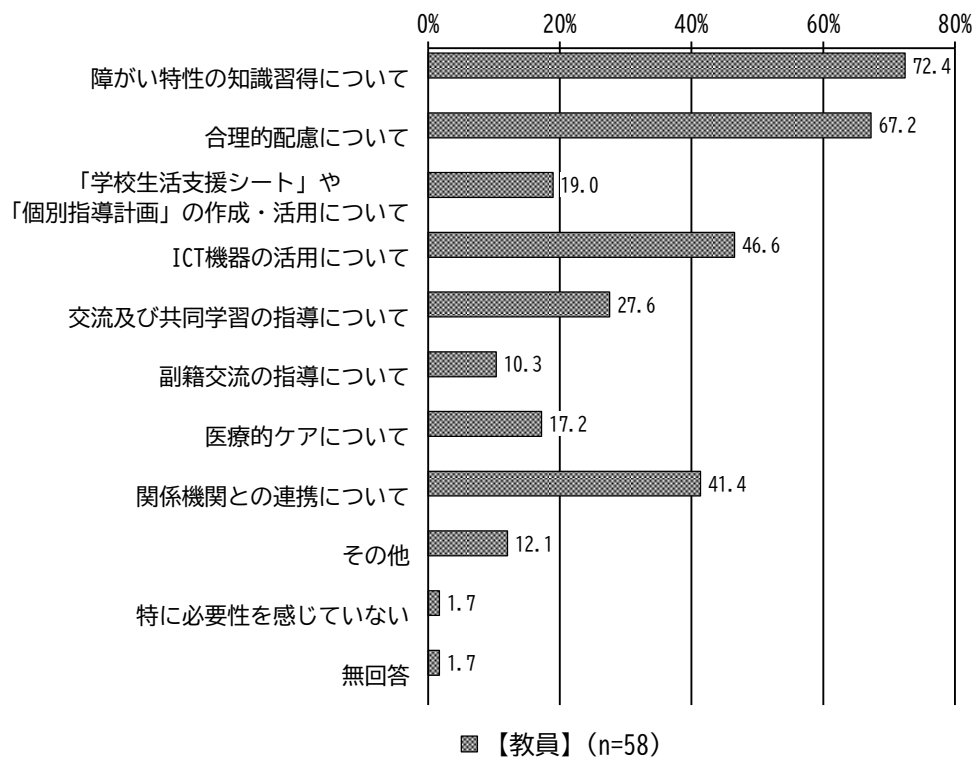
学習者用端末を活用した板書や課題提出を行っている	22
学習者用端末を使用して個別のワークシートを用意している	7
画像や動画を活用して視覚的にわかる授業展開を行っている	6
デジタル教科書を活用して視覚的にわかる授業展開を行っている	1
Google Classroom に板書データや授業連絡の掲載等を行っている	4
デジター教科書等の音声教材を活用している	2
学習者用端末で板書にかかる時間を省略し、考えを整理する時間を十分に取るようにしている	1
文字の拡大や翻訳等の機能を活用している	2
学習者用端末のキーボード入力だけでなく音声入力も使用している	1
わからない言葉や漢字があるときに、学習者用端末の検索機能ですぐに調べられるようにしている	1
反復練習が必用な九九等の学習に学習者用端末を活用している	1
一部の生徒にオンラインでの授業を行っている	1

【設問連番 34】 特別支援教育を推進するにあたり、どのような研修が必要だと感じているか

【教員】【問 17】

設問 特別支援教育を推進するにあたり、どのような研修が必要だと感じていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「障がい特性の知識習得について」が72.4%で最も多く、次いで「合理的配慮について」が67.2%、「ICT 機器の活用について」が46.6%となっています。



4 学校と関係機関との連携について

【設問連番 35】 学校以外でこどもの居場所となっている場所はあるか

【保護者】 特別支援学級 [問 23]、特別支援教室・難聴言語 [問 23]、通常の学級 [問 14]、
特別支援学校 [問 6]

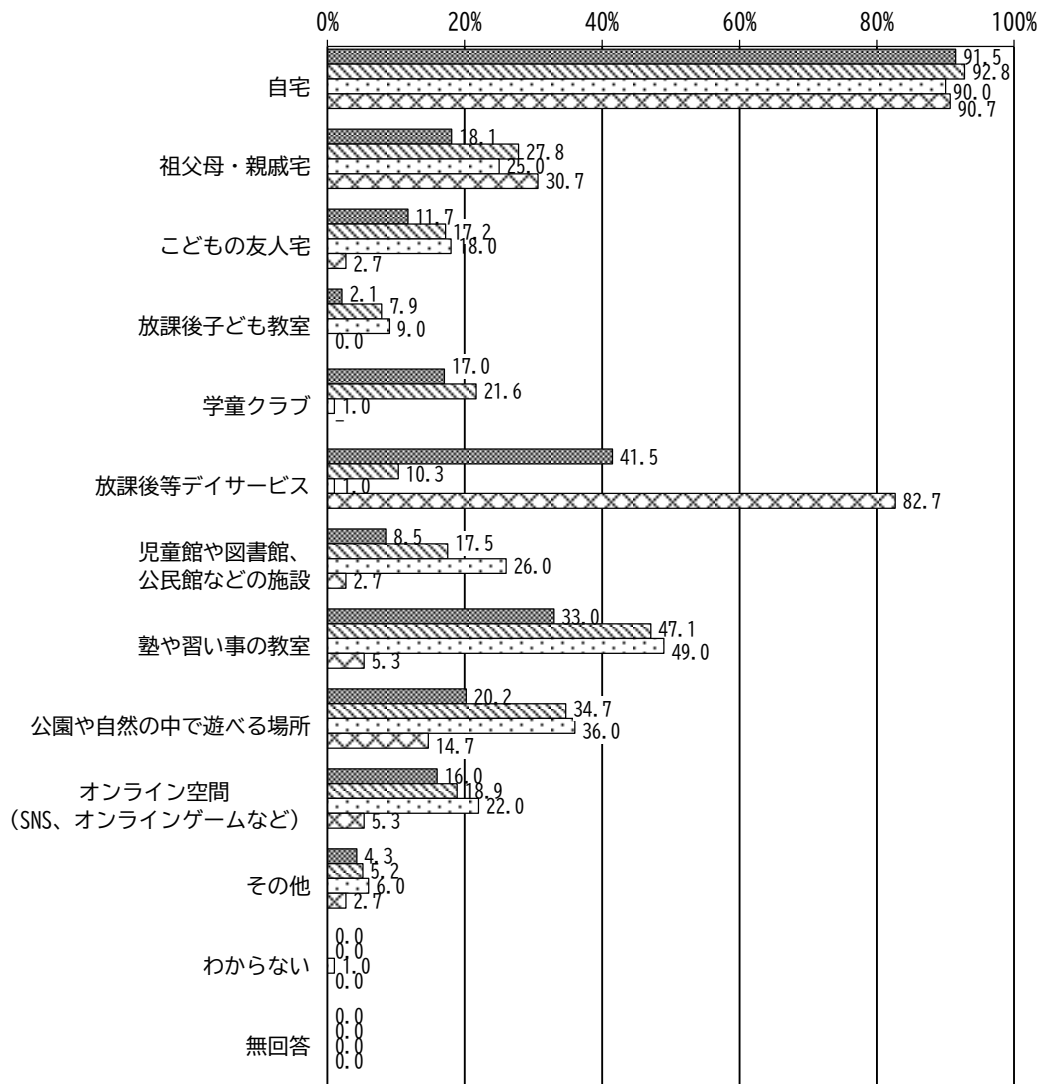
設問 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「自宅」が 91.5%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 41.5%、「塾や習い事の教室」が 33.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「自宅」が 92.8%で最も多く、次いで「塾や習い事の教室」が 47.1%、「公園や自然の中で遊べる場所」が 34.7%となっています。

通常の学級【保護者】では、「自宅」が 90.0%で最も多く、次いで「塾や習い事の教室」が 49.0%、「公園や自然の中で遊べる場所」が 36.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、「自宅」が 90.7%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 82.7%、「祖父母・親戚宅」が 30.7%となっています。



- 特別支援学級【保護者】(n=94)
- ▨ 特別支援教室・難聴言語【保護者】(n=291)
- ▩ 通常の学級【保護者】(n=100)
- ▧ 特別支援学校【保護者】(n=75)

【設問連番 36】 放課後に自宅以外で過ごしている場所はあるか

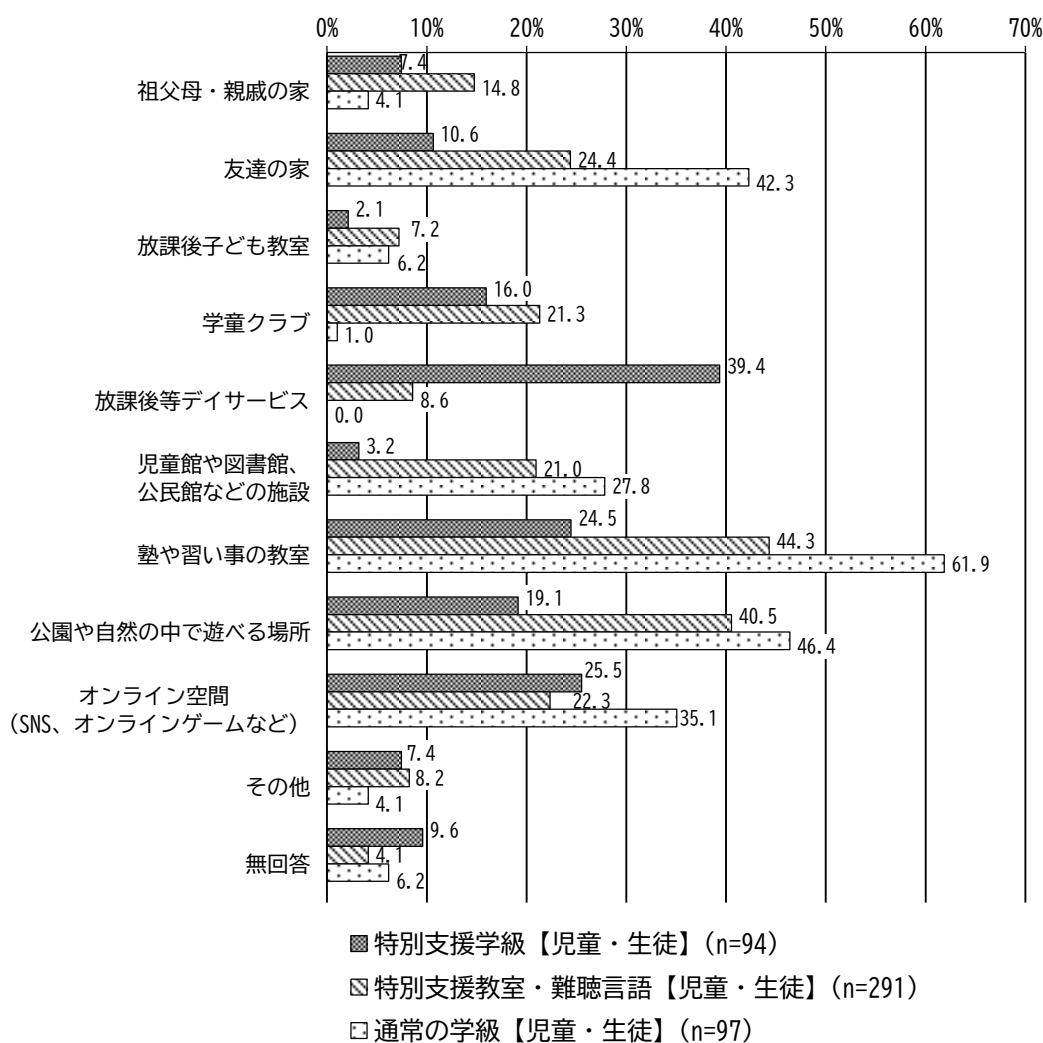
【児童・生徒】 特別支援学級 [問 39]、特別支援教室・難聴言語 [問 39]、通常の学級 [問 9]

設問 放課後、自宅以外にどのような場所で過ごしていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【児童・生徒】では、「放課後等デイサービス」が39.4%で最も多く、次いで「オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）」が25.5%、「塾や習い事の教室」が24.5%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「塾や習い事の教室」が44.3%で最も多く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」が40.5%、「友達の家」が24.4%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「塾や習い事の教室」が61.9%で最も多く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」が46.4%、「友達の家」が42.3%となっています。



【設問連番 37】 学校と関係機関での連携や情報共有が図られているか

【保護者】特別支援学級 [問 24]、特別支援教室・難聴言語 [問 24]、通常の学級 [問 15]

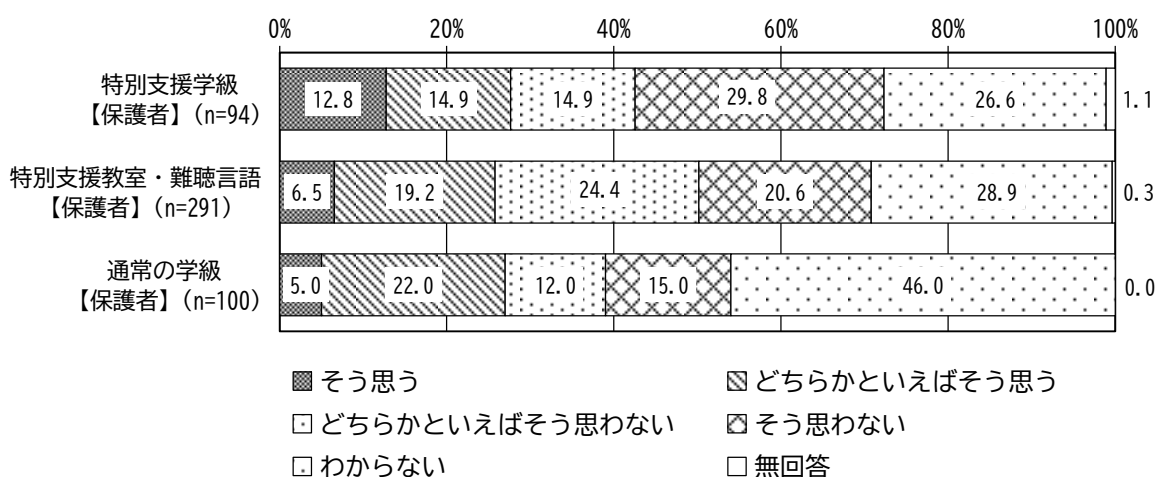
設問 学校と関係機関(学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など)との情報共有ができていますか。(1つ選ぶ)

(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

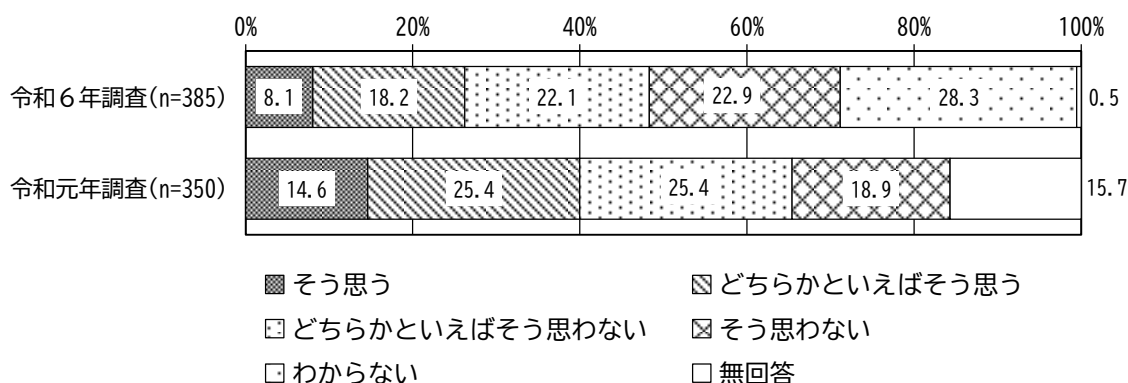
特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 27.7%、『そう思わない』が 44.7%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 25.7%、『そう思わない』が 45.0%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 27.0%、『そう思わない』が 27.0%となっています。



(参考) 前回調査との比較



※回答の選択肢について、令和元年調査から令和6年度調査では、次のように改めました。「満足している」を「そう思う」、「少し満足している」を「どちらかといえばそう思う」、「あまり満足していない」を「どちらかといえばそう思わない」、「満足していない」を「そう思わない」。また、「わからない」は、令和6年調査から設けました。

※比較対象について、令和6年調査では、特別支援学級【保護者】と特別支援教室・難聴言語【保護者】の回答者数の合計を集計したもの、令和元年調査では、知的障がい固定学級【保護者】、情緒障がい等通級指導学級、特別支援教室【保護者】、難聴・言語障がい通級指導学級【保護者】の回答者数の合計を集計したものととなります。

【設問連番 38】 学校と関係機関で共有すべきと感じることはなにか

【保護者】 特別支援学級 [問 25]、特別支援教室・難聴言語 [問 25]、通常の学級 [問 16]

設問 学校と関係機関(学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など)で共有すべきだと思うことは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

【教員】 [問 19]

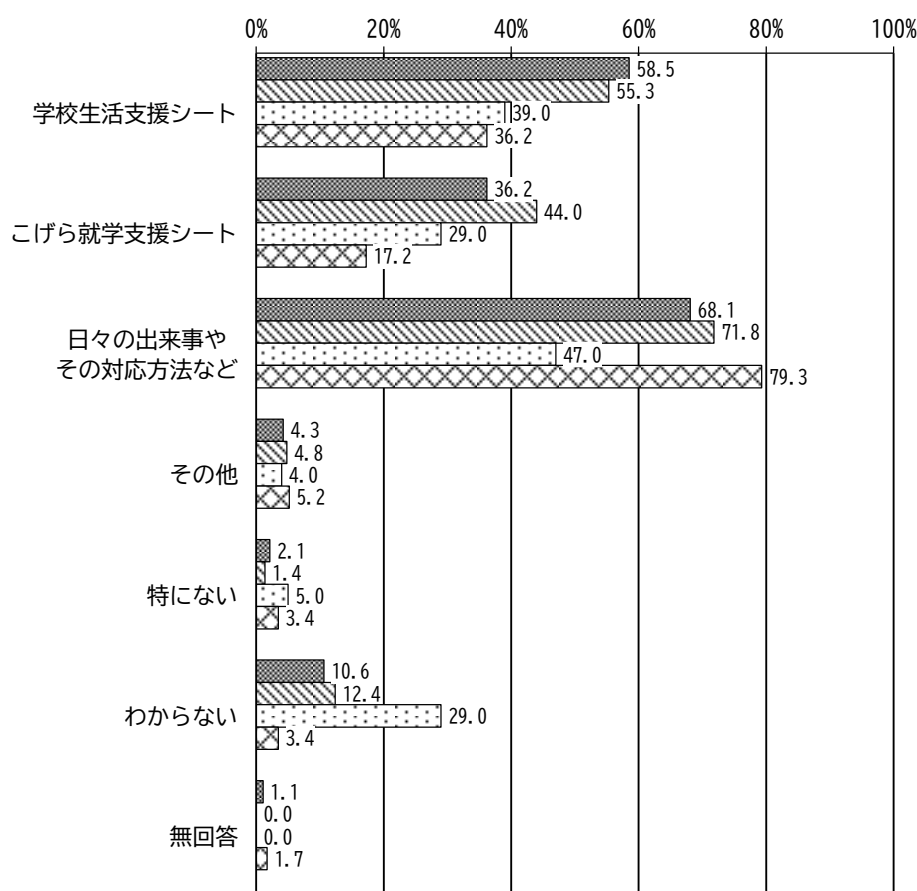
設問 学校と関係機関(学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など)で共有すべきだと思うことは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

【保護者】

「学校生活支援シート」が、特別支援学級では 58.5%、特別支援教室・難聴言語では 55.3%、通常の学級では 39.0%となっています。「こげら就学支援シート」が、特別支援学級では 36.2%、特別支援教室・難聴言語では 44.0%、通常の学級では 29.0%となっています。「日々の出来事やその対応方法など」が、特別支援学級では 68.1%、特別支援教室・難聴言語では 71.8%、通常の学級では 47.0%となっています。

【教員】

「学校生活支援シート」が 36.2%、「こげら就学支援シート」が 17.2%、「日々の出来事やその対応方法など」が 79.3%となっています。



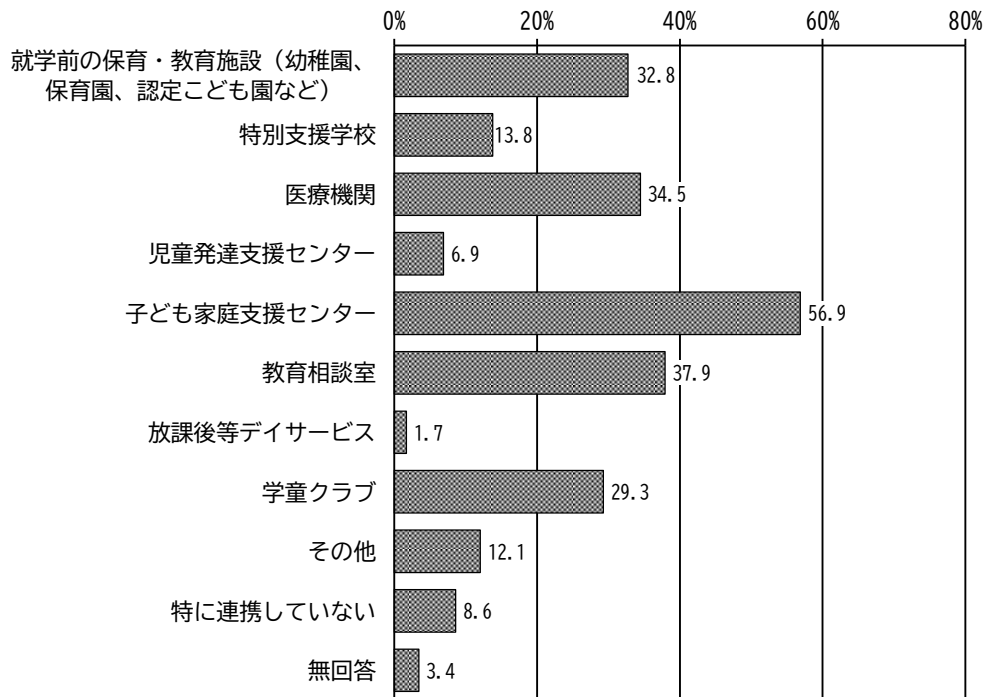
■ 特別支援学級【保護者】 (n=94)
 ▨ 特別支援教室・難聴言語【保護者】 (n=291)
 ▩ 通常の学級【保護者】 (n=100)
 ▤ 【教員】 (n=58)

【設問連番 39】 どのような関係機関と連携しているか

【教員】 [問 20]

設問 普段、どのような関係機関と連携していますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「子ども家庭支援センター」が56.9%で最も多く、次いで「教育相談室」が37.9%、「医療機関」が34.5%となっています。



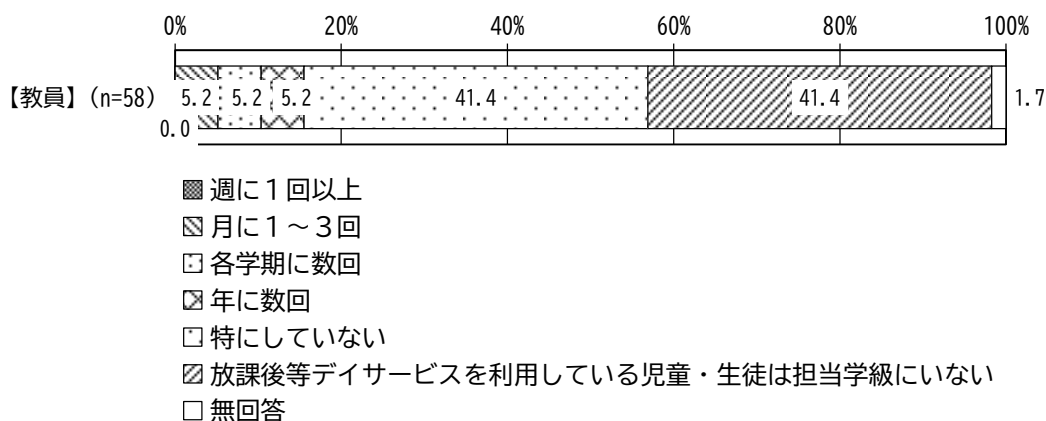
■ 【教員】 (n=58)

【設問連番 40】 放課後等デイサービスとの連携や情報共有の頻度

【教員】 [問 21]

設問 普段、放課後等デイサービスとの連携や情報共有はどのくらいの頻度で行っていますか。
(1つ選ぶ)

「特にしていない」が41.4%で最も多く、「月に1～3回」、「各学期に数回」、「年に数回」がそれぞれ5.2%となっています。



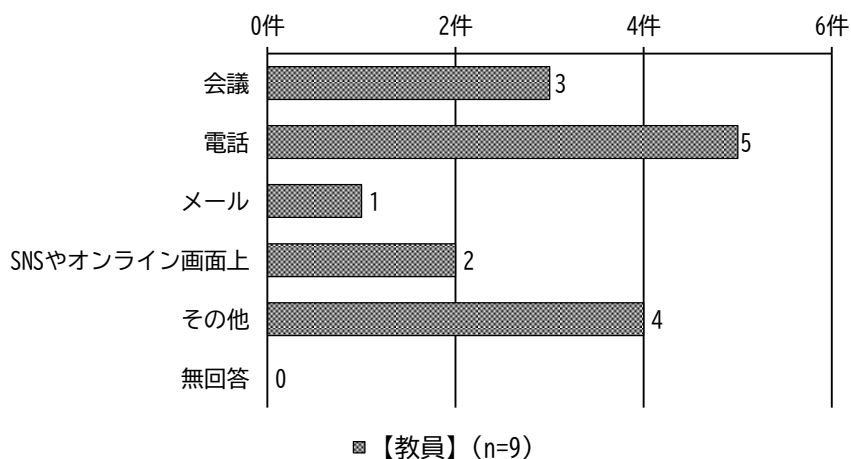
【設問連番 41】 放課後等デイサービスとの連携や情報共有の方法

【教員】 [問 21-1]

前問で「1.」～「4.」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

設問 放課後等デイサービスとの連携や情報共有はどのような方法で行っていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「電話」が5件で最も多く、次いで「会議」3件、「SNS やオンライン画面上」が2件となっています。

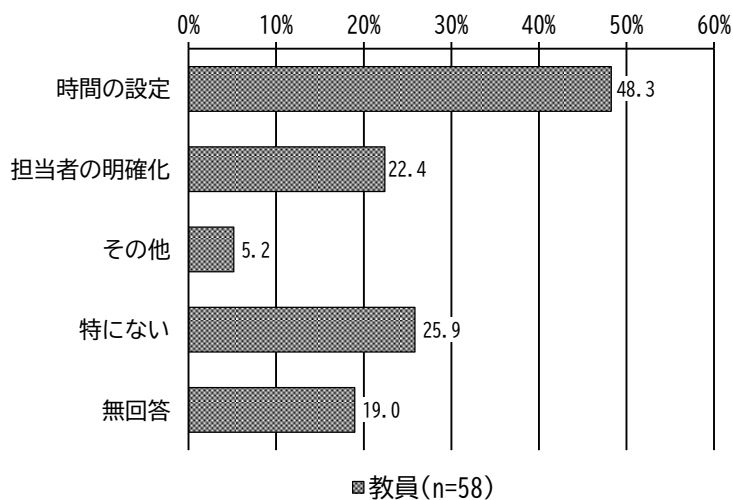


【設問連番 42】 放課後等デイサービスと連携や情報共有する上での課題

【教員】 [問 22]

設問 放課後等デイサービスと連携や情報共有する上で、どのような課題がありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「時間の設定」が 48.3%、「担当者の明確化」が 22.4%となっています。一方、「特にない」は 25.9%となっています。

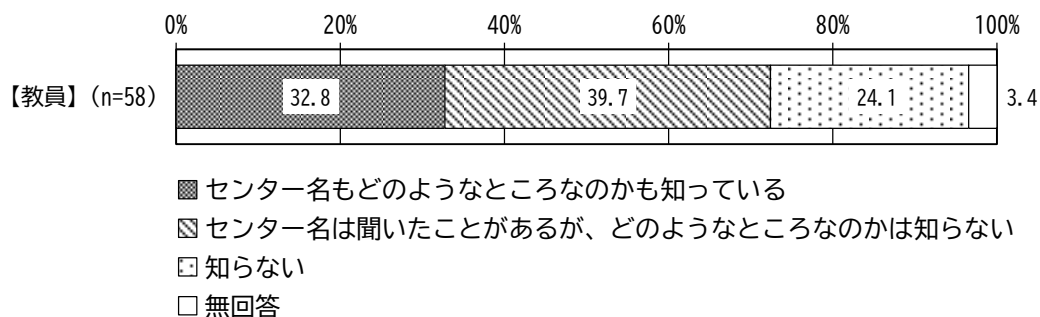


【設問連番 43】 児童発達支援センターの認知度

【教員】 [問 23]

設問 「児童発達支援センター」がどのようなところか知っていますか。(1つ選ぶ)

「センター名もどのようなところなのかも知っている」が 32.8%、「センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない」が 39.7%、「知らない」が 24.1%となっています。

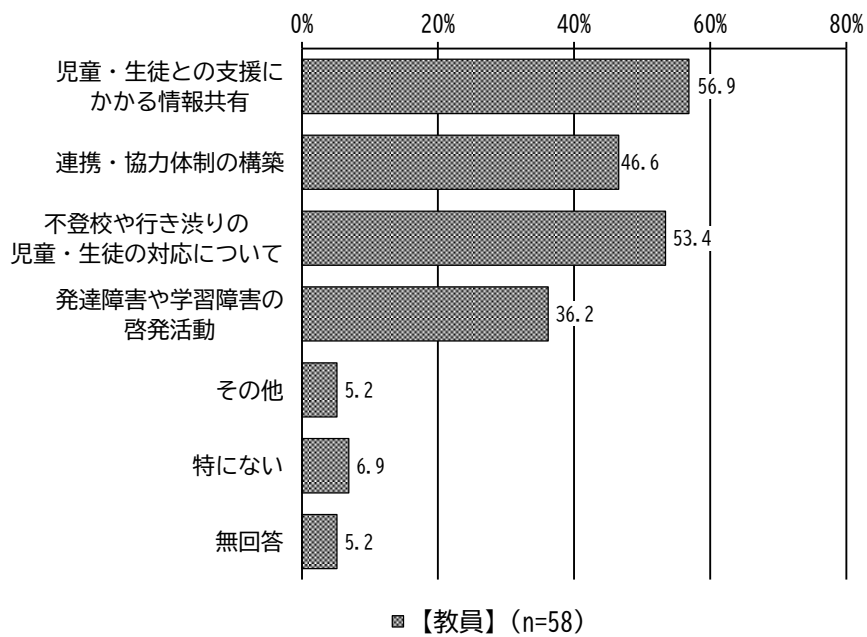


【設問連番 44】 特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターの関係に期待するものは何か

【教員】 [問 24]

設問 小平市の特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターとの関係に期待するものはありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「児童・生徒との支援にかかる情報共有」が56.9%で最も多く、次いで「不登校や行き渋りの児童・生徒の対応について」が53.4%、「連携・協力体制の構築」が46.6%となっています。



5 相談先について

【設問連番 45】 こどものことは誰に相談しているか

【保護者】 特別支援学級 [問 26]、特別支援教室・難聴言語 [問 26]、通常の学級 [問 17]、
特別支援学校 [問 7]

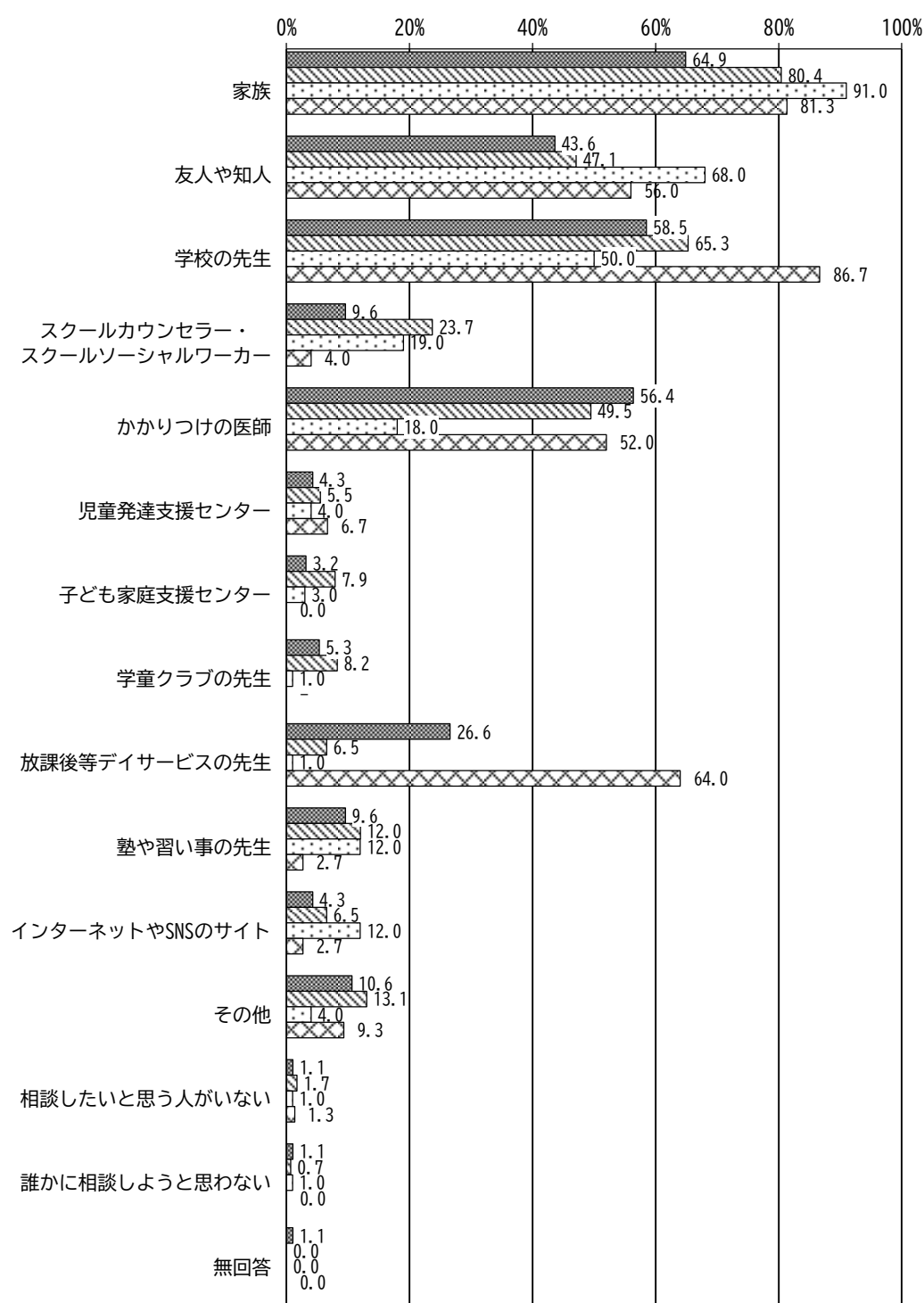
設問 お子さんのことで困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「家族」が 64.9%で最も多く、次いで「学校の先生」が 58.5%、「かかりつけの医師」が 56.4%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「家族」が 80.4%で最も多く、次いで「学校の先生」が 65.3%、「かかりつけの医師」が 49.5%となっています。

通常の学級【保護者】では、「家族」が 91.0%で最も多く、次いで「友人や知人」が 68.0%、「学校の先生」が 50.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、「学校の先生」が 86.7%で最も多く、次いで「家族」が 81.3%、「放課後等デイサービスの先生」が 64.0%となっています。



- 特別支援学級【保護者】 (n=94)
- ▨ 特別支援教室・難聴言語【保護者】 (n=291)
- 通常の学級【保護者】 (n=100)
- ⊠ 特別支援学校【保護者】 (n=75)

【設問連番 46】 保護者の相談先は十分であるか

【保護者】 特別支援学級 [問 27]、特別支援教室・難聴言語 [問 27]、通常の学級 [問 18]、
特別支援学校 [問 8]

設問 保護者の相談先は十分だと思いますか。(1つ選ぶ)

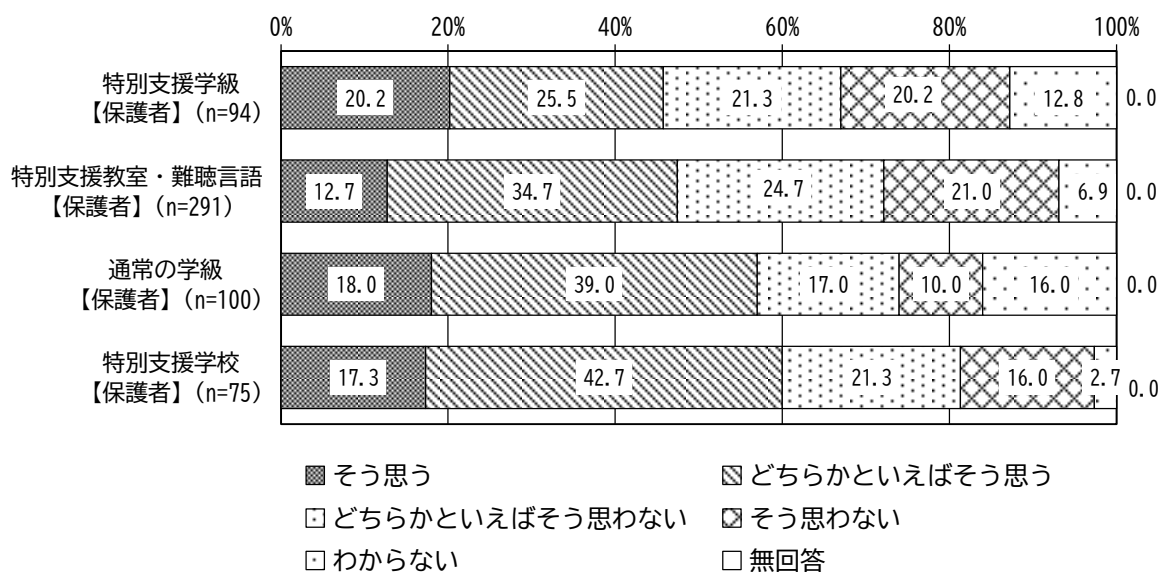
(選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『そう思う』、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を『そう思わない』としています。)

特別支援学級【保護者】では、『そう思う』が 45.7%、『そう思わない』が 41.5%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、『そう思う』が 47.4%、『そう思わない』が 45.7%となっています。

通常の学級【保護者】では、『そう思う』が 57.0%、『そう思わない』が 27.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、『そう思う』が 60.0%、『そう思わない』が 37.3%となっています。



【設問連番 47】 児童発達支援センターの認知度

【保護者】 特別支援学級 [問 28]、特別支援教室・難聴言語 [問 28]、通常の学級 [問 19]、
特別支援学校 [問 9]

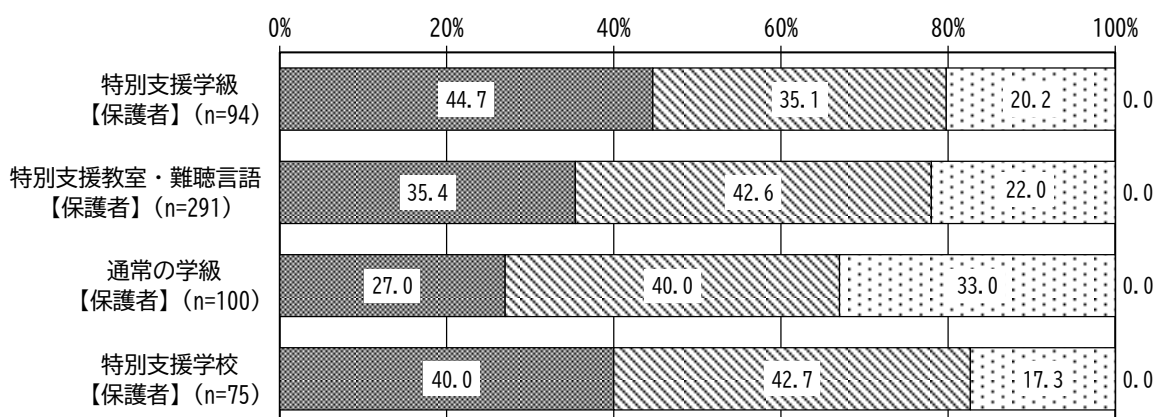
設問 「児童発達支援センター」がどのようなところか知っていますか。(1つ選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「センター名もどのようなところなのかも知っている」が44.7%、「センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない」が35.1%、「知らない」が20.2%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「センター名もどのようなところなのかも知っている」が35.4%、「センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない」が42.6%、「知らない」が22.0%となっています。

通常の学級【保護者】では、「センター名もどのようなところなのかも知っている」が27.0%、「センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない」が40.0%、「知らない」が33.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、「センター名もどのようなところなのかも知っている」が40.0%、「センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない」が42.7%、「知らない」が17.3%となっています。



- センター名もどのようなところなのかも知っている
- ▨ センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない
- 知らない
- 無回答

【設問連番 48】 児童発達支援センターでこどもの発達について相談してみたいと思うか

【保護者】 特別支援学級 [問 29]、特別支援教室・難聴言語 [問 29]、通常の学級 [問 20]、特別支援学校 [問 10]

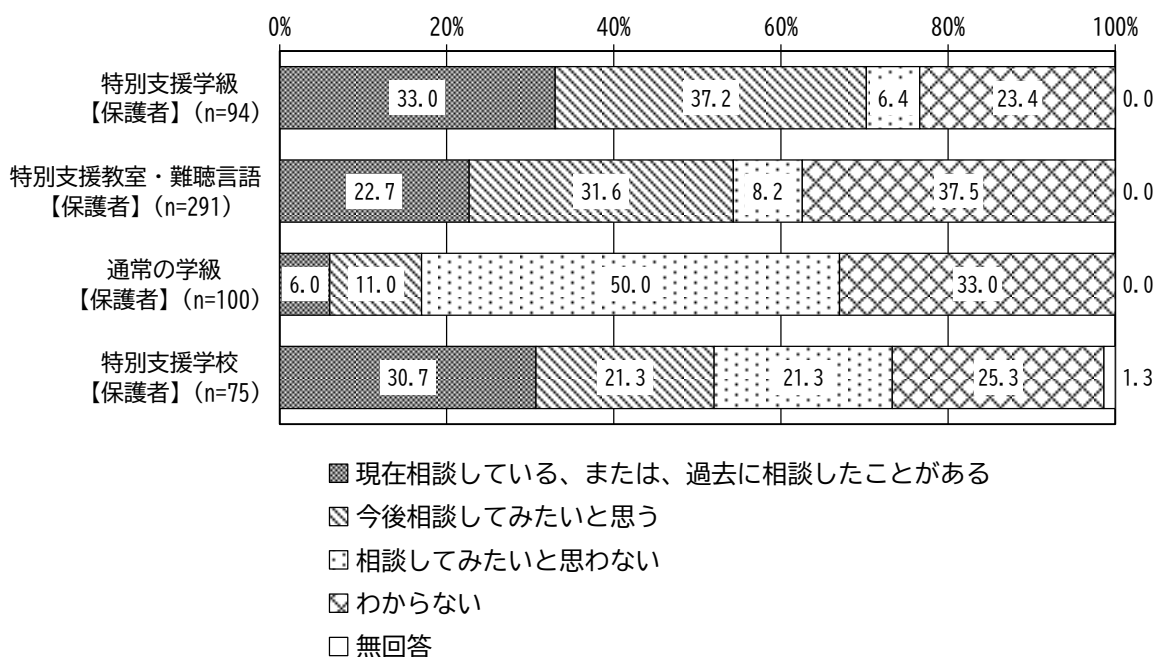
設問 児童発達支援センターで、お子さんの発達について相談してみたいと思いますか。(1つ選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「現在相談している、または、過去に相談したことがある」が33.0%、「今後相談してみたいと思う」が37.2%、「相談してみたいと思わない」が6.4%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「現在相談している、または、過去に相談したことがある」が22.7%、「今後相談してみたいと思う」が31.6%、「相談してみたいと思わない」が8.2%となっています。

通常の学級【保護者】では、「現在相談している、または、過去に相談したことがある」が6.0%、「今後相談してみたいと思う」が11.0%、「相談してみたいと思わない」が50.0%となっています。

特別支援学校【保護者】では、「現在相談している、または、過去に相談したことがある」が30.7%、「今後相談してみたいと思う」が21.3%、「相談してみたいと思わない」が21.3%となっています。



【設問連番 49】 特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターの関係に期待するものは何か

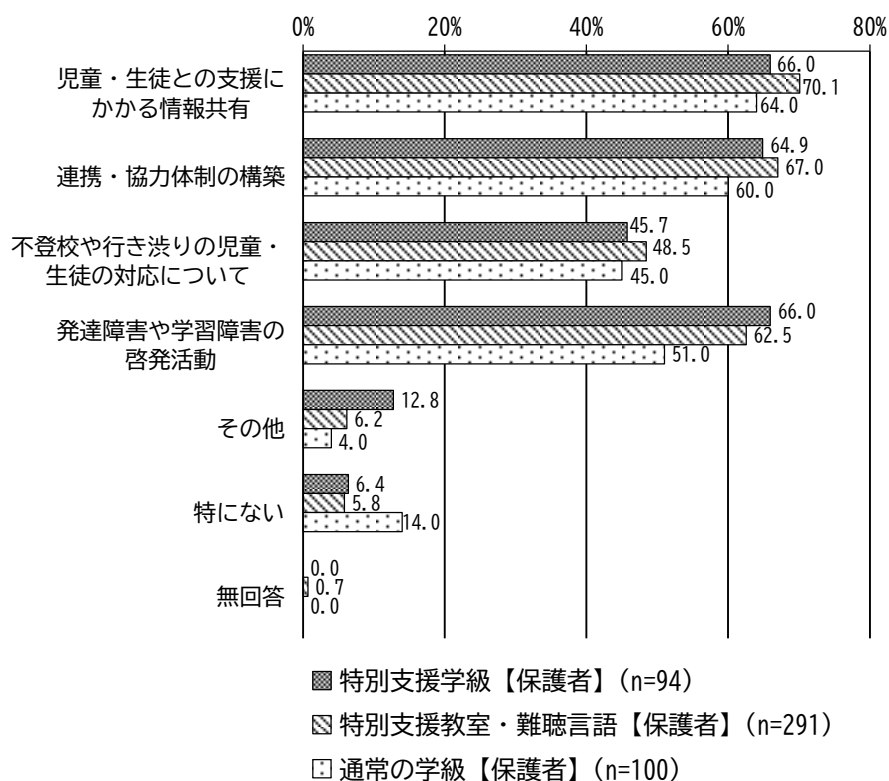
【保護者】 特別支援学級 [問 30]、特別支援教室・難聴言語 [問 30]、通常の学級 [問 21]

設問 小平市の特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターとの関係に期待するものはありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【保護者】では、「児童・生徒との支援にかかる情報共有」と「発達障害や学習障害の啓発活動」がそれぞれ66.0%で最も多く、次いで「連携・協力体制の構築」が64.9%となっています。

特別支援教室・難聴言語【保護者】では、「児童・生徒との支援にかかる情報共有」が70.1%で最も多く、次いで「連携・協力体制の構築」が67.0%、「発達障害や学習障害の啓発活動」が62.5%となっています。

通常の学級【保護者】では、「児童・生徒との支援にかかる情報共有」が64.0%で最も多く、次いで「連携・協力体制の構築」が60.0%、「発達障害や学習障害の啓発活動」が51.0%となっています。



【設問連番 50】 学校で困りごとがあったときに、誰に相談するか

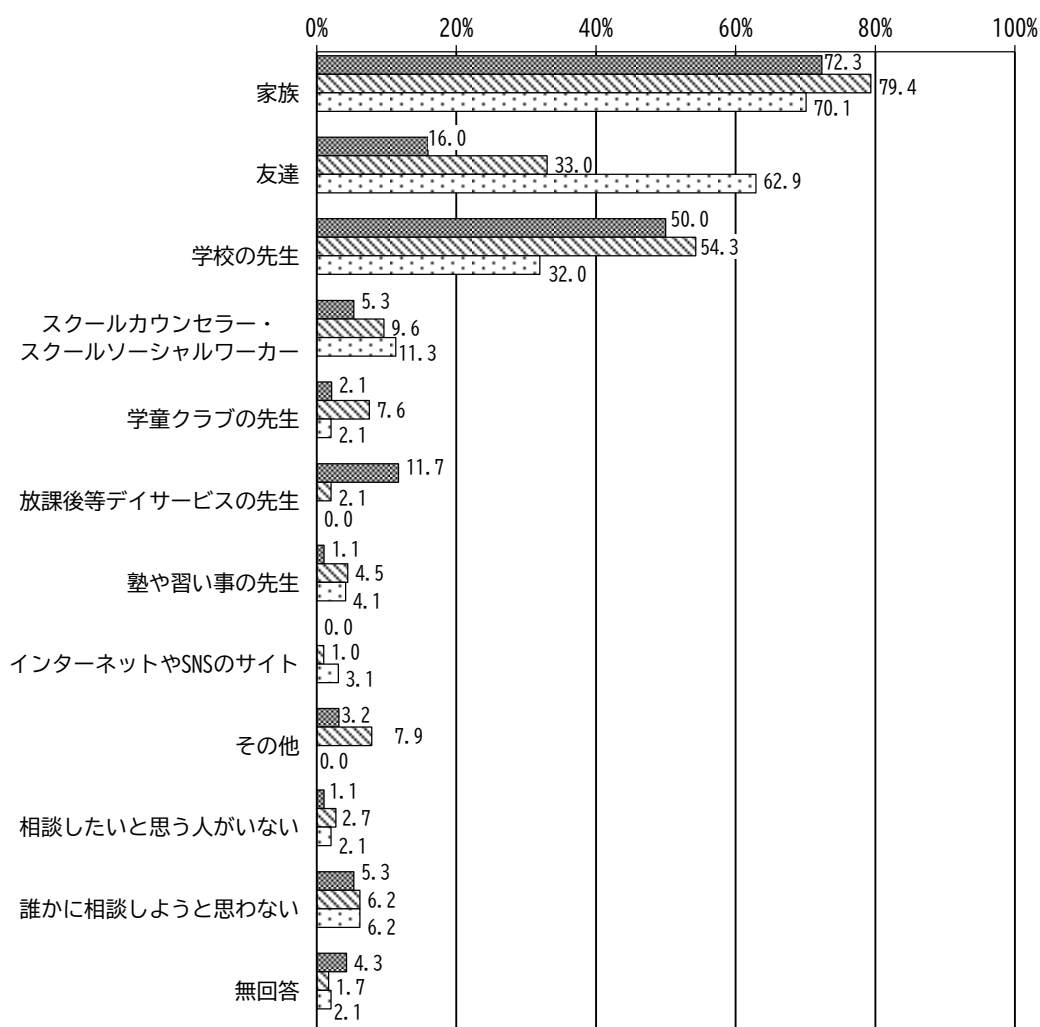
【児童・生徒】 特別支援学級 [問 40]、特別支援教室・難聴言語 [問 40]、通常の学級 [問 10]

設問 学校で困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

特別支援学級【児童・生徒】では、「家族」が72.3%で最も多く、次いで「学校の先生」が50.0%、「友達」が16.0%となっています。

特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】では、「家族」が79.4%で最も多く、次いで「学校の先生」が54.3%、「友達」が33.0%となっています。

通常の学級【児童・生徒】では、「家族」が70.1%で最も多く、次いで「友達」が62.9%、「学校の先生」が32.0%となっています。



■ 特別支援学級【児童・生徒】 (n=94)

▨ 特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】 (n=291)

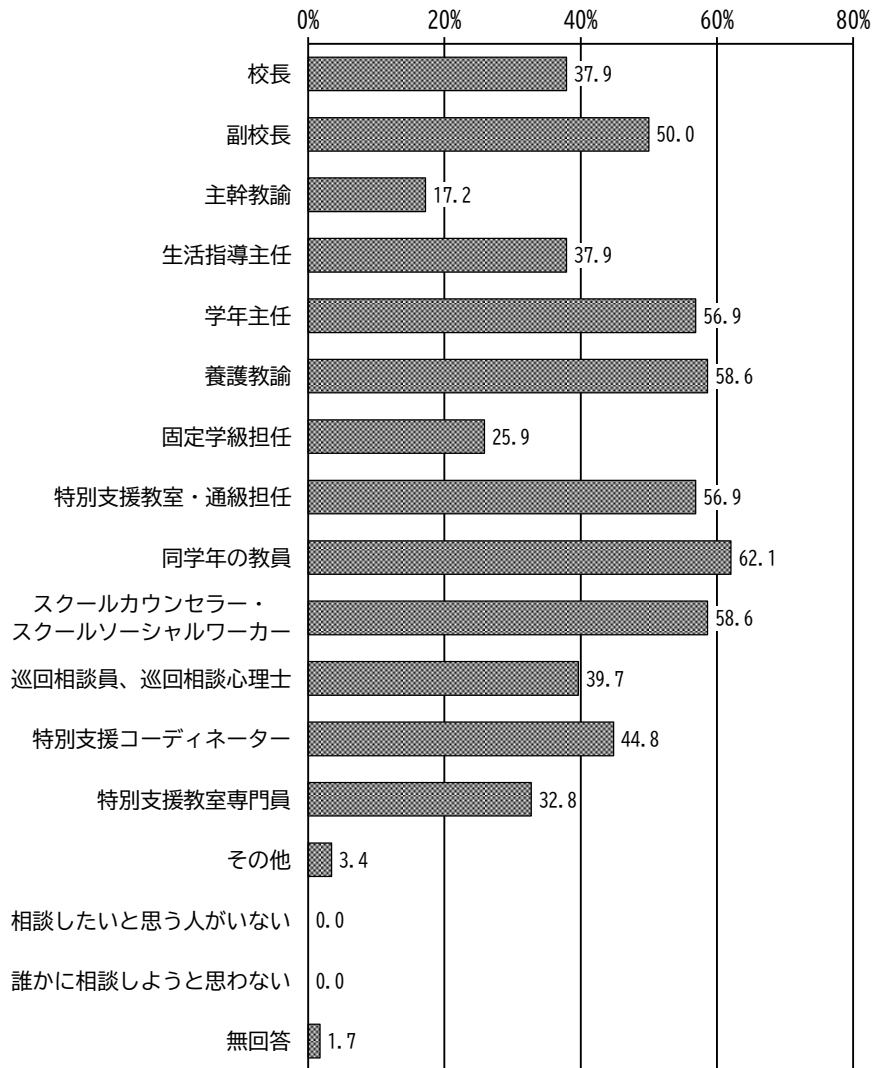
□ 通常の学級【児童・生徒】 (n=97)

【設問連番 51】 指導方法について悩んだ場合、誰に相談しているか

【教員】 [問 25]

設問 特別支援教育における指導方法について悩んだ場合、誰に相談していますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

「同学年の教員」が62.1%で最も多く、次いで「養護教諭」と「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」がそれぞれ58.6%となっています。



■ 【教員】 (n=58)

6 自由意見

【設問連番 52】自由意見

【保護者】特別支援学級 [問 31]、特別支援教室・難聴言語 [問 31]、通常の学級 [問 10]、
特別支援学校 [問 11]

設問 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。

【教員】 [問 26]

設問 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。

【児童・生徒】特別支援学級 [問 41]、特別支援教室・難聴言語 [問 41]、通常の学級 [問 11]

設問 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。

※自由意見については、調査票の自由記述欄に記入された意見内容等を項目別に整理・編集し、件数表示して掲載しています。

【保護者】

①特別支援学級【保護者】

41人から53件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

学校の環境・体制について	17
境界域の子への対応が不十分だと感じる	1
教員の特別支援教育への理解が不足している	8
教員の数が不足している	1
教員への支援の充実が必要だと感じる	1
学校から積極的に特別支援教育の情報を発信してほしい	1
親身な対応がされていないと感じる	1
できる教科は通常の学級と同じ内容にしてほしい	1
普段は配慮されていると感じるが、学校行事になると配慮が不足していると感じる	1
学習の遅れがどの程度か率直に教えてほしい	1
対応に満足・感謝している	2
特別支援学級について	17
境界域の子への対応が不十分だと感じる	4
学級数や設置校数を増やしてほしい	3
自閉症・情緒障がい特別支援学級の指導内容を充実させてほしい	3
通学支援を充実させてほしい	4
障がい重い子どもへの支援が不十分だと感じる	1
きめ細やかな対応が不足している	1
対応に満足・感謝している	1
特別支援教室、難聴言語障がい通級指導学級について	2
特別支援学級の在籍でも通級指導学級に通いたかった	1
利用するのに時間がかかる	1
共同学習・交流授業について	5
回数、内容を充実させてほしい	3
取り組み内容の説明が不足している	1
通常の学級の特別支援学級への理解が不足している	1
副籍交流について	1
回数、内容を充実させてほしい	1
関係機関との連携について	2
放課後等デイサービスとの情報共有が必要	1
関係機関と連携した時の情報を保護者にもフィードバックしてほしい	1
市の体制等について	5
就学相談を充実させてほしい	1
小平市立学校間で方針に差異がある	2
他市と比べて特別支援教育への対応が遅れていると感じる	1
特別支援教育の充実に積極的に取り組んでいないと感じる	1
情報提供・相談先について	1
特別支援教育に関する情報発信が不足している	1
障がい理解教育について	1
子どもの理解を深めるために、まずは保護者（大人）が障がいについて知ることが必要	1
アンケートについて	1
アンケートの結果報告をお願いしたい	1

②特別支援教室・難聴言語【保護者】

138人から234件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

学校の環境・体制について	61
教員の特別支援教育への理解が不足している	8
教員が不足している	3
教員の専門性が不足している	3
ICT機器を活用した支援を充実させてほしい	2
LDへの支援を充実させてほしい	1
クールダウンスペースがほしい	2
子どもたちが充実した学校生活を送れるように環境を整えてほしい	1
その場限りではない、継続した支援をしてほしい	1
学習補助員の充実が必要だと感じる	7
人的支援の充実が必要だと感じる	3
学年が上がると合理的配慮が受けにくくなっていると感じる	1
境界域の子が授業についていけるように配慮してほしい	1
言語聴覚士、作業療法士の配置が必要だと感じる	1
個別の対応を充実させてほしい	1
支援方法について柔軟に対応してほしい	1
専門性のある人材の配置が必要だと感じる	3
特性に応じた教育を行ってほしい	1
読み書き障がいへの対応を充実させてほしい	1
不登校になった時に登校する以外の選択肢があるとよい	1
対応に満足・感謝している	19
特別支援学級について	8
学級数や設置校数を増やしてほしい	7
異なる学級種に在籍する兄弟がいる場合は学区に配慮してほしい	1

特別支援教室・難聴言語障がい通級指導学級について	55
通級の時間を増やしてほしい	8
通級指導の日が休校日のときは振り替えてほしい	4
通級指導を受けている間に授業が進んで困っている	5
特別支援教室の指導内容を在籍学級の担任にも共有してほしい	4
教員が不足している	3
教員の専門性が不足している	3
支援が必要な場合はすぐに利用できるようにしてほしい	3
授業内容を充実させてほしい	1
就学前に特別支援教室の案内がほしかった	1
特別支援教室の担任が毎年変わってしまうので、不安になる	2
活動内容が魅力的ではない	1
原則の指導期間が短いと感じる	1
入室するまでの手続きがわかりにくい	2
きこえとことばの教室に通うための送迎が負担である	1
対応に満足・感謝している	16
共同学習・交流授業について	1
回数、内容を充実させてほしい	1
関係機関との連携について	6
学校と関係機関との連携が不足している	1
就学前施設との連携にこげら就学支援シートが役立ったと感じている	1
教育相談室と学校にもっと連携してほしい	1
就学相談室と学校の連携を充実させてほしい	1
福祉、医療、教育の連携を充実させてほしい	1
連携が不足しているのか何度も同じ話をしなければならないと感じる	1
市の体制等について	16
他市と比べて特別支援教育への対応が遅れていると感じる	3
読み書きスクリーニング検査を全校で実施できるようにしてほしい	2
スピード感をもって特別支援教育を充実させてほしい	1
学校の教員の意見を聞いて学校への支援を充実させてほしい	1
就学前の早期発見、早期支援の体制を充実させてほしい	1
就学相談を充実させてほしい	1
他市と比較して支援施設の数等は不足しているが、その分柔軟な対応がされているとも感じる	1
特別支援教育のニーズ増加に応じた啓発や情報提供をしてほしい	1
就学後も言語訓練相談を利用したかった	1
発達検査を受けるのに時間がかかる	1
負担軽減等の保護者への支援を充実させてほしい	2
対応に満足・感謝している	1
こどもの居場所について	5
4年生以降も学童を利用したい	1
放課後等デイサービスが不足している	4

情報提供・相談先について	19
どのような支援がされているか情報が不足している	3
学校から相談先等に関する情報提供をしてほしい	1
学校を通して連絡しても相談先が対応してくれない	1
学校以外での支援に関する情報に偏りがある	3
境界域の子が受けられる支援についての情報がほしい	1
事例の情報があるとよい	1
自身はとても助かっているのに、困っている保護者に情報が届いてほしいと思う	1
障がいのある子の進学先についての情報提供をしてほしい	3
親自身が発達障害の場合もあるので、親の相談窓口からこどもの支援につなげられたらよいと思う	1
相談先がわからない	3
同じ障がいの子が少ないのか、情報を得にくい	1
同じ特性の子を持つ保護者との交流の場があったらよい	1
特別支援教育や支援内容が網羅された情報提供がされるとよい	1
障がい理解教育について	5
子どもたちに困っている人にやさしくできる心を育ててほしい	1
周りの子から特別な支援を受けることについての理解が得られないときがある	1
障がいのある子と一緒に学ぶ機会が必要だと感じる	1
保護者の障がいへの理解が必要だと感じる	1
保護者や地域の大人が特別支援について学ぶ場がほしい	1
アンケートについて	1
子どもには直接聞き取りをした方がより正確な意見を聴取できると感じた	1
その他	2
ICT教育を充実させる際にリスクの説明も同時に行う必要がある	1
みんなが生きやすい環境になるといいと思う	1

③通常の学級【保護者】

17人から22件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

学校の環境・体制について	3
その場限りではない、継続的な対応をしてほしい	1
進度別学習をもう少し細かくクラス分けしてほしい	1
対応に感謝・満足している	1
特別支援教室・難聴言語障がい通級指導学級について	1
支援が必要な場合はすぐに利用できるようにしてほしい	1
関係機関との連携について	1
保護者が不要ないと判断しても、学校が必要と判断した場合は支援を要請できるとよい	1
市の体制等について	3
小平市としての教育の充実をさせてほしい	1
障がいのある子を育てる家族への支援を充実させてほしい	1
福祉は充実していると思うが、他に投資する必要もあると感じる	1
情報提供・相談先について	5
特別支援教育に関する情報発信が不足している	3
市の特別支援教育の取組内容で知らないことが多い	1
親子で相談できる場所がほしい	1

障がい理解教育について	6
障がいがある子への理解を深めることが必要だと感じる	4
障がい理解のための講座を開いてほしい	2
特別な支援が必要なことについて保護者の理解も必要だと感じる	1
特別支援教室の授業に大人も子どもも見学や参加できる機会がほしい	1
アンケートについて	1
特別支援教育についてよく知らないことが多く、回答が難しいと感じた	1
その他	2
障がいのある子ができる習い事が充実するとよい	1
不登校となる原因やできることはないかを子ども達自身にも考えさせることも必要だと思う	1

④特別支援学校【保護者】

35人から52件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

特別支援学校の環境・体制について	10
教室が不足している	3
入学者が増えたことで、子ども同士のレベルに差が生じていると感じる	1
送迎の負担が大きい	1
対応に感謝・満足している	5
市立学校の環境・体制について	3
インクルーシブ教育の取組に期待している	1
教員の特別支援教育への理解が不足している	1
障がいのある子どもも通常の学級で学べる体制が必要	1
特別支援学級について	2
学級数や設置校数を増やしてほしい	1
教員の特別支援教育への理解が不足している	1
副籍交流について	12
回数、内容が不足している	1
情報提供が不足している	3
保護者の付添なしで実施できるとよい	2
地域指定校で障がいに配慮した教育が行われていると感じた	1
地域指定校の理解を深める必要がある	2
特別支援学級など少人数での交流であれば参加してみたい	1
期待している	1
在籍校の担任と地域指定校の担任の対応に満足・感謝している	1
市の体制等について	3
就学相談を充実させてほしい	1
障がいのある子どもが地域で暮らせる環境ができていない	1
他市と比べて特別支援教育への対応が遅れていると感じる	1
子どもの居場所について	15
放課後等デイサービスが不足している	10
重症心身障がい児や医療的ケアのある子どもの居場所が増えたらよいと思う	2
障がいのある子どもが自由に遊べる場所がほしい	1
利用したい施設に空きがないことが多い	1
学童を充実させてほしい	1

情報提供・相談先について	4
情報提供が不足している	2
児童発達支援センターの充実に期待している	1
保護者に簡単に情報が届くような仕組みがあるといい	1
進学先について	2
高校が遠い	2
その他	1
療育の施設、学校、放課後等デイサービスの対応に満足・感謝している	1

【教員】

19人から28件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

学校の環境・体制について	12
教員への支援や業務負担の軽減が必要だと感じる	5
学習補助員等の人的支援の充実が必要だと感じる	3
専門性の高い人材の配置が必要だと感じる	2
巡回相談の回数を増やしてほしい	1
ネットワーク環境を改善してほしい	1
特別支援学級について	2
教員の特別支援教育への理解が不足している	1
特別支援学級の実態を知りたい	1
学校生活支援シート・個別指導計画について	5
様式の整理が必要だと感じる	4
作成が目的になってしまっていると感じる	1
特別支援教室、難聴言語障がい通級指導学級について	2
申込期限を少し伸ばしてほしい	2
市の体制等について	5
学校の予算を充実させてほしい	1
就学相談を充実させてほしい	1
就学支援委員会の実施方法の整理が必要だと感じる	1
学校によって指導方法が異なるので、小平の目安となるカリキュラムを作成してほしい	1
小平市の特別支援教育推進体制の構築やわかりやすい周知が必要だと感じる	1
障がい理解教育について	2
小平市の特別支援のリーフレットがよいので、全保護者に配付してほしい	1
特別な支援が必要なことについて保護者の理解も必要だと感じる	1

【児童・生徒】

①特別支援学級【児童・生徒】

7人から7件の意見が寄せられた。

学校の環境・体制について	3
もう少し居心地のいい場所にしてほしい	2
いじめをなくしてほしい	1
特別支援学級について	3
学級数や設置校数を増やしてほしい	1
得意な教科はもっと学びたい	1
バスで帰宅したい	1
共同学習・交流授業について	1
参加する際の支援が不足している	1

②特別支援教室・難聴言語【児童・生徒】

31人から42件の意見が寄せられた。なお、1人で2つ以上の意見を記入している場合もあるため、件数は延べ数となる。

学校の環境・体制について	11
クールダウンスペースがほしい	2
パソコンで板書したい	1
学級が楽しいと思えるようにしてほしい	1
漢字テストでLD向けの配慮をしてほしい	1
教室内の物品をそろえて整理整頓してほしい	2
自分に合わせた対応をしてくれていると感じる	1
自分の特性に合わせた対応をしてほしい	1
授業中に意見を言ったり、質問をしたりしにくい	1
要望をできる限り実現してくれる	1
特別支援学級について	1
学級数や設置校数を増やしてほしい	1
特別支援教室・難聴言語障がい特別支援学級について	25
通級の時間を増やしてほしい	10
通級指導の日が休校日のときは振り替えてほしい	2
通級指導を受けている間に授業が進んで困っている	3
みんなと別行動になるので注目を集めるのが嫌だと感じる	1
楽しく通えている	7
特別支援教室で指導を受けてよかった	2
こどもの居場所について	1
発達障害のこどもも気軽に通える遊び場がほしい	1
障がい理解教育について	1
周りの子から特別な支援を受けることについての理解が得られないことがある	1
その他	3
テスト範囲の発表を早めてほしい	1
プログラミングをもっと学びたい	1
吃音の直し方を教えてほしい	1

③通常の学級【児童・生徒】

3人から3件の意見が寄せられた。

共同学習・交流授業について	1
ゴミ拾い体験などがよいと思う	1
障がい理解教育について	1
障がいのある子と関わる場がほしい	1
アンケートについて	1
もう少し詳しくアンケートを実施してほしい	1

Ⅲ 調査票

1 市立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒及び保護者

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査

【市立小・中学校の特別支援学級に在籍するお子様と保護者の方】

<ご回答にあたってのお願い>

- 質問は、問1から問41まであります。このうち、問1から問31は保護者用、問32から問41は児童・生徒用の質問になっています。
- 回答は、それぞれの質問であてはまるものを選んでください。「その他」を選んだ場合は、記入欄に内容を入力してください。
- 回答を中断する場合は、ブラウザを閉じるか終了してください。回答を再開する場合は、前回と同じ環境（パソコン・スマートフォン・タブレットなど）で再度ログインしてください。前回終了したページが開くので、続きを回答してください。
- 回答期限は、令和6年11月24日（日）までとなります。

【保護者用】（問1から問31）

■基本情報

問1 お子さんが在籍している学年をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 小学1年生
2. 小学2年生
3. 小学3年生
4. 小学4年生
5. 小学5年生
6. 小学6年生
7. 中学1年生
8. 中学2年生
9. 中学3年生

問2 お子さんが在籍している学級、または指導を受けている教室・学級をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 知的障がい特別支援学級
2. 自閉症・情緒障がい特別支援学級
3. 特別支援教室
4. 難聴言語障がい特別支援学級

問3 お子さんが、[特別支援学級／特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級]で指導を受けていることで、良かったと感じているところは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. お子さんが自信をもって、楽しく学校に行くようになった

問7 交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問8 学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問9 学校において行われている交流及び共同学習を通じて、学校全体における子どもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問10 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問11 副籍交流の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問12 学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 13 学校において行われている副籍交流を通じて、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 14 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。
(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際に障がいのある方との交流を充実させる
3. その他 ()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支援体制について

問 15 「学校生活支援シート(※)」が活用されていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校生活支援シート：お子さんや保護者の希望を踏まえて、医療や相談窓口などの関係機関と連携して、乳幼児期から学校卒業後まで一貫性のある支援を行う長期的な基本計画です。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 16 学校以外の機関(※)に「学校生活支援シート」の情報共有が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校以外の機関：医療機関、子ども家庭支援センターや教育相談室などの相談機関、放課後等デイサービスや学童クラブなど。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

5. わからない

問 17 「個別指導計画(※)」に基づいた指導や支援が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※個別指導計画：学校生活支援シートを踏まえて、学校が作成する短期的な実行計画です。学校での学習面・生活面の指導目標や指導内容、方法等を具体的に計画し、指導・支援を行います。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 18 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
①「学校生活支援シート」	1	2	3	4	5
②「個別指導計画」	1	2	3	4	5

問 19 「こげら就学支援シート(※)」が活用されたと思いますか。(1つ選ぶ) (小学校の保護者の方のみご回答ください)

※こげら就学支援シート：小学校に入学する際に、家庭や幼稚園、保育園等におけるお子さんの様子や保育の様子、指導内容・方法の工夫や配慮などを小学校に引き継ぐための資料です。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 「こげら就学支援シート」を小学校へ提出していない
6. わからない

問 20 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 21 学校において、合理的配慮(※)の理解・啓発の推進、対応ができていると感じますか。(1つ選ぶ)

※合理的配慮：障がいによる学校での学習面や生活面での困難さを解消するために、必要に応じて提供される個別の配慮や支援（学校の負担になり過ぎない範囲）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 22 ICT 機器（学習者用端末や電子黒板など）を活用した授業や学習支援が充実していると思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

■学校と関係機関との連携について

問 23 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 自宅
2. 祖父母・親戚宅
3. こどもの友人宅
4. 放課後子ども教室
5. 学童クラブ
6. 放課後等デイサービス
7. 児童館や図書館、公民館などの施設
8. 塾や習い事の教室
9. 公園や自然の中で遊べる場所
10. オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
11. その他（ ）
12. わからない

問 24 学校と関係機関（学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）との情報共有ができていますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 25 学校と関係機関（学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）で共有すべきだと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 学校生活支援シート
2. こげら就学支援シート
3. 日々の出来事やその対応方法など
4. その他（ ）
5. 特にない
6. わからない

■相談先について

問 26 お子さんのことで困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 家族
2. 友人や知人
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. かかりつけの医師
6. 児童発達支援センター
7. 子ども家庭支援センター
8. 学童クラブの先生
9. 放課後等デイサービスの先生
10. 塾や習い事の先生
11. インターネットや SNS のサイト
12. その他（ ）
13. 相談したいと思う人がいない
14. 誰かに相談しようと思わない

問 27 保護者の相談先は十分だと思えますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 28 「児童発達支援センター」がどのようなところか知っていますか。（1つ選ぶ）

1. センター名もどのようなところなのかも知っている
2. センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない
3. 知らない

問 29 児童発達支援センターで、お子さんの発達について相談してみたいと思えますか。（1つ選

ぶ)

1. 現在相談している、または、過去に相談したことがある
2. 今後相談してみたいと思う
3. 相談してみたいと思わない
4. わからない

問 30 小平市の特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターとの関係に期待するものはありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 児童・生徒との支援にかかる情報共有
2. 連携・協力体制の構築
3. 不登校や行き渋りの児童・生徒の対応について
4. 発達障害や学習障害の啓発活動
5. その他 ()
6. 特にない

■自由意見

問 31 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。
(自由記述)

【児童・生徒用】(問 32 から問 41)

■共生社会の実現に向けた教育について

問 32 交流及び共同学習を通じて、お互いを知ることができたと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 33 障がいのある子と一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていることは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 授業での交流
2. 運動会や音楽会での交流
3. 移動教室での交流
4. 校外学習や遠足での交流
5. 給食での交流
6. 学校訪問での交流
7. その他 ()
8. 特にない
9. わからない

問 34 副籍交流とはどのようなものか知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 知らない

問 35 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。

(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際に障がいのある方との交流を充実させる
3. その他 ()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支援体制について

問 36 読んだり、書いたりすることが難しいと感じることがありますか。(1つ選ぶ)

1. いつも難しいと感じる
2. ときどき難しいと感じる
3. あまり難しいと感じることはない
4. 難しいと感じることはない
5. わからない

前問で「1. いつも難しいと感じる」または「2. ときどき難しいと感じる」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問 36-1 読んだり、書いたりすることができるように、先生はあなたに合った方法で教えてくれますか。(1つ選ぶ)

1. 教えてくれる
2. 教えてくれない

問 37 あなた自身のことで、学校で学習や生活をする上で先生に特に気にしてほしいことがありますか。(1つ選ぶ)

例) 書くことが苦手で時間がかかってしまうので、板書が授業時間中に終わらない など

1. ある
2. ない

前問で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問 37-1 そのことに対して、先生は助けてくれていますか。(1つ選ぶ)

1. 助けてくれる(具体的に：)
2. 助けてくれない

問 38 ICT 機器（学習者用端末や電子黒板など）を使った授業はわかりやすいと思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

■学校と関係機関との連携について

問 39 放課後、自宅以外にどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 祖父母・親戚の家
2. 友達の家
3. 放課後子ども教室
4. 学童クラブ
5. 放課後等デイサービス
6. 児童館や図書館、公民館などの施設
7. 塾や習い事の教室
8. 公園や自然の中で遊べる場所
9. オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
10. その他（ ）

■相談先について

問 40 学校で困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 家族
2. 友達
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. 学童クラブの先生
6. 放課後等デイサービスの先生
7. 塾や習い事の先生
8. インターネットや SNS のサイト
9. その他（ ）
10. 相談したいと思う人がいない
11. 誰かに相談しようと思わない

■自由意見

問 41 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。
（自由記述）

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

2 特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級に在籍する児童・生徒及び保護者

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査

【特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級に在籍するお子様と保護者の方】

<ご回答にあたってのお願い>

- 質問は、問1から問41まであります。このうち、問1から問31は保護者用、問32から問41は児童・生徒用の質問になっています。
- 回答は、それぞれの質問であてはまるものを選んでください。「その他」を選んだ場合は、記入欄に内容を入力してください。
- 回答を中断する場合は、ブラウザを閉じるか終了してください。回答を再開する場合は、前回と同じ環境（パソコン・スマートフォン・タブレットなど）で再度ログインしてください。前回終了したページが開くので、続きを回答してください。
- 回答期限は、令和6年11月24日（日）までとなります。

【保護者用】（問1から問31）

■基本情報

問1 お子さんが在籍している学年をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 小学1年生
2. 小学2年生
3. 小学3年生
4. 小学4年生
5. 小学5年生
6. 小学6年生
7. 中学1年生
8. 中学2年生
9. 中学3年生

問2 お子さんが在籍している学級、または指導を受けている教室・学級をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 知的障がい特別支援学級
2. 自閉症・情緒障がい特別支援学級
3. 特別支援教室
4. 難聴言語障がい特別支援学級

問3 お子さんが、[特別支援学級／特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級]で指導を受けていることで、良かったと感じているところは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. お子さんが自信をもって、楽しく学校に行くようになった
2. お子さんの特性にあった指導を受け、成長している
3. 将来の進路に向けて、準備をすることができる
4. その他 ()
5. 特にない

問4 特別支援教室及び難聴・言語障がい通級指導学級について、どの程度満足していますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない
①お子さんへの個別の指導	1	2	3	4
②小集団(グループ)での指導	1	2	3	4
③お子さんの成長が見られるようになった	1	2	3	4
④担任の先生に支援内容を伝えてくれる	1	2	3	4
⑤教員が指導内容を具体的に教えてくれたり、家庭でできることを教えてくれる	1	2	3	4

問5 小平市教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組について、どの程度満足していますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	知らない・わからない
①特別支援学級の数や指導内容	1	2	3	4	5
②教員の障がいに関する専門性	1	2	3	4	5
③学習補助員の配置人数	1	2	3	4	5
④特別支援教室の指導時間数や指導内容	1	2	3	4	5
⑤就学・転学相談での説明	1	2	3	4	5
⑥小学校と中学校間での情報共有や連携	1	2	3	4	5

■共生社会の実現に向けた教育について

問6 学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問7 交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問8 学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問9 学校において行われている交流及び共同学習を通じて、学校全体における子どもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問10 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問11 副籍交流の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う

3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 12 学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 13 学校において行われている副籍交流を通じて、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 14 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際に障がいのある方との交流を充実させる
3. その他 ()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支援体制について

問 15 「学校生活支援シート(※)」が活用されていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校生活支援シート：お子さんや保護者の希望を踏まえて、医療や相談窓口などの関係機関と連携して、乳幼児期から学校卒業後まで一貫性のある支援を行う長期的な基本計画です。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 16 学校以外の機関(※)に「学校生活支援シート」の情報共有が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※学校以外の機関：医療機関、子ども家庭支援センターや教育相談室などの相談機関、放課後等デイサービスや学童クラブなど。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 17 「個別指導計画(※)」に基づいた指導や支援が行われていると思いますか。(1つ選ぶ)

※個別指導計画：学校生活支援シートを踏まえて、学校が作成する短期的な実行計画です。学校での学習面・生活面の指導目標や指導内容、方法等を具体的に計画し、指導・支援を行います。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 18 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
①「学校生活支援シート」	1	2	3	4	5
②「個別指導計画」	1	2	3	4	5

問 19 「こげら就学支援シート(※)」が活用されたと思いますか。(1つ選ぶ) (小学校の保護者の方のみご回答ください)

※こげら就学支援シート：小学校に入学する際に、家庭や幼稚園、保育園等におけるお子さんの様子や保育の様子、指導内容・方法の工夫や配慮などを小学校に引き継ぐための資料です。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 「こげら就学支援シート」を小学校へ提出していない
6. わからない

問 20 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う

3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 21 学校において、合理的配慮(※)の理解・啓発の推進、対応ができていると感じますか。(1つ選ぶ)

※合理的配慮：障がいによる学校での学習面や生活面での困難さを解消するために、必要に応じて提供される個別の配慮や支援（学校の負担になり過ぎない範囲）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 22 ICT 機器（学習者用端末や電子黒板など）を活用した授業や学習支援が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

■学校と関係機関との連携について

問 23 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 自宅
2. 祖父母・親戚宅
3. こどもの友人宅
4. 放課後子ども教室
5. 学童クラブ
6. 放課後等デイサービス
7. 児童館や図書館、公民館などの施設
8. 塾や習い事の教室
9. 公園や自然の中で遊べる場所
10. オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
11. その他（ ）
12. わからない

問 24 学校と関係機関（学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）との情報共有ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 25 学校と関係機関（学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）で共有すべきだと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 学校生活支援シート
2. こげら就学支援シート
3. 日々の出来事やその対応方法など
4. その他（ ）
5. 特になし
6. わからない

■相談先について

問 26 お子さんのことで困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 家族
2. 友人や知人
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. かかりつけの医師
6. 児童発達支援センター
7. 子ども家庭支援センター
8. 学童クラブの先生
9. 放課後等デイサービスの先生
10. 塾や習い事の先生
11. インターネットや SNS のサイト
12. その他（ ）
13. 相談したいと思う人がいない
14. 誰かに相談しようと思わない

問 27 保護者の相談先は十分だと思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 28 「児童発達支援センター」がどのようなところか知っていますか。(1つ選ぶ)

1. センター名もどのようなところなのかも知っている
2. センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない
3. 知らない

問 29 児童発達支援センターで、お子さんの発達について相談してみたいと思いますか。(1つ選ぶ)

1. 現在相談している、または、過去に相談したことがある
2. 今後相談してみたいと思う
3. 相談してみたいと思わない
4. わからない

問 30 小平市の特別支援教育を推進するにあたり、学校と児童発達支援センターとの関係に期待するものはありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 児童・生徒との支援にかかる情報共有
2. 連携・協力体制の構築
3. 不登校や行き渋りの児童・生徒の対応について
4. 発達障害や学習障害の啓発活動
5. その他 ()
6. 特にない

■自由意見

問 31 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。
(自由記述)

【児童・生徒用】(問 32 から問 41)

■共生社会の実現に向けた教育について

問 32 交流及び共同学習を通じて、お互いを知ることができたと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 33 障がいのある子と一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていることは何ですか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 授業での交流
2. 運動会や音楽会での交流
3. 移動教室での交流

前問で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問 37-1 そのことに対して、先生は助けてくれていますか。(1つ選ぶ)

1. 助けてくれる(具体的に：)
2. 助けてくれない”

問 38 ICT 機器(学習者用端末や電子黒板など)を使った授業はわかりやすいと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

■学校と関係機関との連携について

問 39 放課後、自宅以外にどのような場所で過ごしていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 祖父母・親戚の家
2. 友達の家
3. 放課後子ども教室
4. 学童クラブ
5. 放課後等デイサービス
6. 児童館や図書館、公民館などの施設
7. 塾や習い事の教室
8. 公園や自然の中で遊べる場所
9. オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)
10. その他()

■相談先について

問 40 学校で困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 家族
2. 友達
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. 学童クラブの先生
6. 放課後等デイサービスの先生
7. 塾や習い事の先生
8. インターネットや SNS のサイト
9. その他()
10. 相談したいと思う人がいない
11. 誰かに相談しようと思わない

■自由意見

問 41 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。

(自由記述)

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

3 通常の学級に在籍する児童・生徒の保護者

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査

【通常の学級に在籍するお子様の保護者の方】

<ご回答にあたってのお願い>

- 質問は、問1から問22まであります。
- 回答は、それぞれの質問であてはまるものを選んでください。「その他」を選んだ場合は、記入欄に内容を入力してください。
- 回答を中断する場合は、ブラウザを閉じるか終了してください。回答を再開する場合は、前回と同じ環境（パソコン・スマートフォン・タブレットなど）で再度ログインしてください。前回終了したページが開くので、続きを回答してください。
- 回答期限は、令和6年11月24日（日）までとなります。

■基本情報

問1 お子さんが在籍している学年をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 小学5年生
2. 中学2年生

■共生社会の実現に向けた教育について

問2 学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っていますか。（1つ選ぶ）

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問3 交流及び共同学習の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問4 学校は、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う

2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問5 学校において行われている交流及び共同学習を通じて、学校全体における子どもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問6 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問7 副籍交流の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問8 学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問9 学校において行われている副籍交流を通じて、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

5. わからない

問 10 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。

(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際に障がいのある方との交流を充実させる
3. その他 ()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支援体制について

問 11 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 12 学校において、合理的配慮(※)の理解・啓発の推進、対応ができていると感じますか。(1つ選ぶ)

※合理的配慮：障がいによる学校での学習面や生活面での困難さを解消するために、必要に応じて提供される個別の配慮や支援(学校の負担になり過ぎない範囲)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 13 ICT 機器(学習者用端末や電子黒板など)を活用した授業や学習支援が充実していると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

■学校と関係機関との連携について

問 14 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 自宅

問4 副せき交流とはどのようなものか知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 知らない

問5 しょうがいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思えますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際にしょうがいのある方との交流をじゅう実させる
3. その他()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支えん体制について

問6 読んだり、書いたりすることがむずかしいと感じることがありますか。(1つ選ぶ)

1. いつもむずかしいと感じる
2. ときどきむずかしいと感じる
3. あまりむずかしいと感じることはない
4. むずかしいと感じることはない
5. わからない

前問で「1. いつもむずかしいと感じる」または「2. ときどきむずかしいと感じる」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問6-1 読んだり、書いたりすることができるように、先生はあなたに合った方法で教えてくれますか。(1つ選ぶ)

1. 教えてくれる
2. 教えてくれない

問7 あなた自身のことで、学校で学習や生活をする上で先生に特に気にしてほしいことがありますか。(1つ選ぶ)

例) 書くことが苦手な時間がかかってしまうので、板書が授業時間中に終わらない など

1. ある
2. ない

前問で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問7-1 そのことに対して、先生は助けてくれていますか。(1つ選ぶ)

1. 助けてくれる(具体的に:)
2. 助けてくれない

問8 ICT機器（学習者用たん末や電子黒板など）を使った授業はわかりやすいと思いますか。（1つ選ぶ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

■学校と関係機関との連携について

問9 放課後、自たく以外にどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 祖父母・親せきの家
2. 友達の家
3. 放課後子ども教室
4. 学童クラブ
5. 放課後等デイサービス
6. 児童館や図書館、公民館などのしせつ
7. じゅくや習い事の教室
8. 公園や自然の中で遊べる場所
9. オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
10. その他（ ）

■相談先について

問10 学校でこまっていることやなやんでいることがあるとき、だれに相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 家族
2. 友達
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. 学童クラブの先生
6. 放課後等デイサービスの先生
7. じゅくや習い事の先生
8. インターネットやSNSのサイト
9. その他（ ）
10. 相談したいと思う人がいない
11. だれかに相談しようと思わない

■自由意見

問11 小平市の特別支えん教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。

（自由記述）

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

5 市立小・中学校に在籍する教員

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査

【市立小・中学校に在籍する教員】

<ご回答にあたってのお願い>

- 質問は、問1から問26まであります。
- 回答は、それぞれの質問であてはまるものを選んでください。「その他」を選んだ場合は、記入欄に内容を入力してください。
- 回答を中断する場合は、ブラウザを閉じるか終了してください。回答を再開する場合は、前回と同じ環境（パソコン・スマートフォン・タブレットなど）で再度ログインしてください。前回終了したページが開くので、続きを回答してください。
- 回答期限は、令和6年11月24日（日）までとなります。

■基本情報

問1 あなたの在籍する学校種をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 小学校
2. 中学校

■共生社会の実現に向けた教育について

問2 交流及び共同学習の取組について、あなたは保護者に対して情報発信ができていると思いますか。（1つ選ぶ）

1. できていると思う
2. どちらかといえでばきていると思う
3. どちらかといえでばできていないと思う
4. できていないと思う
5. 担当学級では交流及び共同学習を実施していない

問3 あなたは、交流及び共同学習を通して、人間関係を築く力を育てる教育ができていると思いますか。（1つ選ぶ）

1. できていると思う
2. どちらかといえでばきていると思う
3. どちらかといえでばできていないと思う
4. できていないと思う
5. 担当学級では交流及び共同学習を実施していない

問4 副籍交流の取組について、あなたは保護者に対して情報発信ができていますか。(1つ選ぶ)

1. できていると思う
2. どちらかといえばできていると思う
3. どちらかといえばできていないと思う
4. できていないと思う
5. 副籍対象の児童・生徒が担当学級にいない

問5 あなたは、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育ができていますか。(1つ選ぶ)

1. できていると思う
2. どちらかといえでばできていると思う
3. どちらかといえばできていないと思う
4. できていないと思う
5. 副籍対象の児童・生徒が担当学級にいない

問6 障がいのある子とない子が同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思えますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 様々な学ぶ機会を設ける
2. 実際に障がいのある方との交流を充実させる
3. その他 ()
4. 特にない
5. わからない

■学校での支援体制について

問7 あなたは、「学校生活支援シート」を活用していますか。(1つ選ぶ)

1. 活用している
2. どちらかといえば活用している
3. どちらかといえば活用していない
4. 活用していない
5. 学校生活支援シートの作成対象となる児童・生徒は担当学級にいない

問8 あなたは、保護者の同意があった場合に学校以外の機関(※)に「学校生活支援シート」の情報共有を行っていると思えますか。(1つ選ぶ)

※学校以外の機関：医療機関、子ども家庭支援センターや教育相談室などの相談機関、学童クラブなど。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

5. 学校生活支援シートの作成対象となる児童・生徒は担当学級にいない

問9 あなたは、「個別指導計画」に基づいた指導や支援を行うことができていると思いますか。

(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 個別指導計画の作成対象となる児童・生徒は担当学級にいない

問10 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。(それぞれについて1つ選ぶ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	作成対象となる児童・生徒は担当学級にいない
①「学校生活支援シート」	1	2	3	4	5
②「個別指導計画」	1	2	3	4	5

※この質問は、小学校低学年の担任教員のみご回答ください。(それ以外の方は、次の質問にお進みください。)

問11 あなたは、「こげら就学支援シート」を活用していますか。(「こげら就学支援シート」が提出されている児童についてお答えください。)(1つ選ぶ)

1. 活用している
2. どちらかといえば活用している
3. どちらかといえば活用していない
4. 活用していない

問12 あなたは、読み書きに困難のある児童・生徒に対して十分な指導ができていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 読み書きに困難のある児童・生徒は担当学級にいない

問13 あなたは、読み書きに困難がある児童・生徒にどのような配慮を行っていますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. ICT 機器の活用

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

問 19 学校と関係機関（学童クラブ、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）で共有すべきだと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 学校生活支援シート
2. こげら就学支援シート
3. 日々の出来事やその対応方法など
4. その他（ ）
5. 特にない
6. わからない

問 20 普段、どのような関係機関と連携していますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 就学前の保育・教育施設（幼稚園、保育園、認定こども園など）
2. 特別支援学校
3. 医療機関
4. 児童発達支援センター
5. 子ども家庭支援センター
6. 教育相談室
7. 放課後等デイサービス
8. 学童クラブ
9. その他（ ）
10. 特に連携していない

問 21 普段、放課後等デイサービスとの連携や情報共有はどのくらいの頻度で行っていますか。（1つ選ぶ）

1. 週に1回以上
2. 月に1～3回
3. 各学期に数回
4. 年に数回
5. 特にしていない
6. 放課後等デイサービスを利用している児童・生徒は担当学級にいない

前問で「1.」～「4.」を選んだ方にお聞きします。（それ以外の方は、次の質問にお進みください。）

問 21-1 放課後等デイサービスとの連携や情報共有はどのような方法で行っていますか。（あてはまるものすべて選ぶ）

1. 会議

6 小平市内在住で小平及び小金井特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査

【小平市内在住で小平特別支援学校または小金井特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者の方】

<ご回答にあたってのお願い>

- 質問は、問1から問11まであります。
- 回答は、それぞれの質問であてはまるものを選んでください。「その他」を選んだ場合は、記入欄に内容を入力してください。
- 回答を中断する場合は、ブラウザを閉じるか終了してください。回答を再開する場合は、前回と同じ環境（パソコン・スマートフォン・タブレットなど）で再度ログインしてください。前回終了したページが開くので、続きを回答してください。
- 回答期限は、令和6年11月24日（日）までとなります。

■基本情報

問1 お子さんが在籍している学年をお答えください。（1つ選ぶ） ★必須回答

1. 小学1年生
2. 小学2年生
3. 小学3年生
4. 小学4年生
5. 小学5年生
6. 小学6年生
7. 中学1年生
8. 中学2年生
9. 中学3年生

問2 小平市教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組について、どの程度満足していますか。（それぞれについて1つ選ぶ）

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	知らない・わからない
①特別支援学級の数や指導内容	1	2	3	4	5
②就学・転学相談での説明	1	2	3	4	5

■共生社会の実現に向けた教育について

問3 小平市立学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。(1つ選ぶ)

1. 知っている
2. どちらかといえば知っている
3. どちらかといえば知らない
4. 知らない

問4 副籍交流の取組について、副籍を置く小平市立学校からの情報発信がされていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問5 小平市立学校は、副籍交流を通して、人間関係を築く力を育てる教育を進めていると思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

■学校と関係機関との連携について

問6 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。(あてはまるものすべて選ぶ)

1. 自宅
2. 祖父母・親戚宅
3. こどもの友人宅
4. 放課後子ども教室
5. 放課後等デイサービス
6. 児童館や図書館、公民館などの施設
7. 塾や習い事の教室
8. 公園や自然の中で遊べる場所
9. オンライン空間 (SNS、オンラインゲームなど)
10. その他 ()
11. わからない

■相談先について

問7 お子さんのことで困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。(あて

はまるものすべて選ぶ)

1. 家族
2. 友人や知人
3. 学校の先生
4. スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
5. かかりつけの医師
6. 児童発達支援センター
7. 子ども家庭支援センター
8. 放課後等デイサービスの先生
9. 塾や習い事の先生
10. インターネットや SNS のサイト
11. その他 ()
12. 相談したいと思う人がいない
13. 誰かに相談しようと思わない

問8 保護者の相談先は十分だと思いますか。(1つ選ぶ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問9 「児童発達支援センター」がどのようなところか知っていますか。(1つ選ぶ)

1. センター名もどのようなところなのかも知っている
2. センター名は聞いたことがあるが、どのようなところなのかは知らない
3. 知らない

問10 児童発達支援センターで、お子さんの発達について相談してみたいと思いますか。(1つ選ぶ)

1. 現在相談している、または、過去に相談したことがある
2. 今後相談してみたいと思う
3. 相談してみたいと思わない
4. わからない

■自由意見

問11 小平市の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。
(自由記述)

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました

小平市の特別支援教育に関するアンケート調査報告書

令和7年4月発行

編集・発行：小平市教育委員会教育部指導課

〒187-8701

東京都小平市小川町二丁目 1333 番地

電話番号 042 (312) 1214 (直通)

FAX 042 (346) 9578

電子メール shido@city.kodaira.lg.jp